

令和 2 年度実施

**西条市の教育に関するアンケート調査
報告書（小学 6 年生保護者向け調査）**

令和 3 年 2 月

西条市経営戦略部政策企画課

目 次

1 本調査の概要	1
2 基本情報	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) お住まいの地区	3
3 学校教育について	4
(1) 小学校がどのようなところであるべきか	4
(2) 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度	6
(3) (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策	9
(4) 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの	11
(5) 未来の小学校にお子様が通う場合の考え方	14
(6) 進学希望の中学校（中等教育学校）	16
4 図書館について	18
(1) 小学6年生における図書館の利用状況	18
(2) 小学6年生における図書館の利用環境に対する満足度	19
(3) 小学6年生が主に利用している図書館	21
(4) 小学6年生が図書館を利用した主な目的	22
(5) 図書館に関連して今後力を入れるべき点	24
5 公民館について	27
(1) 保護者における公民館の利用状況	27
(2) 保護者における公民館の利用環境に対する満足度	29
(3) 保護者が公民館活動を通じて身に付けた知識・技術	30
(4) 保護者が公民館に期待する事業	32
6 地域文化・歴史文化について	36
(1) 小学6年生の芸術文化に対する興味関心	36
(2) 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度	38
(3) 小学6年生におけるふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度	42
(4) 小学6年生におけるふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度	44
(5) 小学6年生におけるふるさとの先人に対する知識	45
7 参考資料（アンケート用紙）	48

1 本調査の概要

（１）調査の目的

本調査は、令和２年度が本市の教育行政における根本的な方針となる「西条市教育大綱」を改訂する年度にあたるため、市民の皆さまのご意見を将来の西条市の教育行政の方向性に反映させることを目的として実施しました。

（２）調査の方法と実施時期

この調査は、市内 25 の市立小学校に 6 年生児童が在学中である保護者の方を対象に実施しました。具体的には、令和 2 年 11 月 13 日に市役所から各小学校宛に調査票を発送し、各小学校から児童 1 名につき 1 通の調査票を保護者宛に配布した上で、12 月 4 日までに児童を通じて再び担任の先生へ調査票を提出いただく方法を採用しました。

（３）調査票の回収状況

本調査はすべての対象者に調査票を配布する全数調査の方式を採用しています。

令和 2 年 5 月 1 日現在の本市における小学 6 年生児童は 980 名であり、欠席や転校を理由に若干の差異が生じている可能性が否定できませんが、仮に対象者数を 980 名とします。そのうち、回収した調査票は 900 通、最終回収率は概算で 91.8%となったことから、本調査の信頼度は極めて高いということが言えます。

（４）調査票の内容

送付した調査票は文末に掲載しています。

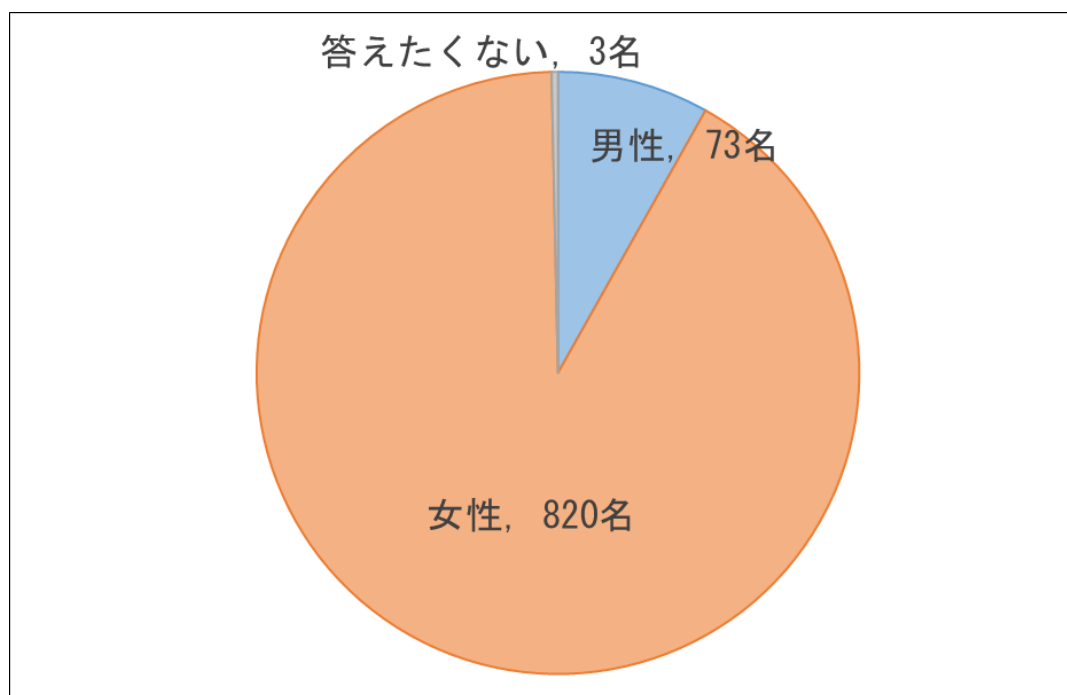
（５）その他

各図表のデータ処理にあたりましては、当該質問項目に対して無回答であった方を除いて処理を行っていますので、必ずしも合計値と回収した調査票数が一致するとは限りません。また、構成比率につきましても、それぞれの項目ごとの構成比を小数点以下第 2 位で四捨五入していますので、必ずしも構成比の合計値が 100%になるとは限りません。

2 基本情報

(1) 性別

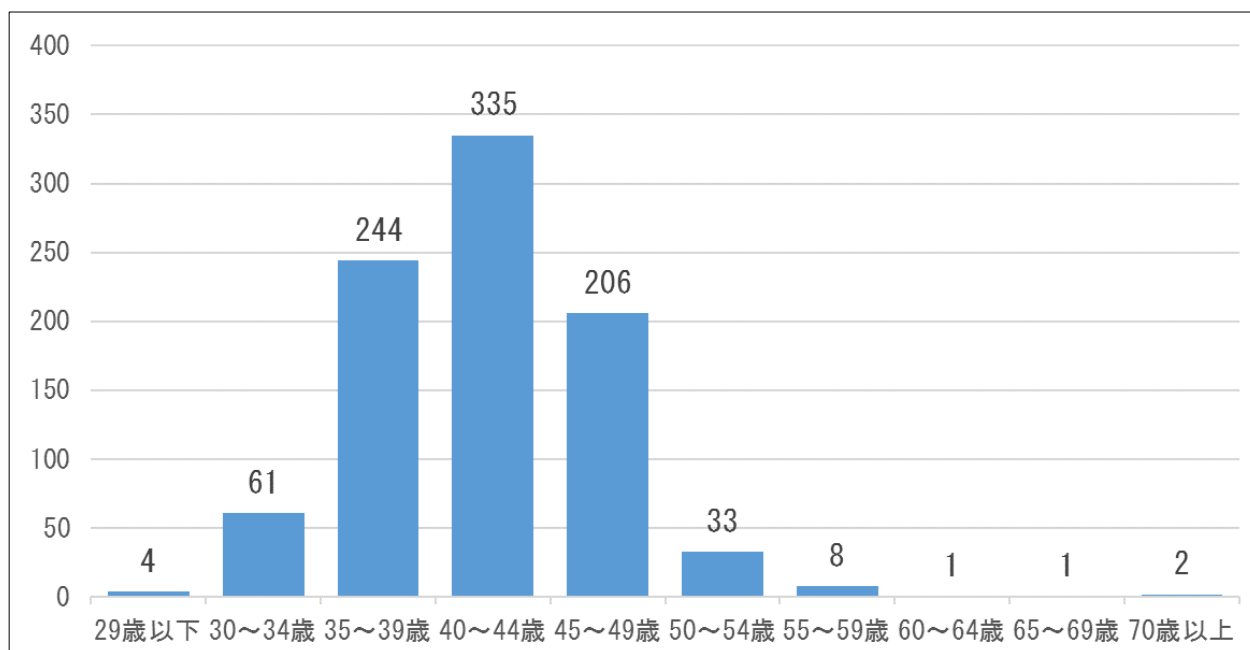
図表 2-1 によると、回答者のうち男性は 73 名、女性は 820 名、答えたくないが 3 名となりました。



図表 2 - 1 回答者の性別 (N = 896)

(2) 年齢

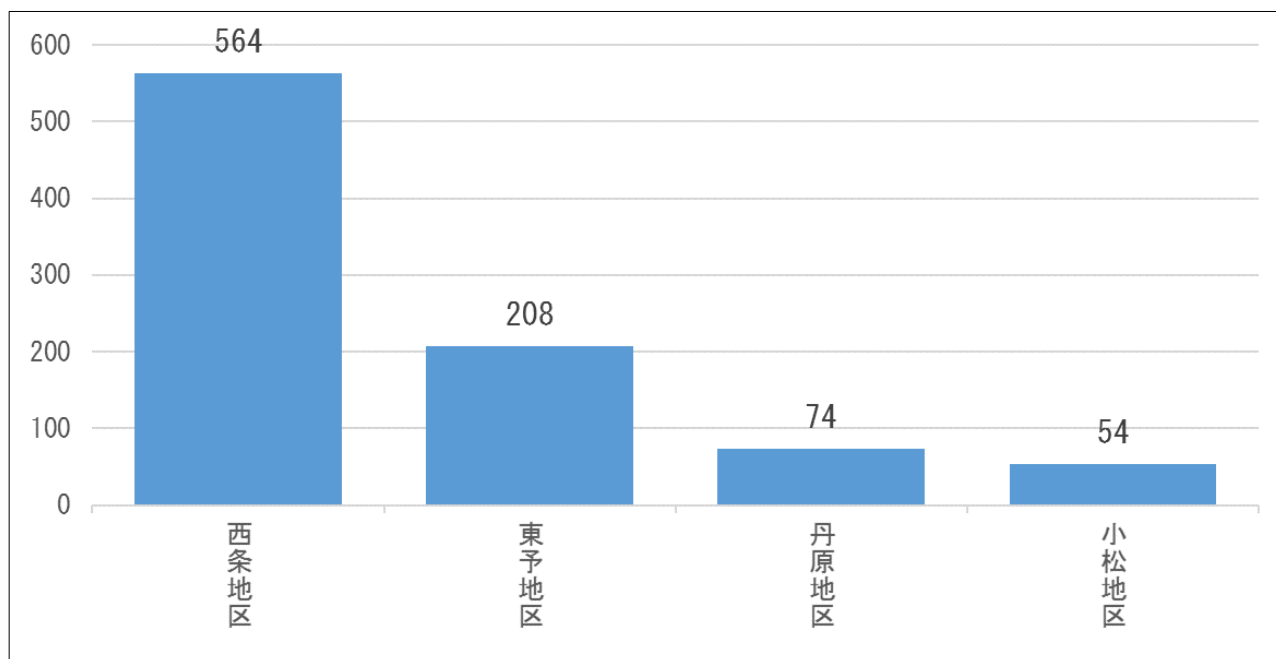
図表 2-2 によると、回答者は 35 歳から 49 歳の間で多くなりました。



図表 2 - 2 回答者の年齢 (N = 895)

（３）お住まいの地区

図表 2-3 によると、回答者は西条地区が最も多く、次いで東予地区、丹原地区、小松地区となりました。地区ごとに違いがありますが、本調査は概ね市内 25 の市立小学校に小学 6 年生が通学されている保護者の意見がバランスよく反映されています。



図表 2－3 回答者のお住まいの地区（N＝900）

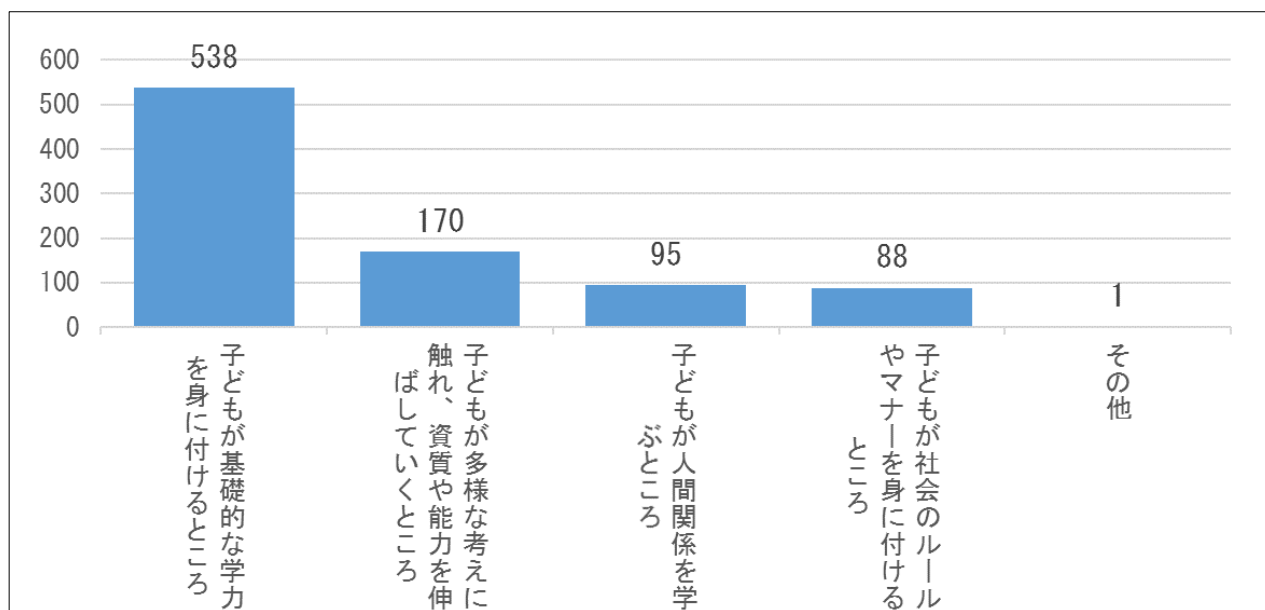
3 学校教育について

(1) 小学校がどのようなところであるべきか

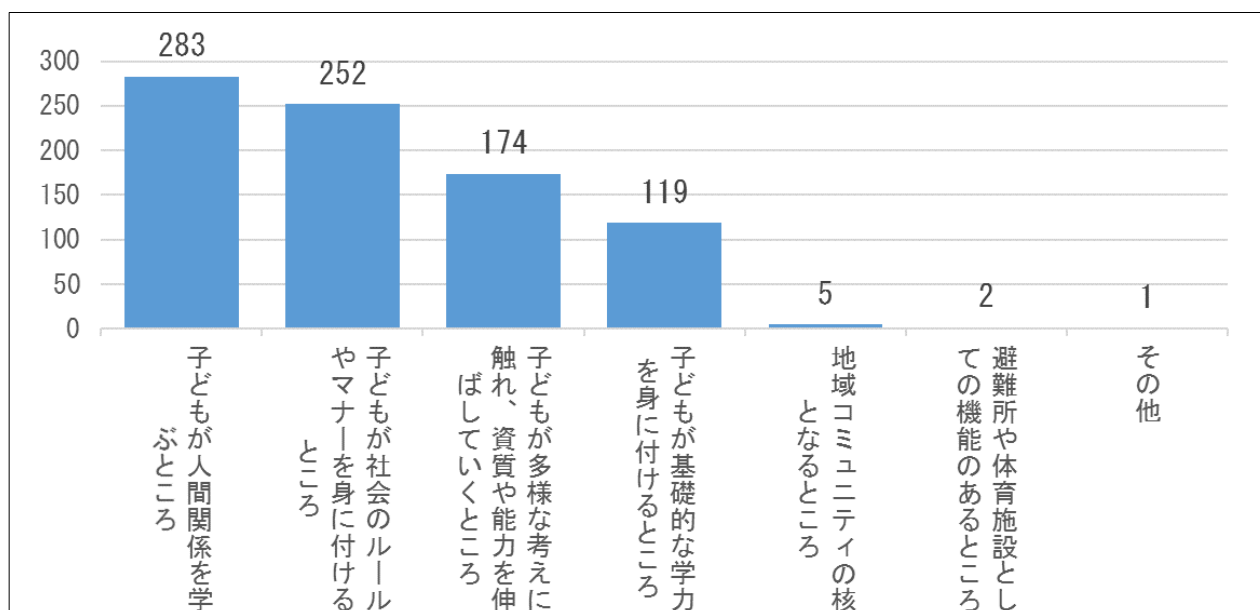
【結果概要】

- 小学校が子どもの基礎学力、人間関係形成能力、社会ルールなどを学ぶ場としてあるべきと感じている方が多い一方で、地域コミュニティや避難所など、小学校としての副次的機能を期待する方が少ない傾向がみられました。(図表 3-1、3-2 参照)
- お住まいの地区や児童を通学させる小学校の規模に関係なく、小学校が子どもの基礎学力を身に付ける場として感じている方の比率が高くなりました。(図表 3-3、3-4 参照)

第1選択では「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-2 によると、第2選択では「子どもが人間関係を学ぶところ」「子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ」と回答した方が多くなりました。

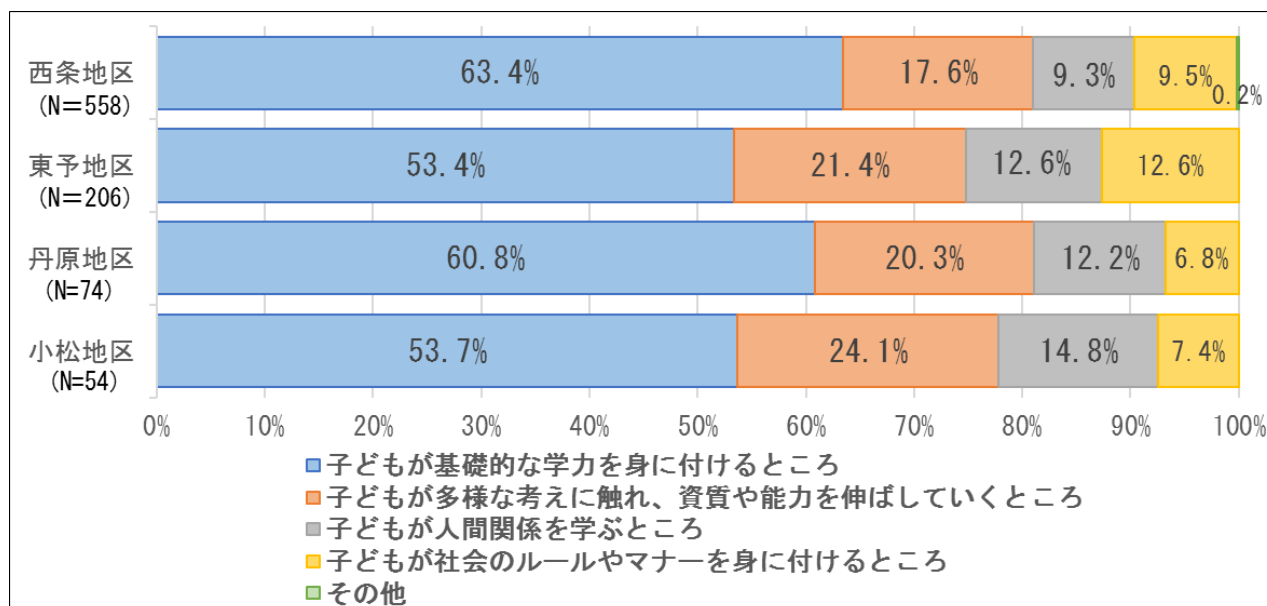


図表 3-1 小学校がどのようなところであるべきか（第1選択・単純集計）（N=892）



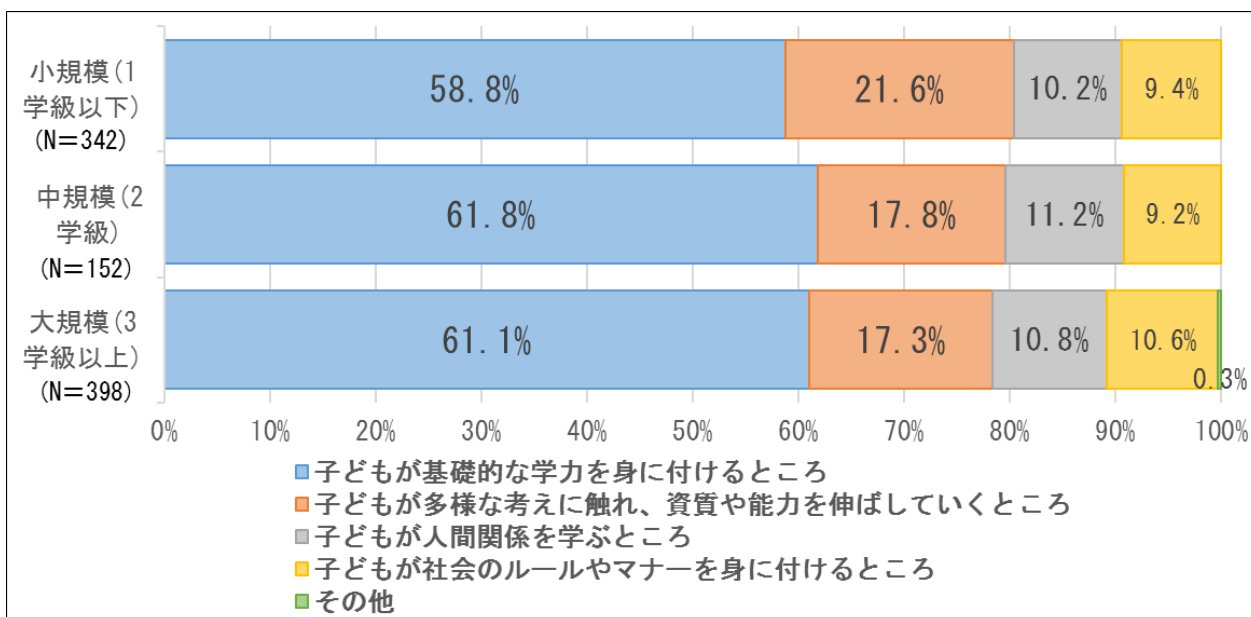
図表 3-2 小学校がどのようなところであるべきか（第2選択・単純集計）（N = 836）

図表 3-3 によると、お住まいの地区別に回答内容に大きな差異は生じず、すべての地区で「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が高くなりました。



図表 3-3 小学校がどのようなところであるべきか（お住まいの地区別）

図表 3-4 によると、すべての規模の小学校を通じて大きな違いがみられず、「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が最も高くなりました。



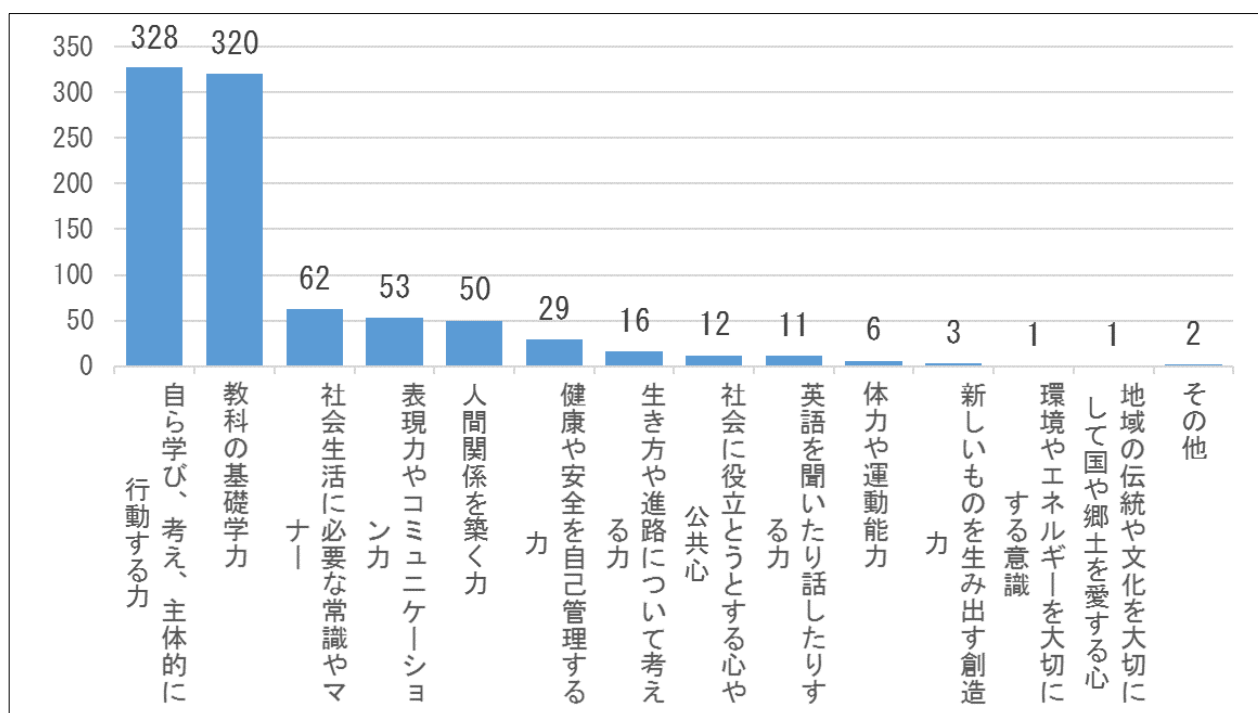
図表 3-4 小学校がどのようなところであるべきか（児童を通学させる小学校の6年生規模別）

（2）小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度

【結果概要】

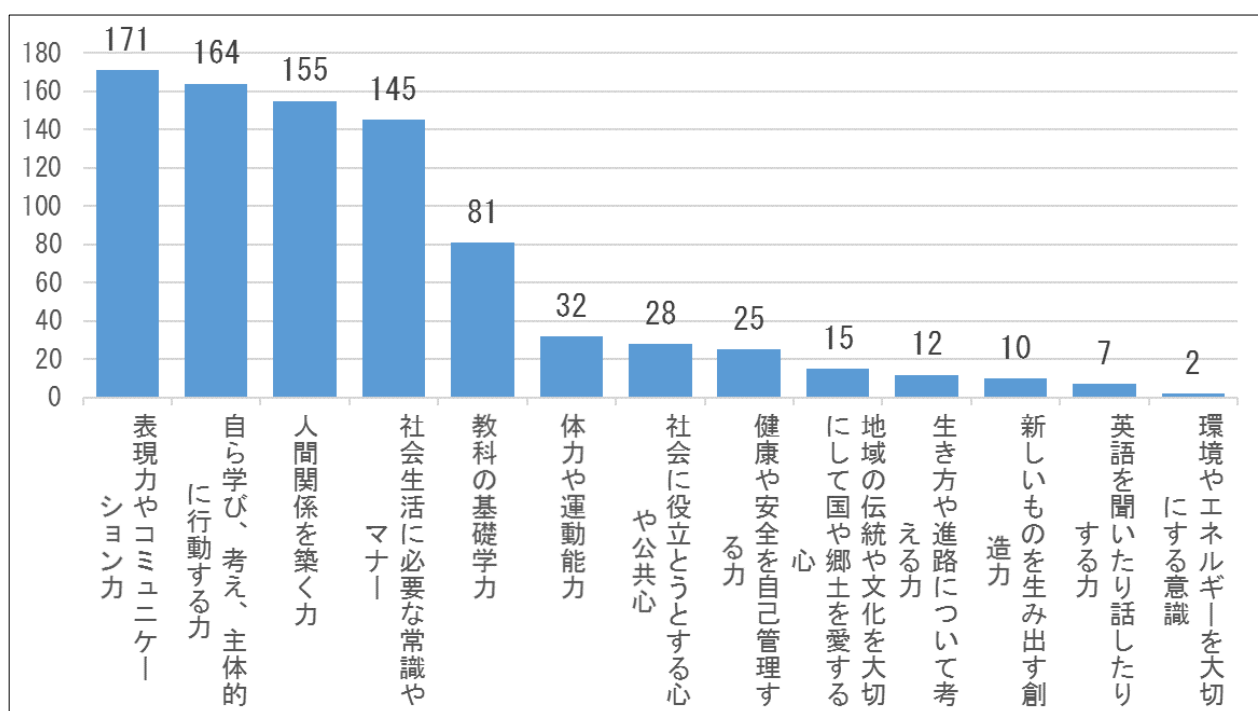
- 子どもが自ら考え、主体的に行動する力を身に付けることを最も大切にしつつ、子どもの基礎学力を身に付けることも大切だとする傾向がみられました。（図表 3-5、3-6 参照）
- お住まいの地区別や児童を通学させる小学校の規模別に大きな違いはみられませんでした。（図表 3-7、3-8 参照）

図表 3-5 によると、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」「教科の基礎学力」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-6 によると、第 2 選択では「表現力やコミュニケーション力」「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した方が多くなりました。



図表 3-5 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第1選択・単純集計）

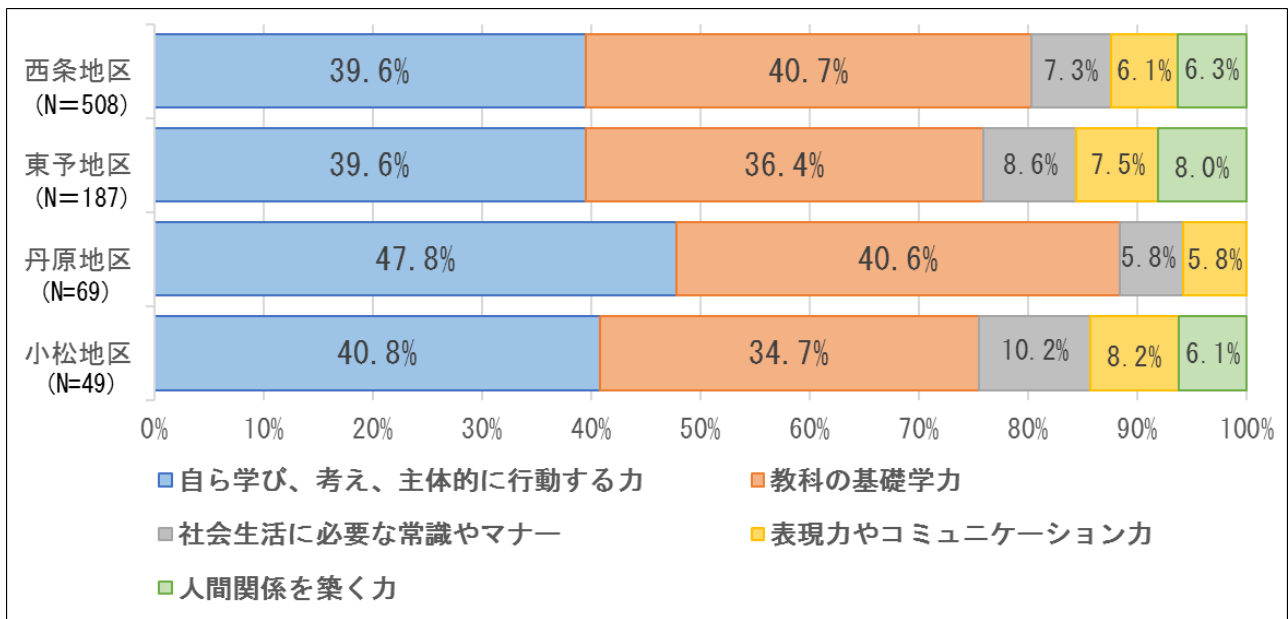
(N=894)



図表 3-6 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第2選択・単純集計）

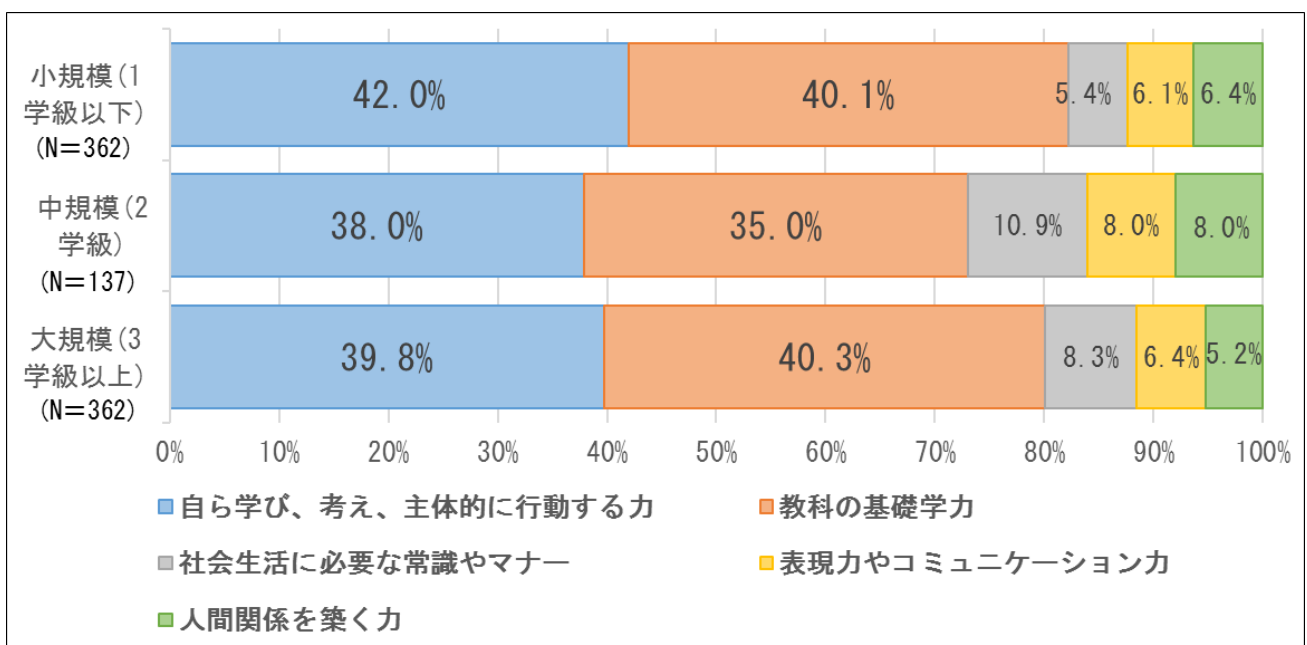
(N=847)

図表 3-7 によると、西条地区で「教科の基礎学力」と回答した比率が最も高くなる一方で、東予地区、丹原地区、小松地区では「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が最も高くなりました。



図表 3-7 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度
(第1選択上位5項目・お住まいの地区別)

図表 3-8 によると、小学校の規模によって大きな違いはみられませんが、大規模（1 学年 3 クラス以上）で「教科の基礎学力」、中規模（1 学年 2 クラス以上）と小規模（1 学年 1 クラス以下）で「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が最も高くなりました。



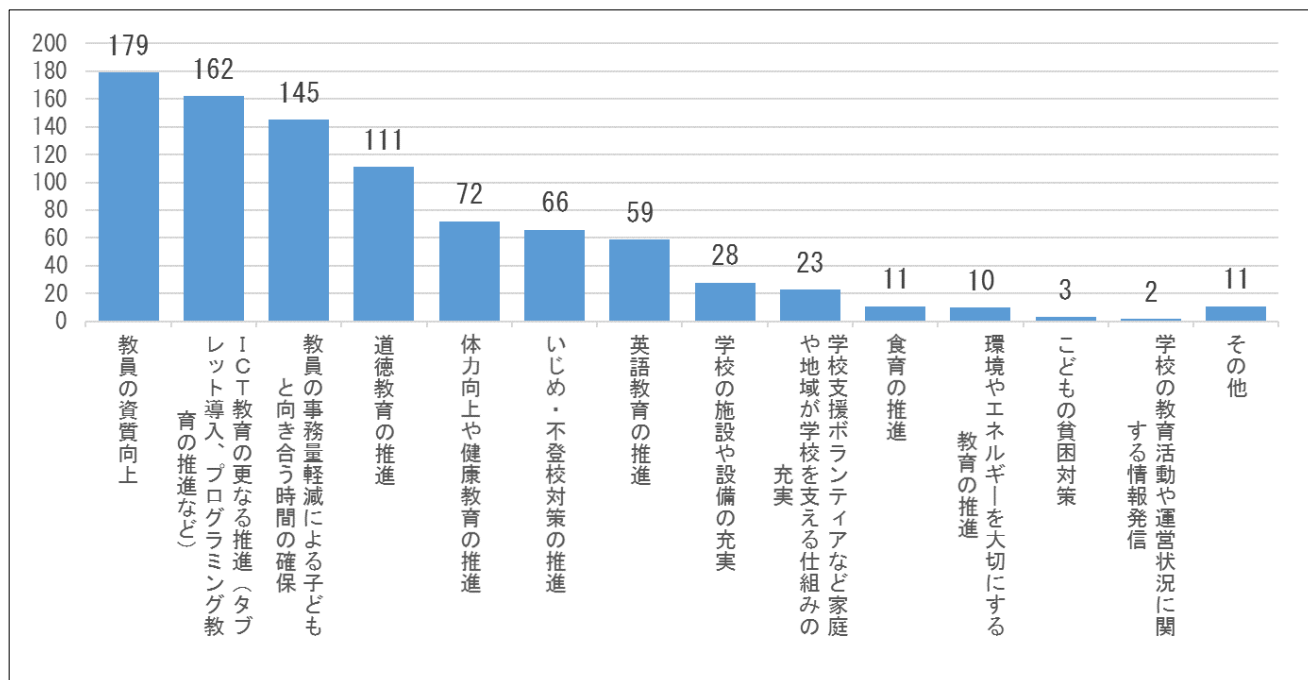
図表 3-8 小学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度
(第1選択上位5項目・児童を通学させる小学校の6年生規模別)

(3)(2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策

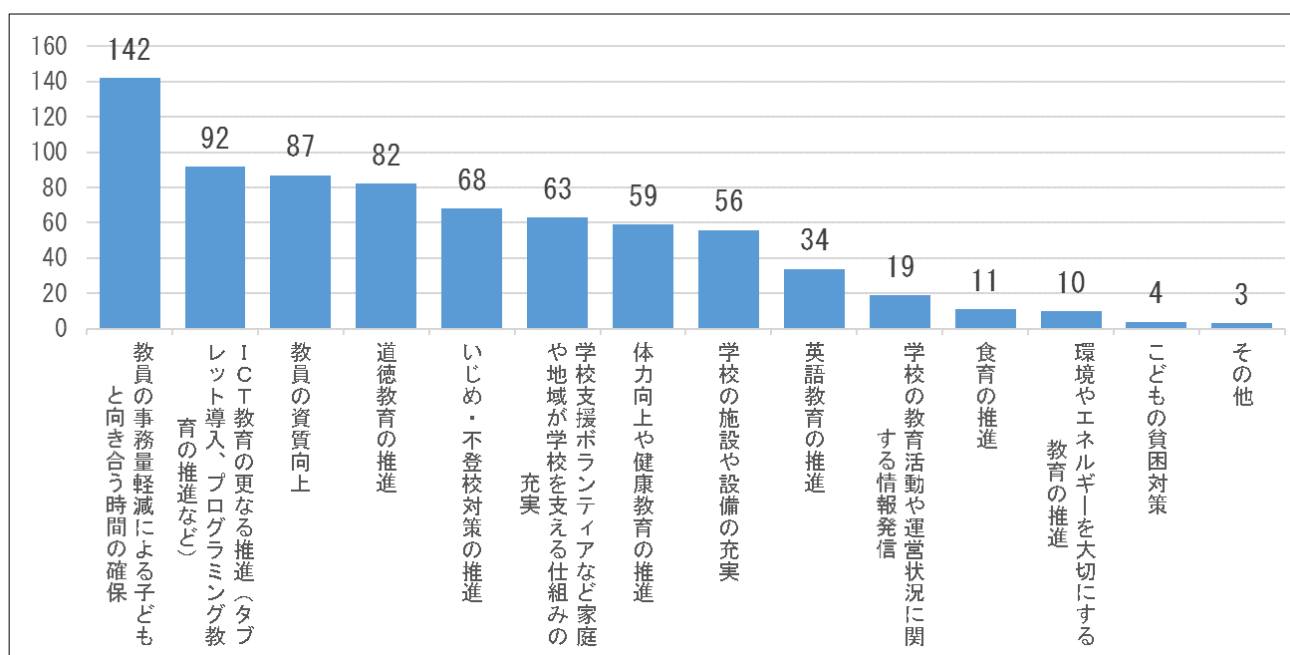
【結果概要】

- 全体を通じ、教員の資質向上や教員の事務量軽減などの教員の育成や働き方改革に力を入れるべき意見と、ICT 教育を推進するべきとする意見が多くみられました。(図表 3-9、3-10 参照)
- お住まいの地区別にみると、他地区と比較して丹原地区で今後力を入れるべき施策に対する意見が異なる傾向がみられました。(図表 3-11 参照)
- 児童を通学させる小学校の規模が大きくなるにつれて、教員の資質向上を望む比率が高くなる中、中規模や小規模の小学校では、ICT 教育の更なる推進を求める傾向がみられました。(図表 3-12 参照)

図表 3-9 によると、「教員の資質向上」と回答した方が最も多くなり、次いで「ICT 教育の更なる推進(タブレット導入、プログラミング教育の推進など)」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-10 によると、第2 選択では「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」と回答した方が最も多くなり、次いで「ICT 教育の更なる推進(タブレット導入、プログラミング教育の推進など)」と回答した方が多くなりました。

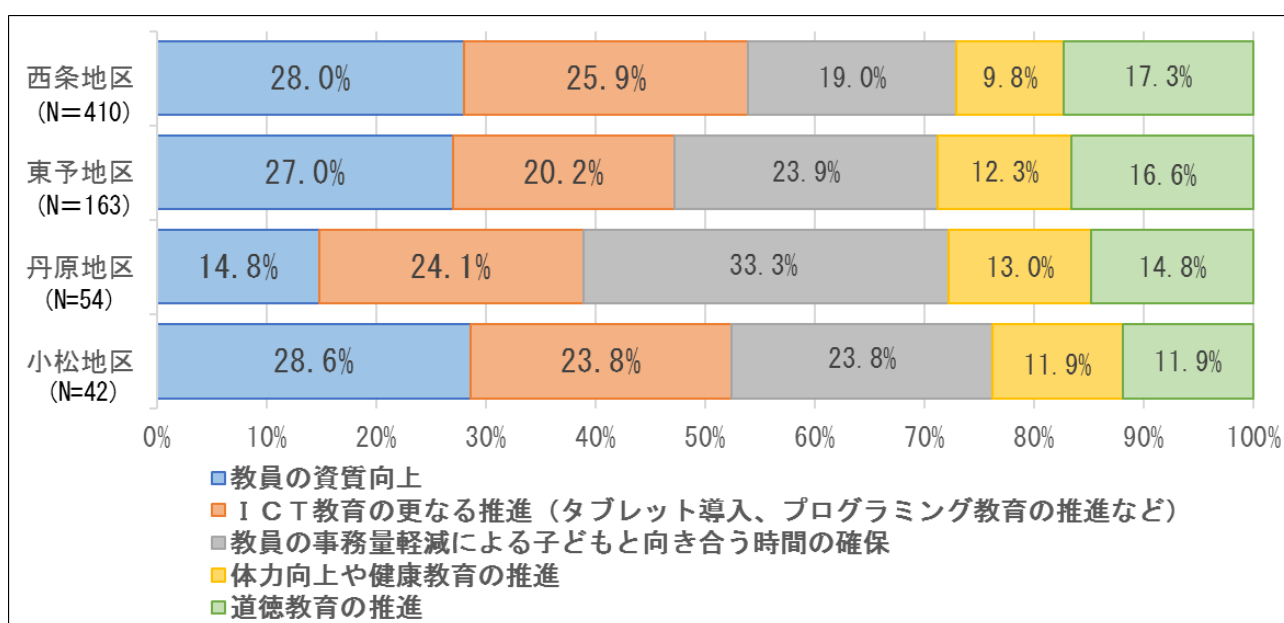


図表 3-9 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第1 選択・単純集計) (N = 882)



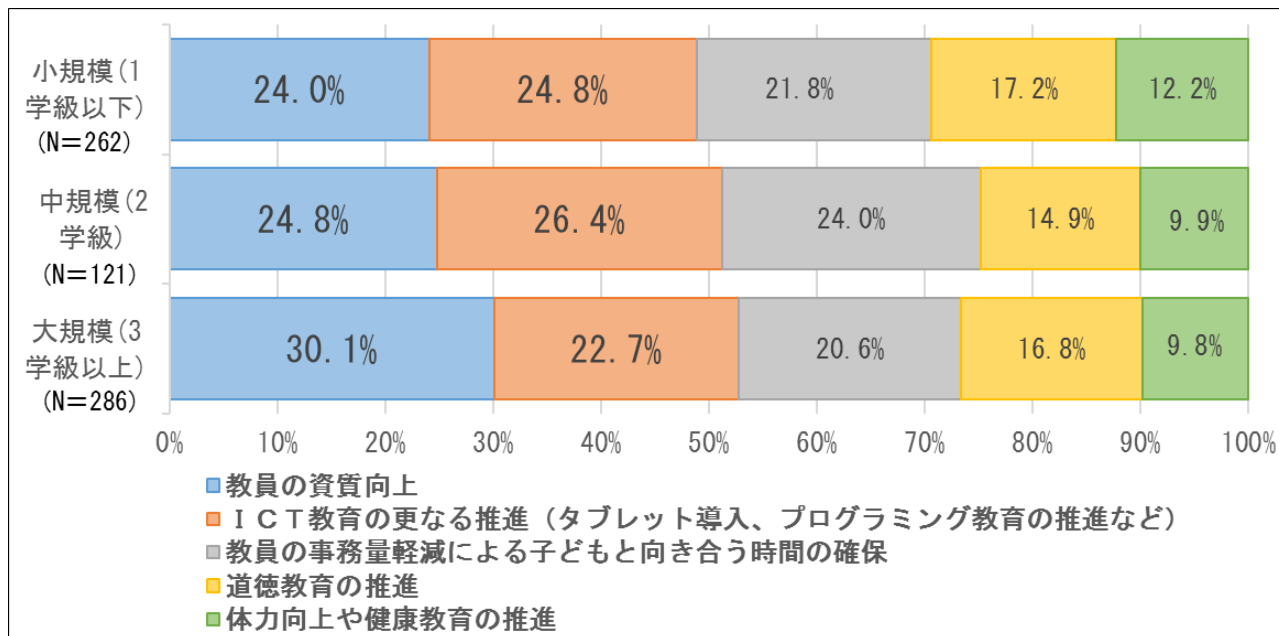
図表 3-10 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第2選択・単純集計) (N=730)

図表 3-11 によると、西条地区、東予地区、小松地区で「教員の資質向上」と回答した比率が最も高くなり、丹原地区では「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」と回答した比率が最も高くなりました。



図表 3-11 (2) で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
(第1選択上位5項目・お住まいの地区別)

図表 3-12 によると、中規模（1 学年 2 クラス以上）と小規模（1 学年 1 クラス以下）の小学校で「ICT 教育の更なる推進（タブレット導入、プログラミング教育の推進など）」と回答した比率が最も高くなり、大規模（1 学年 3 クラス以上）の小学校では「教員の資質向上」と回答した比率が最も高くなりました。



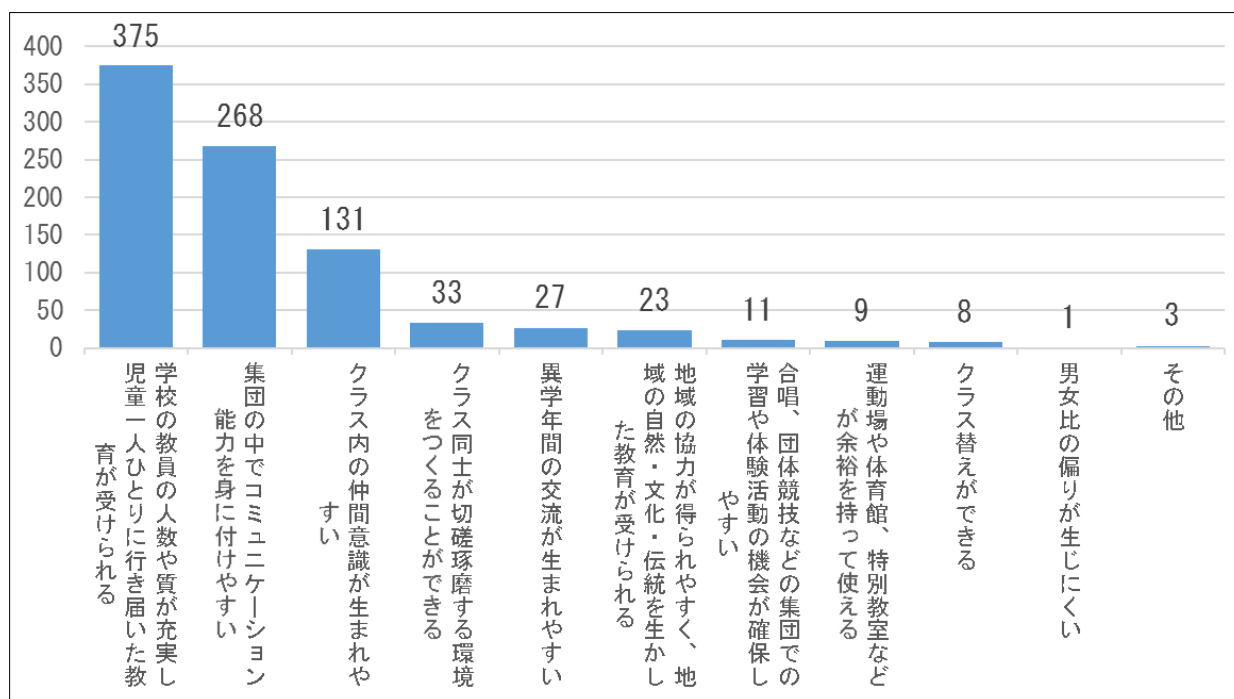
図表 3-12 （2）で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
（第1選択上位5項目・児童を通学させる小学校の6年生規模別）

（4）小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの

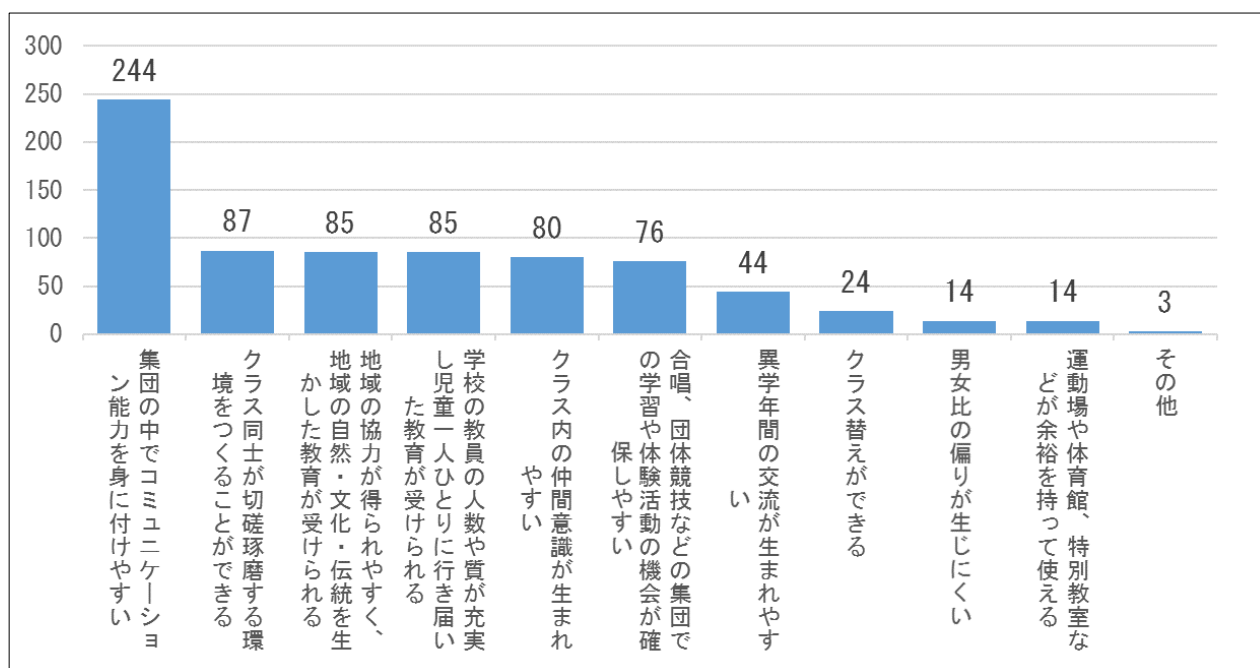
【結果概要】

- 教員の人数や質が充実することに伴う児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる環境を望む声が多くなる一方で、クラス内の仲間意識が生まれやすい環境や集団の中のコミュニケーション能力を身に付ける環境など、集団の中で学び合うことの重要性を意識した回答も多くなりました。（図表 3-13、3-14 参照）
- お住まいの地区、児童を通学させる小学校の規模別に大きな違いはみられませんでした。（図表 3-15、3-16 参照）

図表 3-13 によると、「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した方が最も多くなり、次いで「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-14 によると、第2選択では「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることのできる」と回答した方が多くなりました。

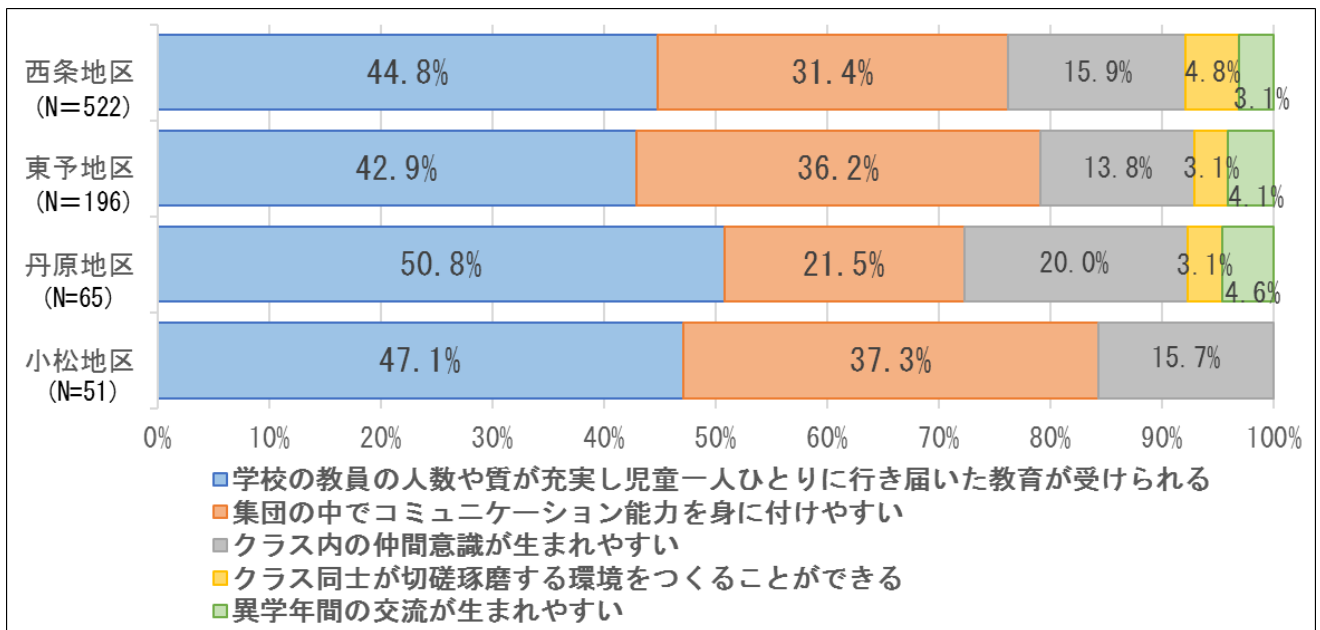


図表 3－13 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第1選択・単純集計）
(N=889)



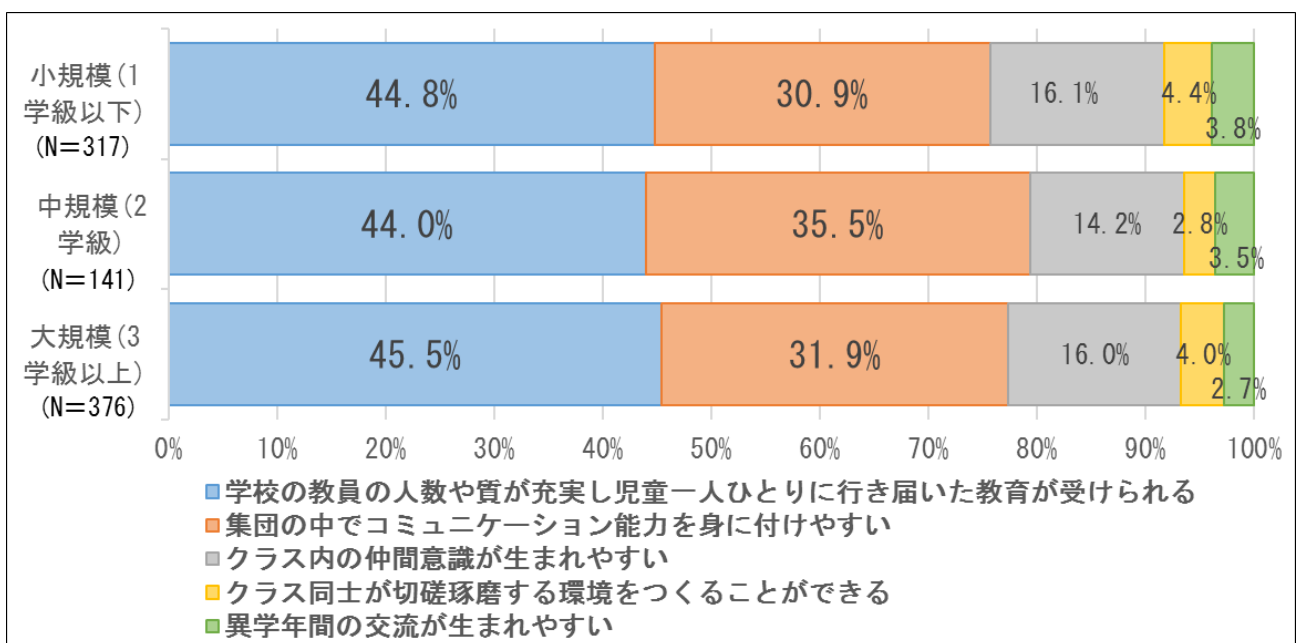
図表 3－14 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第2選択・単純集計）
(N=756)

図表 3-15 によると、地区別に回答内容に大きな差は生じず、すべての地区で「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなり、次いで「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した比率が高くなりました。



図表 3－15 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの
(第1選択上位5項目・お住まいの地区別)

図表 3-16 によると、小学校の規模別で回答内容に大きな差異は生じず、「学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなり、次いで「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した比率が高くなりました。



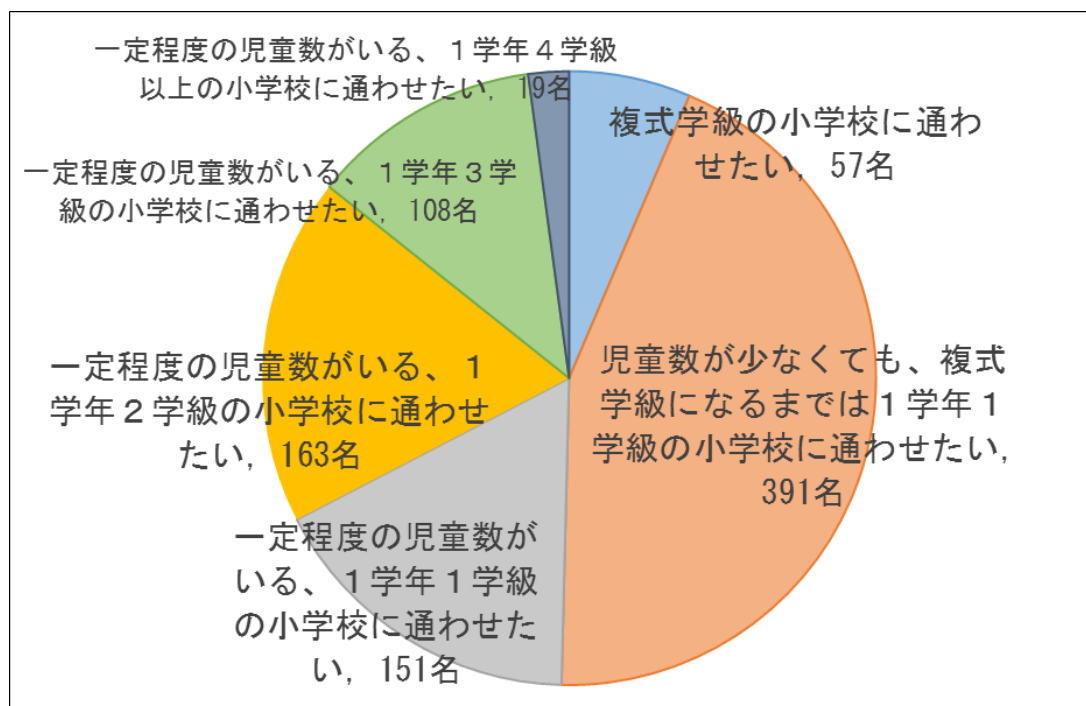
図表 3－16 小学校での学習環境を考える上で重視すべきもの
(第1選択上位5項目・児童を通学させる小学校の6年生規模別)

(5) 未来の小学校にお子様を通う場合の考え方

【結果概要】

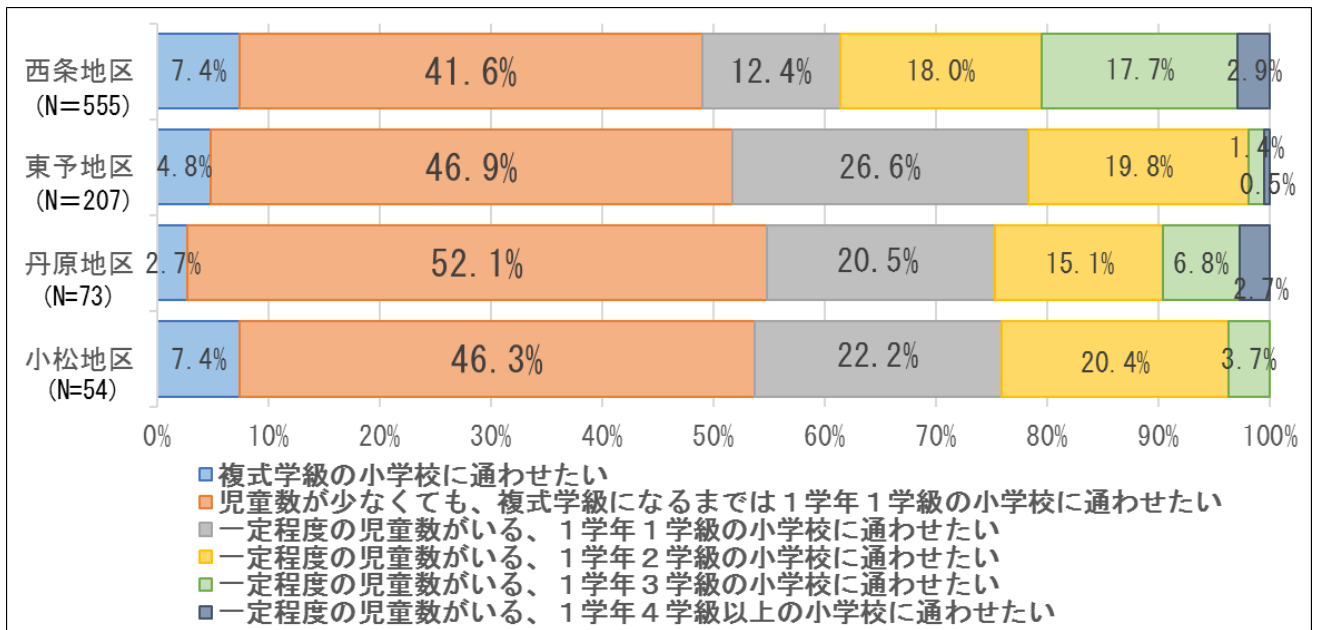
- 1 学級あたりの児童数の多い少ないに関係なく、1 学年 1 学級以上の学校に通わせたいとする考え方が多くみられました。(図表 3-17 参照)
- 小規模な小学校で「児童数が少なくても、複式学級になるまでは 1 学年 1 学級の小学校に通わせたい」と回答した比率が最も高くなる一方で、「複式学級の小学校に通わせたい」と回答した比率が大規模や中規模の小学校と比較して低くなりました。たとえ小規模な小学校であったとしても、保護者は複式学級と 1 学年 1 学級との間に大きな違いを感じている傾向がみられました。(図表 3-19 参照)

図表 3-17 によると、「児童数が少なくても、複式学級になるまでは 1 学年 1 学級の小学校に通わせたい」と回答した方が最も多くなり、次いで「一定程度の児童数がある 1 学年 2 学級の小学校に通わせたい」と回答した方が多くなりました。



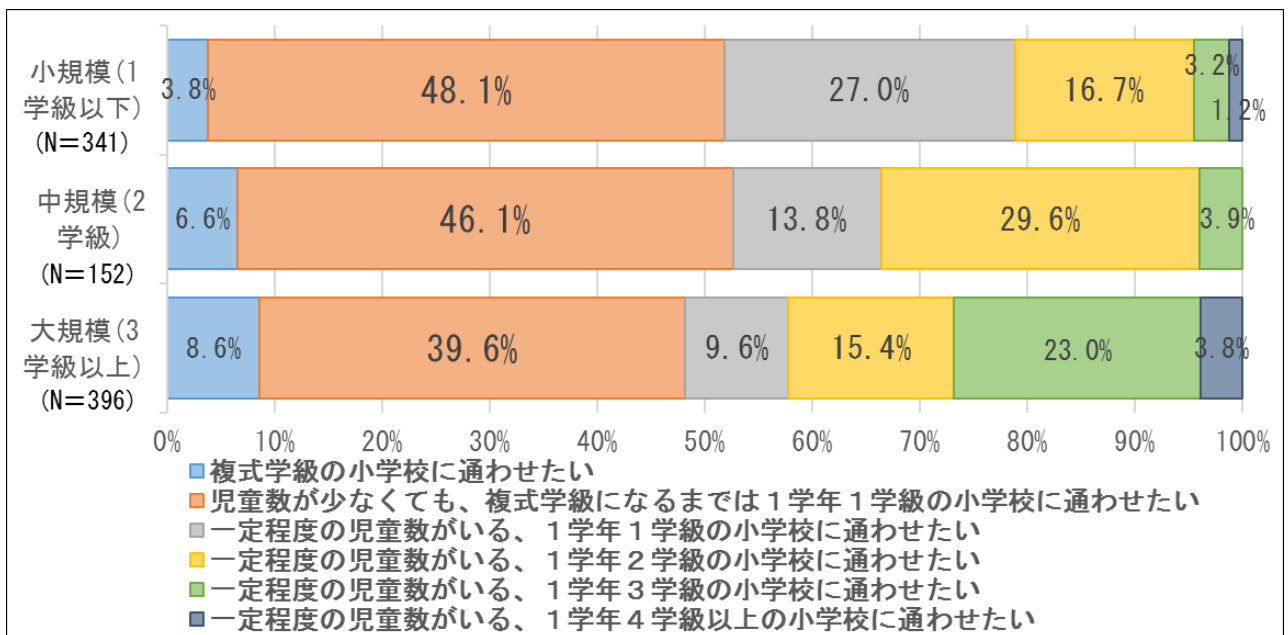
図表 3-17 未来の小学校にお子様を通う場合の考え方 (単純集計) (N=889)

図表 3-18 によると、すべての地区で「児童数が少なくても、複式学級になるまでは 1 学年 1 学級の小学校に通わせたい」と回答した比率が最も高くなりました。また、他地区と比較し、西条地区では「一定程度の児童数がある 1 学年 2 学級の小学校に通わせたい」と回答した比率が高くなり、東予地区、丹原地区、小松地区では、「一定程度の児童数がある 1 学年 1 学級の小学校に通わせたい」と回答した比率が次いで高くなる傾向がみられました。



図表 3－18 未来の小学校にお子様が通う場合の考え方（お住まいの地区別）

図表 3-19 によると、すべての規模の小学校で「児童数が少なくても、複式学級になるまでは1学年1学級の小学校に通わせたい」と回答した比率が最も高くなりましたが、小学校の規模が小さくなるにつれて、規模の小さい小学校に通わせたいと回答した比率が高くなる傾向がみられました。一方で、複式学級については、小学校の規模が大きくなるにつれて、回答した比率が高くなる傾向がみられました。



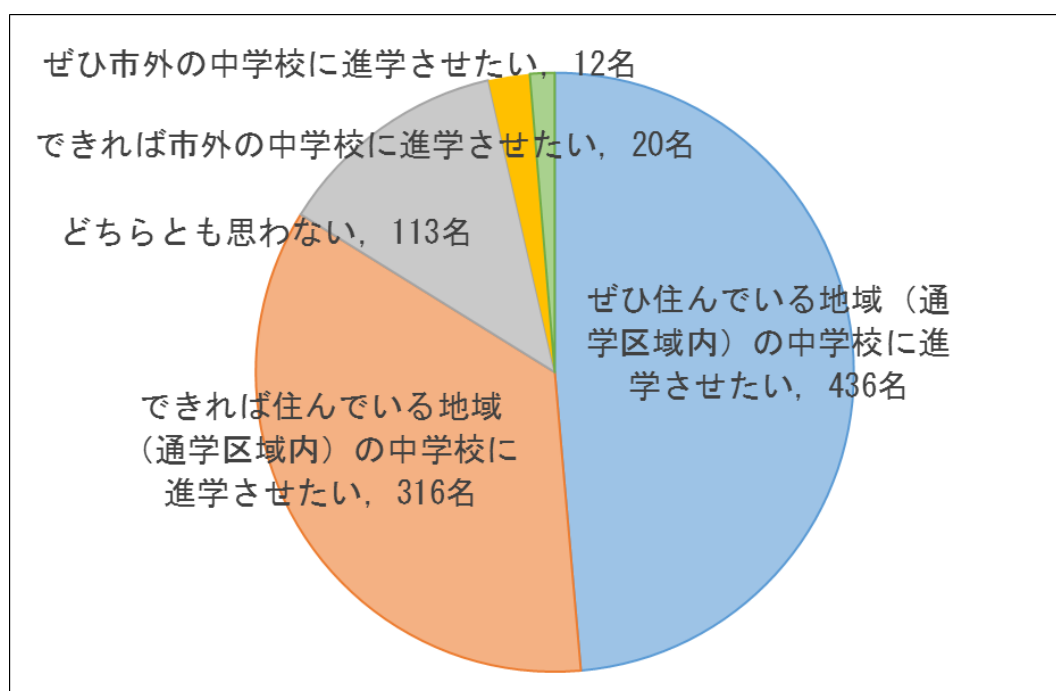
図表 3－19 未来の小学校にお子様が通う場合の考え方
（児童を通学させる小学校の6年生規模別）

(6) 進学希望の中学校（中等教育学校）

【結果概要】

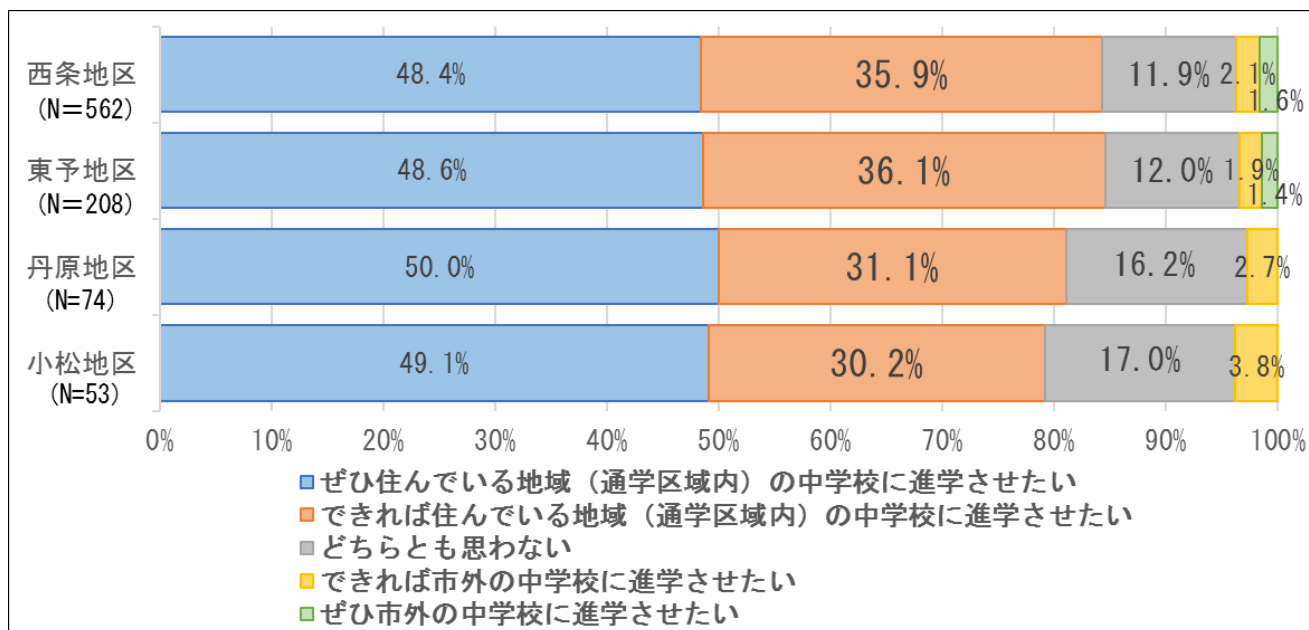
- 「ぜひ住んでいる地域（通学区域内）の中学校に進学させたい」「できれば住んでいる地域（通学区域内）の中学校に進学させたい」と回答した方が全体の 8 割強となり、「ぜひ市外の中学校に進学させたい」「できれば市外の中学校に進学させたい」と回答した方が圧倒的に少なくなりました。一方で、「どちらとも思わない」と回答した方が全体の 1 割強となっており、市内および市外のどちらの中学校に進学するという明確な意思を有していない小学 6 年生も一定程度みられる結果となりました。（図表 3-20 参照）
- お住まいの地区別や小学校の規模別に大きな差異はみられませんでした。（図表 3-21、3-22 参照）

図表 3-20 によると、「ぜひ住んでいる地域（通学区域内）の中学校に進学させたい」と回答した方が最も多くなり、次いで「できれば住んでいる地域（通学区域内）の中学校に進学させたい」と回答した方が多くなりました。「できれば市外の中学校に進学させたい」「ぜひ市外の中学校に進学させたい」と回答した方は、全体の 5%程度となりました。



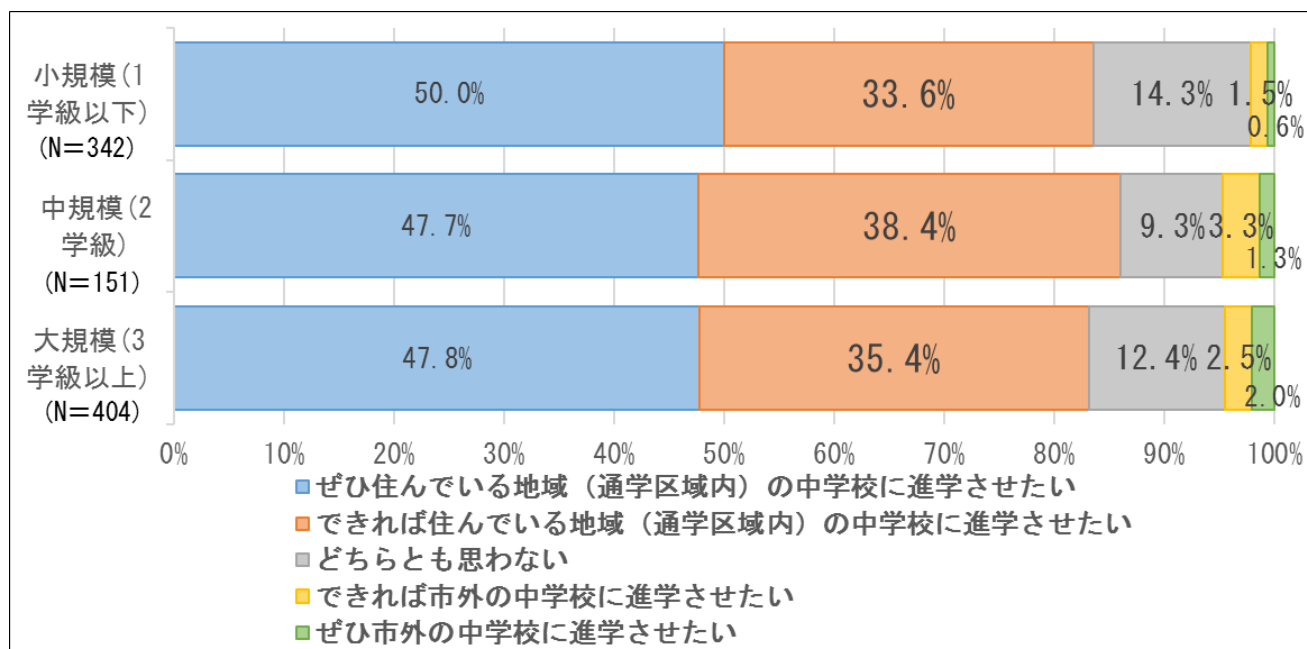
図表 3-20 進学希望の中学校（中等教育学校）（単純集計）（N=897）

図表 3-21 によると、お住まいの地区別に回答内容に大きな差異は生じず、すべての地区で「ぜひ住んでいる地域（通学区域内）の中学校に進学させたい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「できれば住んでいる地域（通学区域内）の中学校に進学させたい」と回答した比率が高くなりました。



図表 3－2 1 進学希望の中学校（中等教育学校）（お住まいの地区別）

図表 3-22 によると、小学校の規模別に回答内容に大きな差は生じず、「ぜひ住んでいる地域（通学区域内）の中学校に進学させたい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「できれば住んでいる地域（通学区域内）の中学校に進学させたい」と回答した比率が高くなりました。



図表 3－2 2 進学希望の中学校（中等教育学校）（児童を通学させる小学校の6年生規模別）

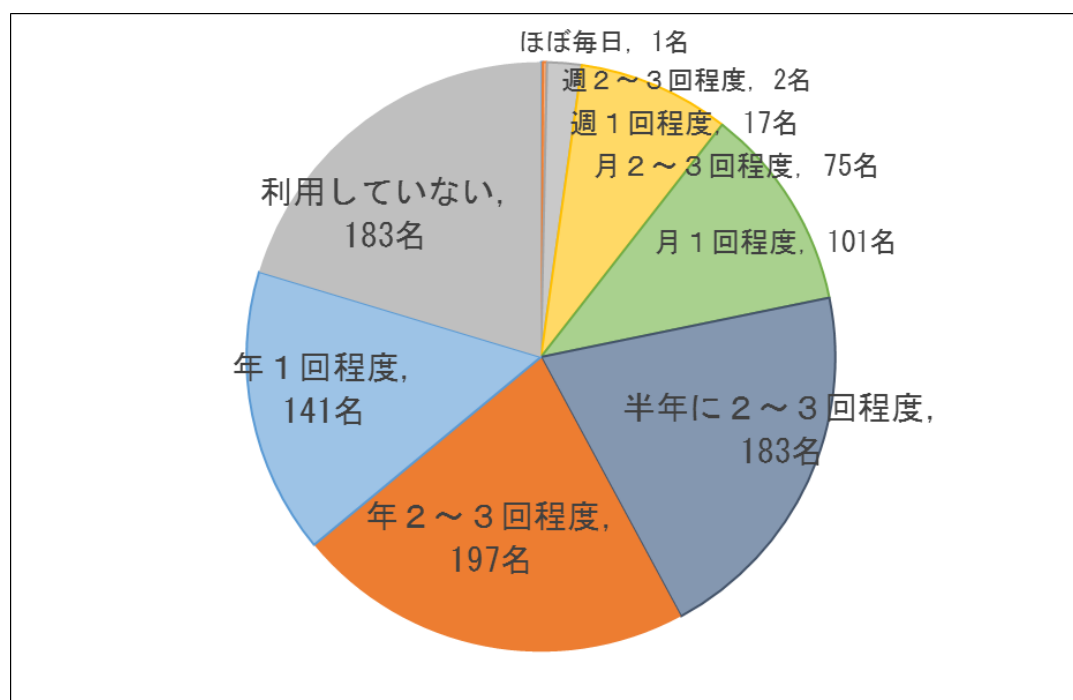
4 図書館について

(1) 小学6年生における図書館の利用状況

【結果概要】

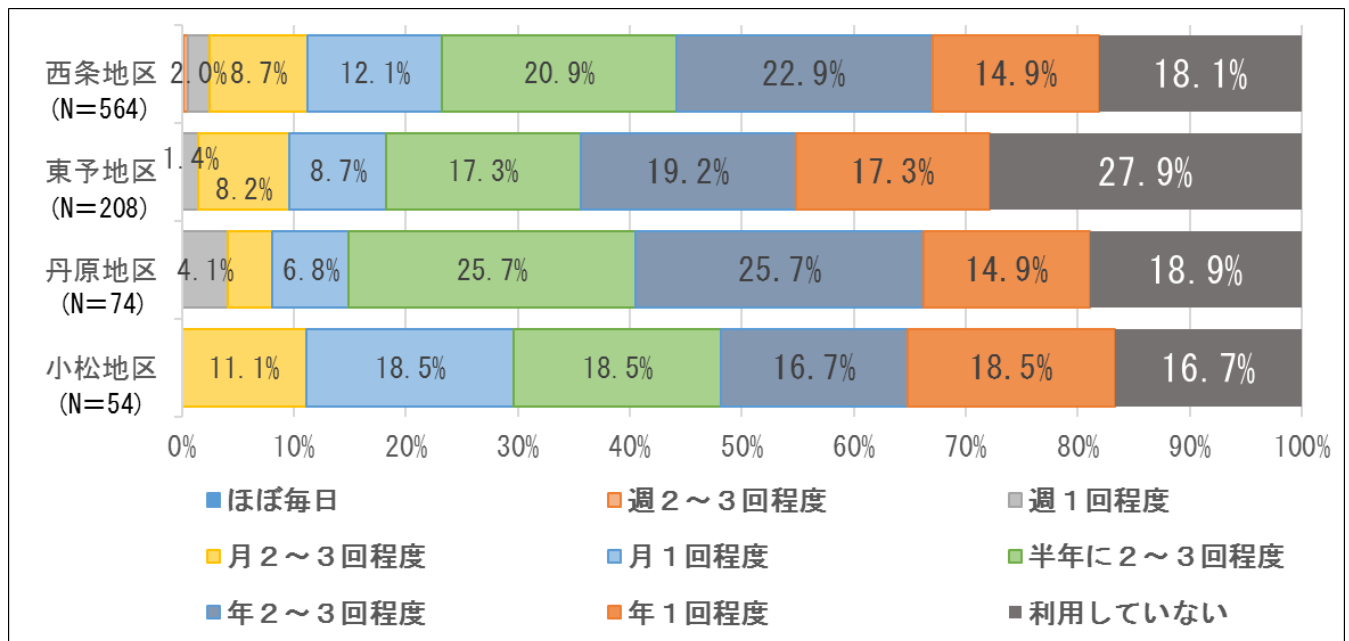
- 月1回以上図書館を利用する小学6年生が2割程度となる一方で、図書館を全く利用していない小学6年生も2割程度となりました。児童によって図書館の利用状況に大きな差異があるものと推察されます。(図表4-1 参照)
- お住まいの地区別にみると、地区によって小学6年生の図書館利用頻度に差異がみられました。何が要因となり差異が生じているのか分析の必要性があると推察します。(図表4-2 参照)

図表4-1によると、「年2～3回程度」図書館を利用すると回答した方が最も多くなり、次いで「半年に2～3回程度」「利用していない」と回答した方が多くなりました。



図表4-1 小学6年生における図書館の利用状況（単純集計）（N＝900）

図表4-2によると、全体を通じて、西条地区と小松地区で図書館の利用頻度が高くなる傾向がみられました。東予地区では、4人に1人以上の小学6年生が図書館を利用していないと回答する結果となりました。



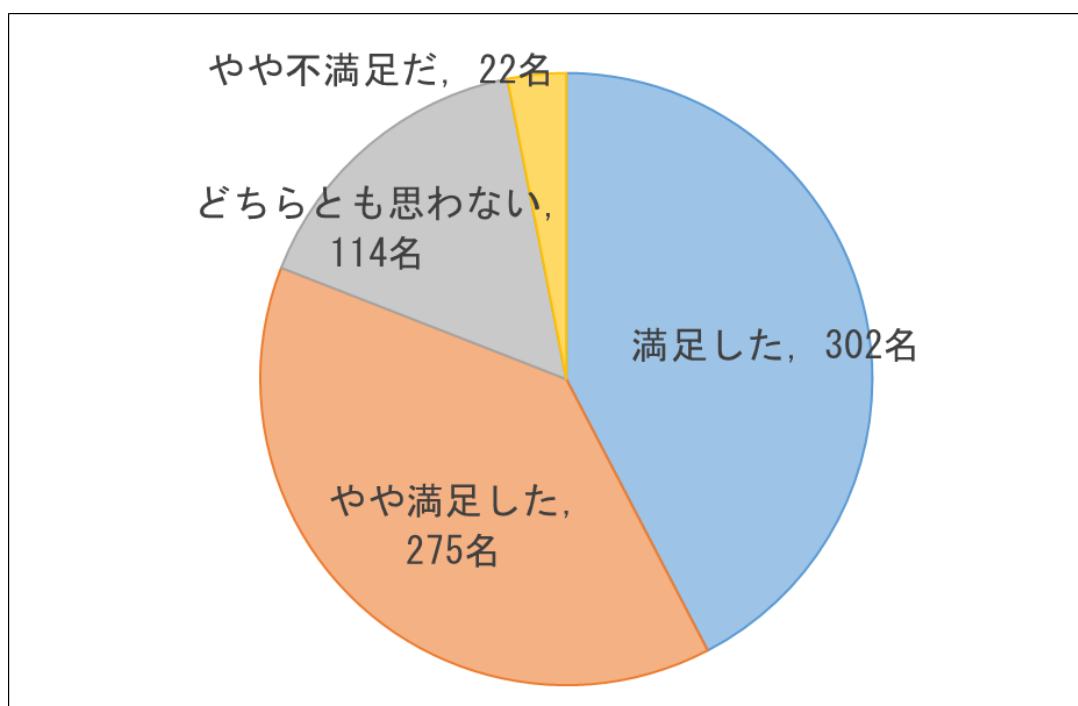
図表 4－2 小学6年生における図書館の利用状況（お住まいの地区別）

（2）小学6年生における図書館の利用環境に対する満足度

【結果概要】

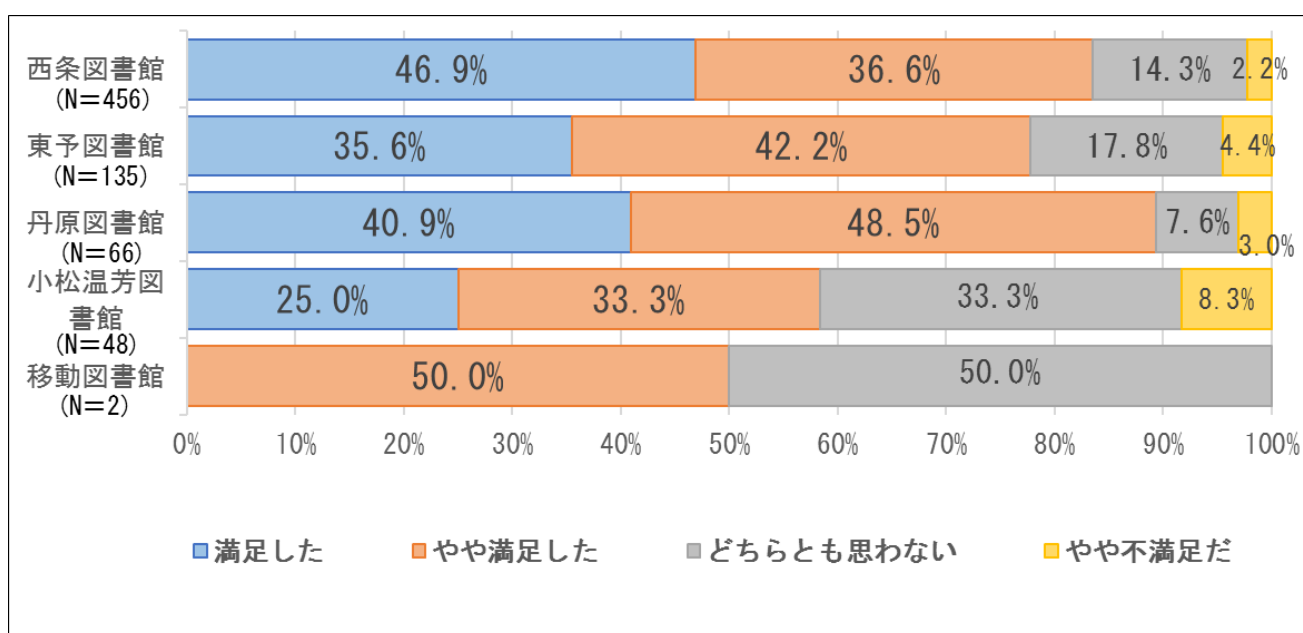
- 全体を通じ、図書館の利用環境に対して満足している傾向がみられました。（図表 4-3 参照）
- 主に利用する図書館別にみると、図書館によって満足度が異なる結果となりました。何が要因となっているのか検証してみる必要があると考えられます。（図表 4-4 参照）

図表 4-3 によると、図書館を利用したと回答した小学6年生のうち、図書館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した方が多くなり、「やや不満足だ」と回答した方を大きく上回る結果となりました。



図表 4－3 小学6年生における図書館の利用環境に対する満足度（単純集計）（N＝713）

図表 4-4 によると、図書館を利用したと回答した小学6年生のうち、移動図書館を除くすべての図書館において、図書館の利用環境に「満足している」「やや満足している」と回答した比率が高くなりました。一方で、主に利用する図書館によって利用環境の満足度に差異が生じる結果となりました。



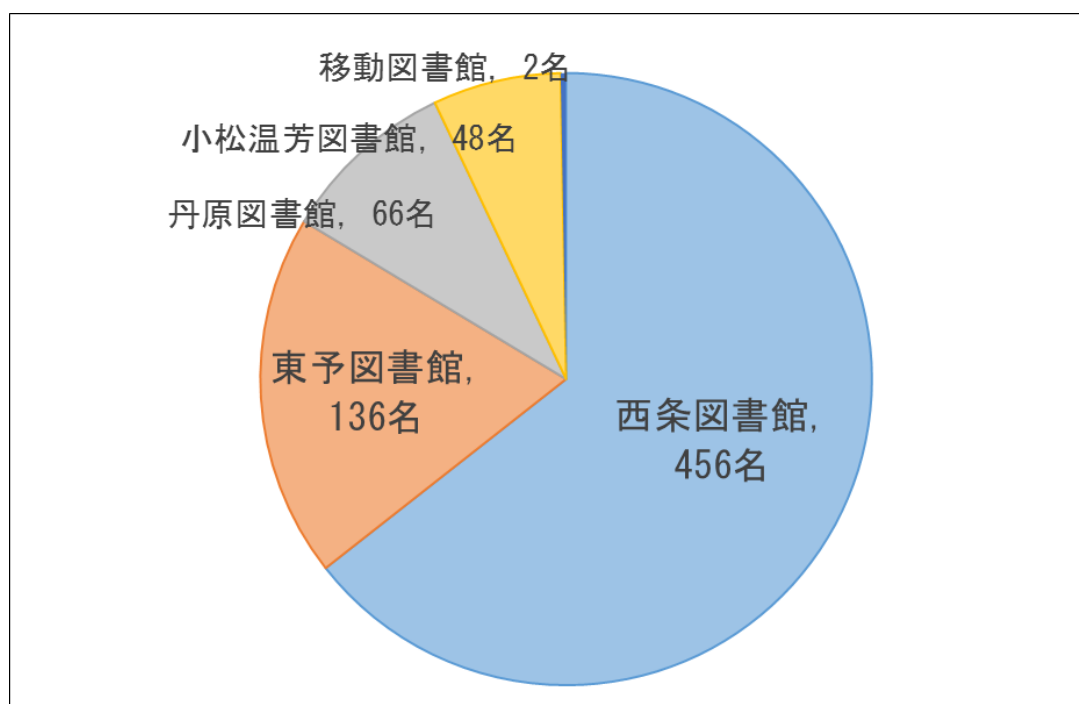
図表 4－4 小学6年生における図書館の利用環境に対する満足度（主に利用した図書館別）

（３）小学６年生が主に利用している図書館

【結果概要】

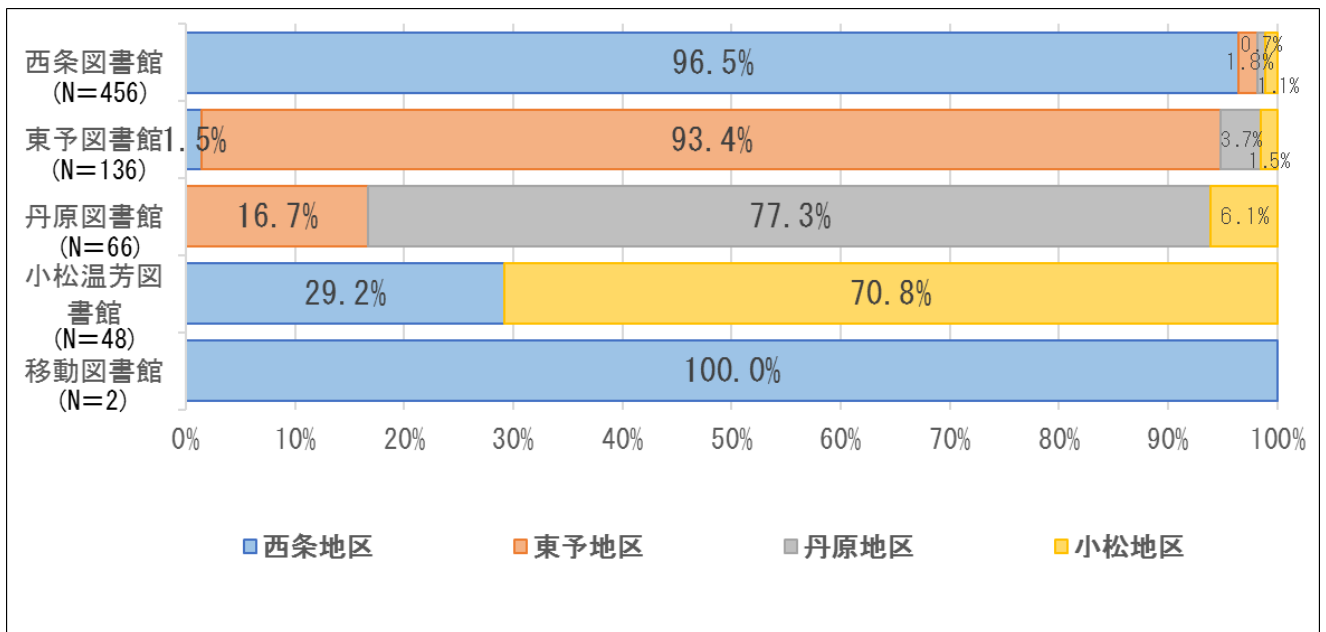
- 各地区における人口構成と比較し、西条図書館を利用していると回答した比率が高くなる一方で、東予図書館、丹原図書館、小松温芳図書館を利用していると回答した比率が低くなりました。（図表 4-5 参照）
- 図書館によって緩やかな傾向の違いがみられるものの、すべての図書館において、お住いの地区の小学６年生が最も利用している傾向がみられました。（図表 4-6 参照）

図表 4-5 によると、図書館を利用したと回答した小学６年生のうち、西条図書館を主に利用していると回答した比率が高くなり、西条地区の人口規模と比較してもやや多くなる傾向がみられました。また、その他の図書館については、各地区における人口構成と比較し、主に利用していると回答した比率が低くなる傾向がみられました。



図表 4－5 小学６年生が主に利用している図書館（単純集計）（N＝708）

図表 4-6 によると、図書館を利用したと回答した小学６年生のうち、すべての図書館において、図書館が立地する地区の小学６年生が最も利用している傾向がみられました。



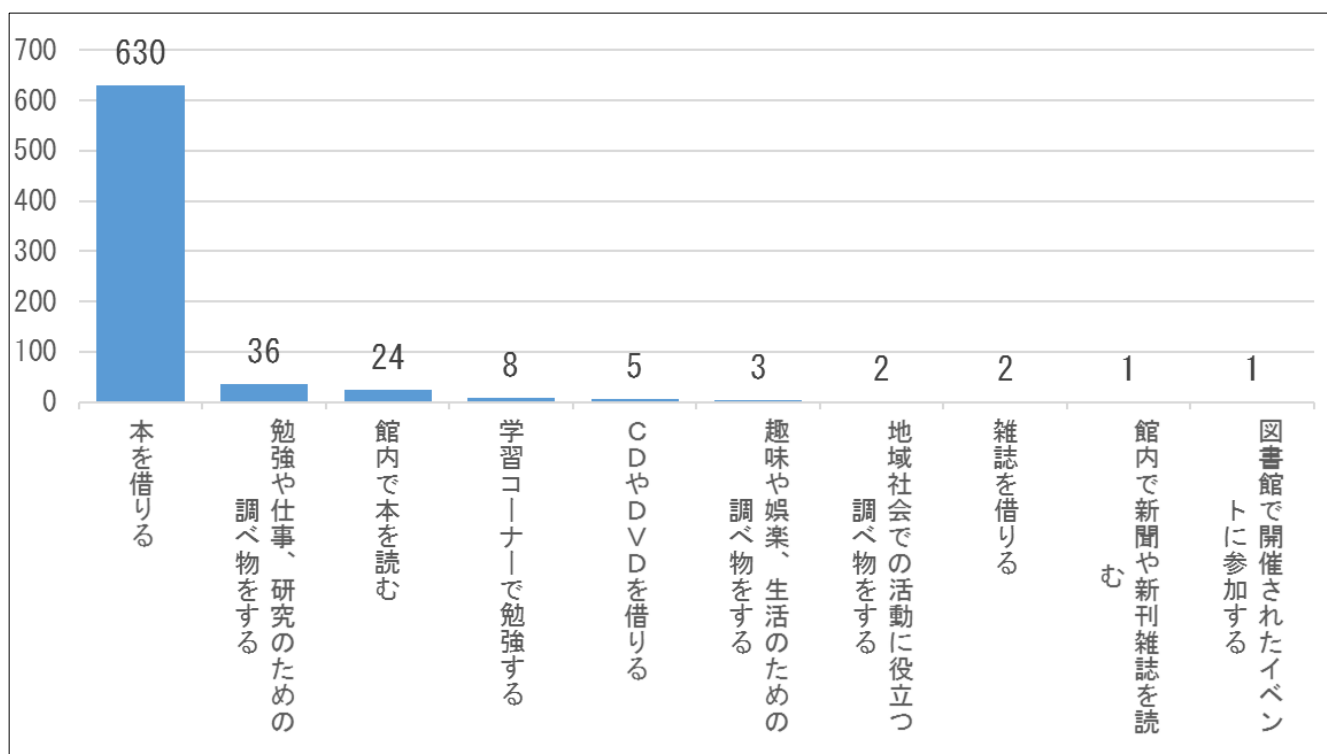
図表 4－6 小学6年生が主に利用している図書館（お住まいの地区別）

（４）小学6年生が図書館を利用した主な目的

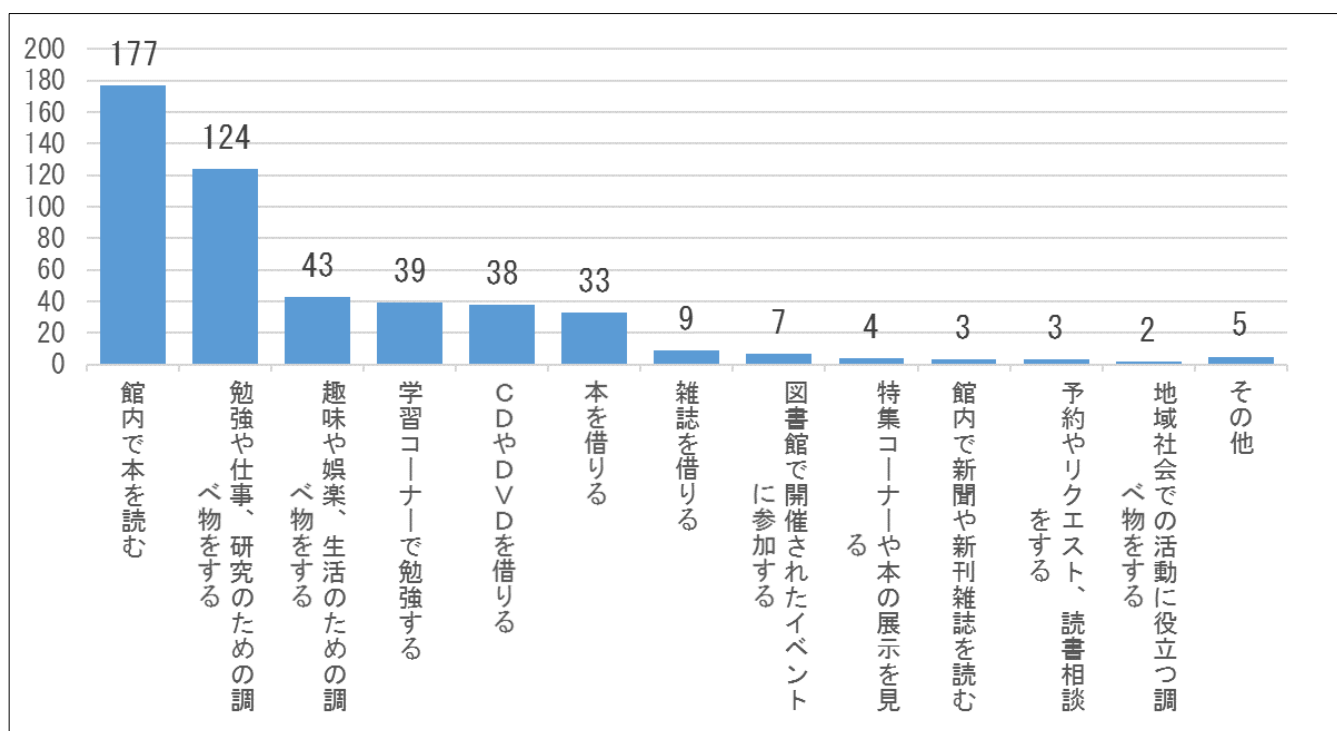
【結果概要】

- 図書館を利用した小学6年生の多くが、本を借りるために図書館を利用している傾向が見られました。あわせて、館内で本を読んだり調べ物をしたりする傾向もみられました（図表4-7、4-8 参照）
- 主に利用する図書館別にみると、それぞれの図書館によって利用目的に緩やかな差異がみられるものの、概ね変わらない結果となりました（図表4-9 参照）

図表4-7によると、図書館を利用したと回答した小学6年生のうち、「本を借りる」ために利用したと回答した方が圧倒的に多くなり、次いで「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」「館内で本を読む」ために利用したと回答した方が多くなりました。また、図表4-8によると、第2選択では「館内で本を読む」ために利用したと回答した方が最も大きくなり、次いで「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」ために利用したと回答した方が多くなりました。

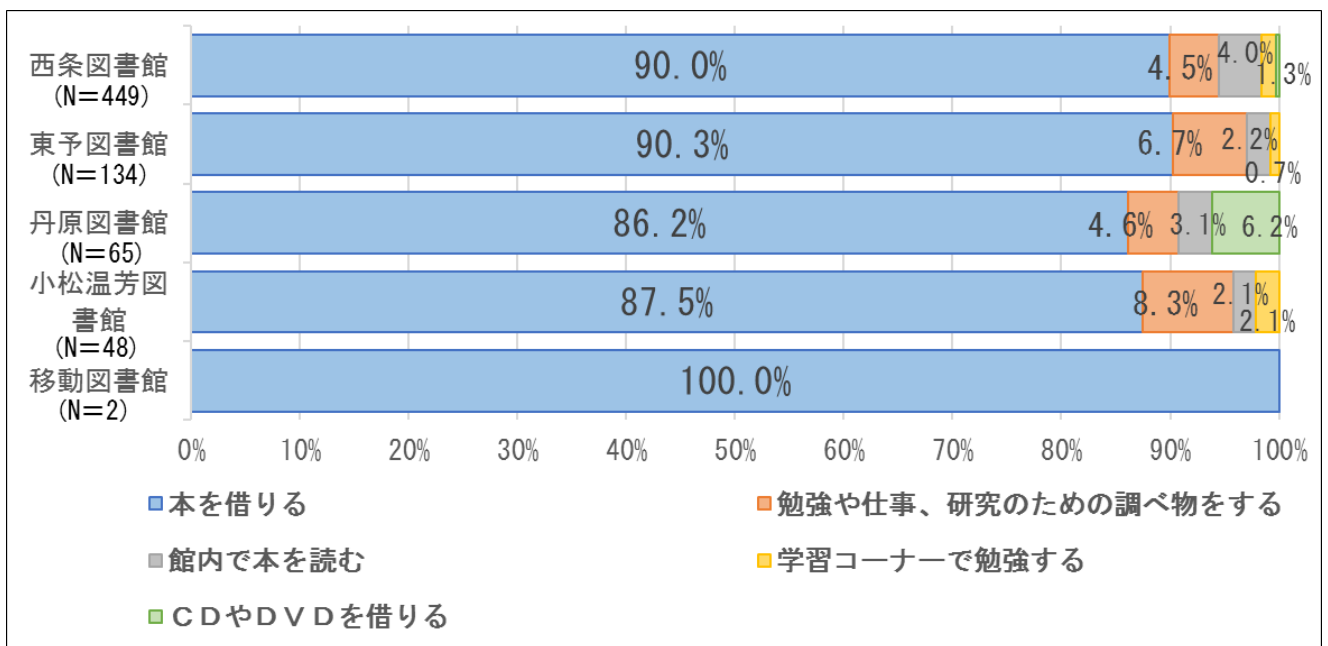


図表 4－7 小学6年生が図書館を利用した主な目的（第1選択・単純集計）（N＝712）



図表 4－8 小学6年生が図書館を利用した主な目的（第2選択・単純集計）（N＝487）

図表 4-9 によると、図書館を利用したと回答した小学6年生のうち、主に利用した図書館別に回答内容に大きな差異は生じず、すべての図書館で「本を借りる」ために図書館を利用したと回答した比率が最も高くなりました。



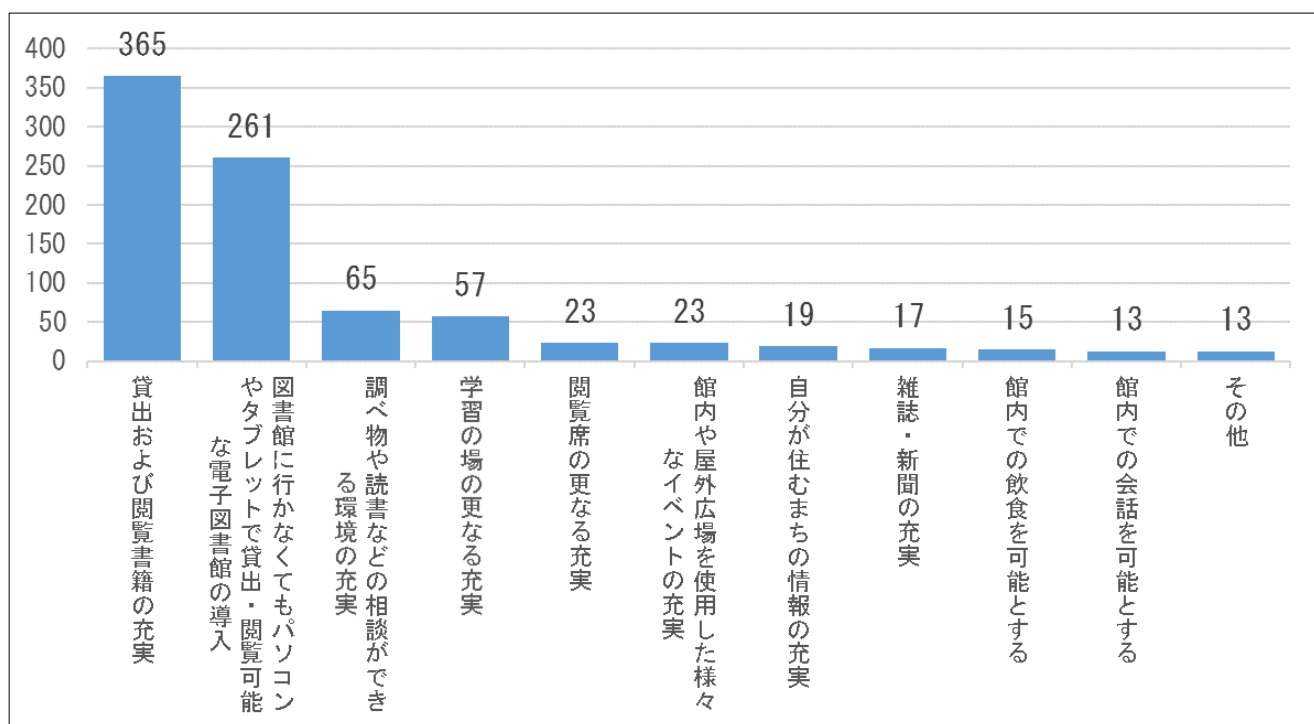
図表 4－9 小学6年生が図書館を利用した主な目的
(第1選択上位5項目・主に利用した図書館別)

(5) 図書館に関連して今後力を入れるべき点

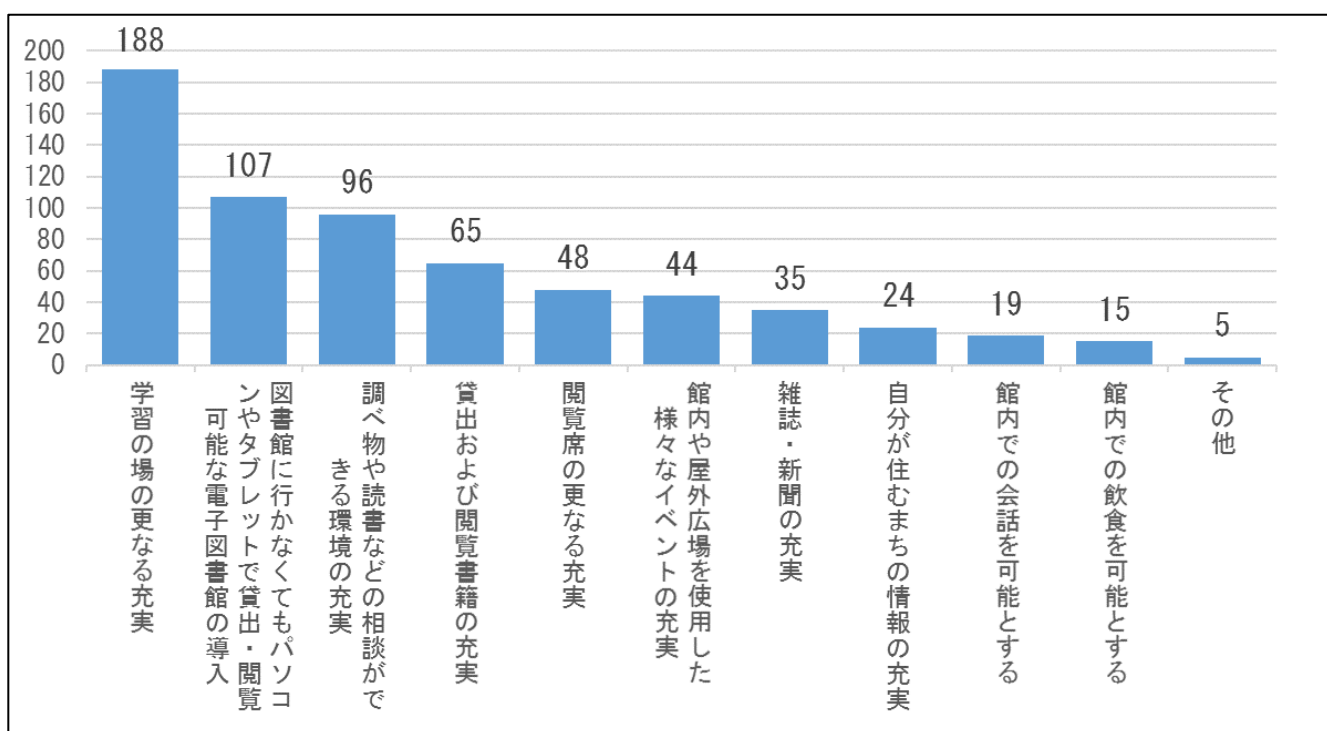
【結果概要】

- 書籍の充実に力を入れるべきとする方が多くなる一方で、近年導入が進みつつある電子図書館の導入に力を入れるべきとする方が多くなりました。(図表 4-10、4-11 参照)
- 主に利用する図書館別かつお住まいの地区別にみると、全体を通じて貸出および閲覧書籍の充実に求める傾向にありますが、主に小松温芳図書館を利用している方、および小松地区にお住まいの方が電子図書館の導入を求める傾向がみられました。(図表 4-12、4-13 参照)

図表 4-10 によると、「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した方が最も多くなり、次いで「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した方が多くなりました。また、図表 4-11 によると、第2選択では「学習の場の更なる充実」と回答した方が最も多くなり、次いで「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」「調べ物や読書などの相談ができる環境の充実」と回答した方が多くなりました。

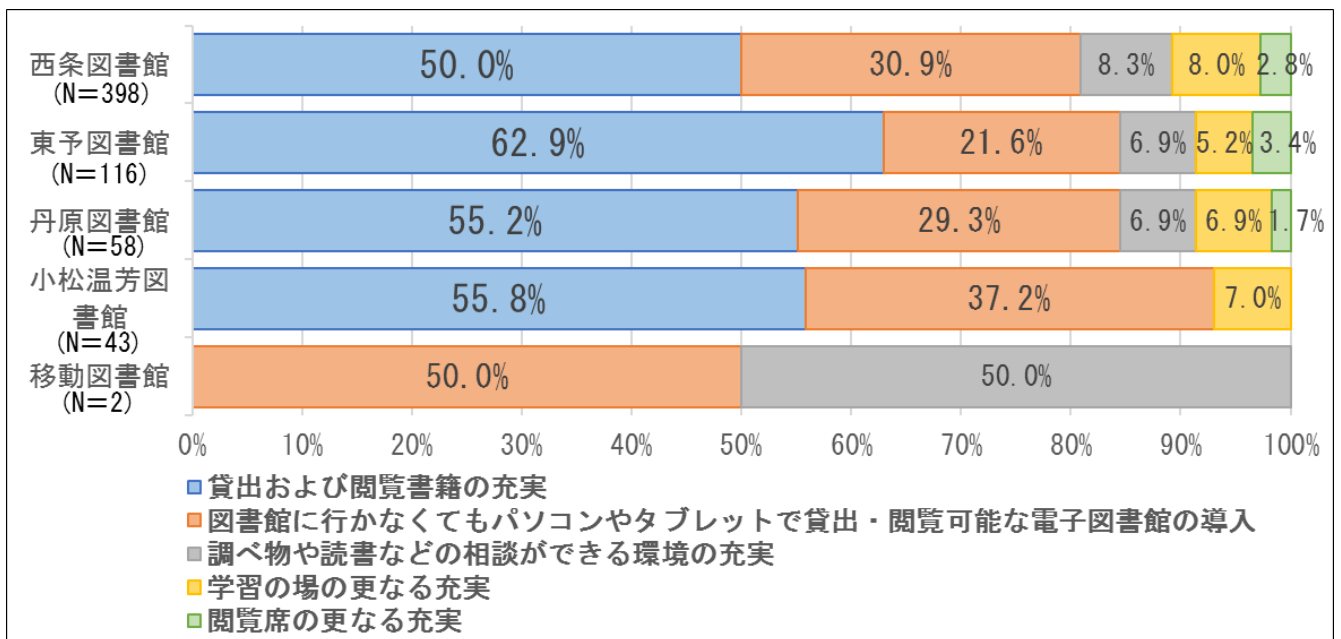


図表 4－10 図書館に関連して今後力を入れるべき点（第1選択・単純集計）（N＝871）



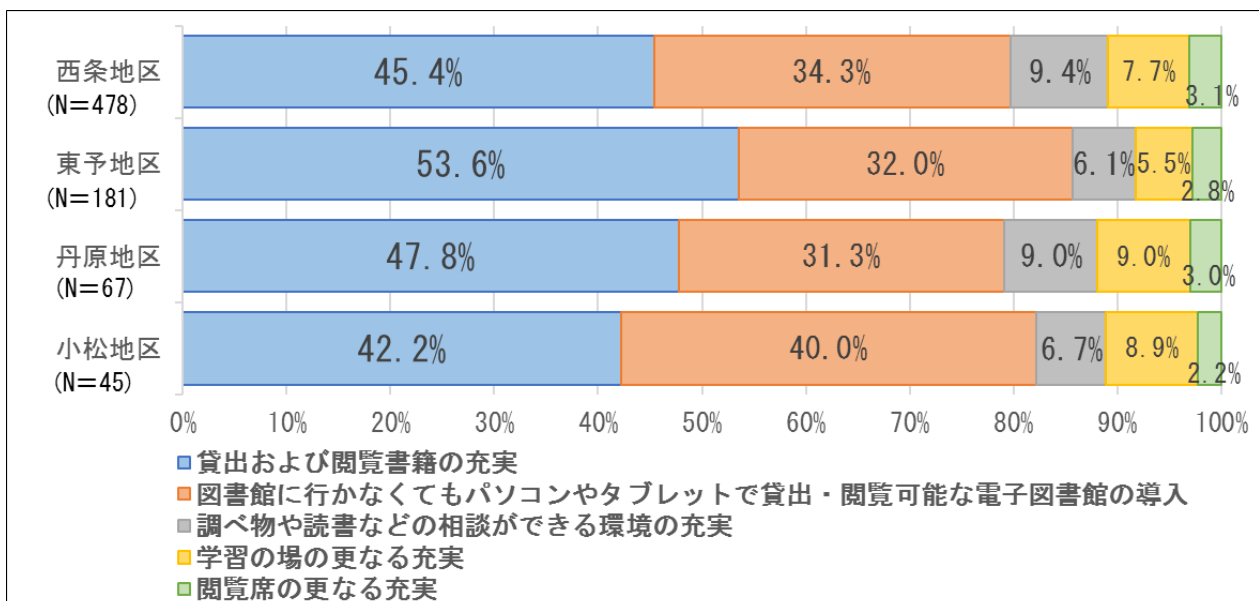
図表 4－11 図書館に関連して今後力を入れるべき点（第2選択・単純集計）（N＝646）

図表 4-12 によると、移動図書館を除き、すべての主に利用した図書館別に回答内容に大きな差異は生じず、すべての図書館で「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した比率が最も高くなりました。



図表 4-12 図書館に関連して今後力を入れるべき点
(第1選択上位5項目・主に利用した図書館別)

図表 4-13 によると、お住いの地区別に回答内容に大きな差異は生じず、すべての地域で「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した比率が最も高くなりました。また、小松地区においては、あわせて「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した比率が高くなりました。



図表 4-13 図書館に関連して今後力を入れるべき点
(第1選択上位5項目・お住いの地区別)

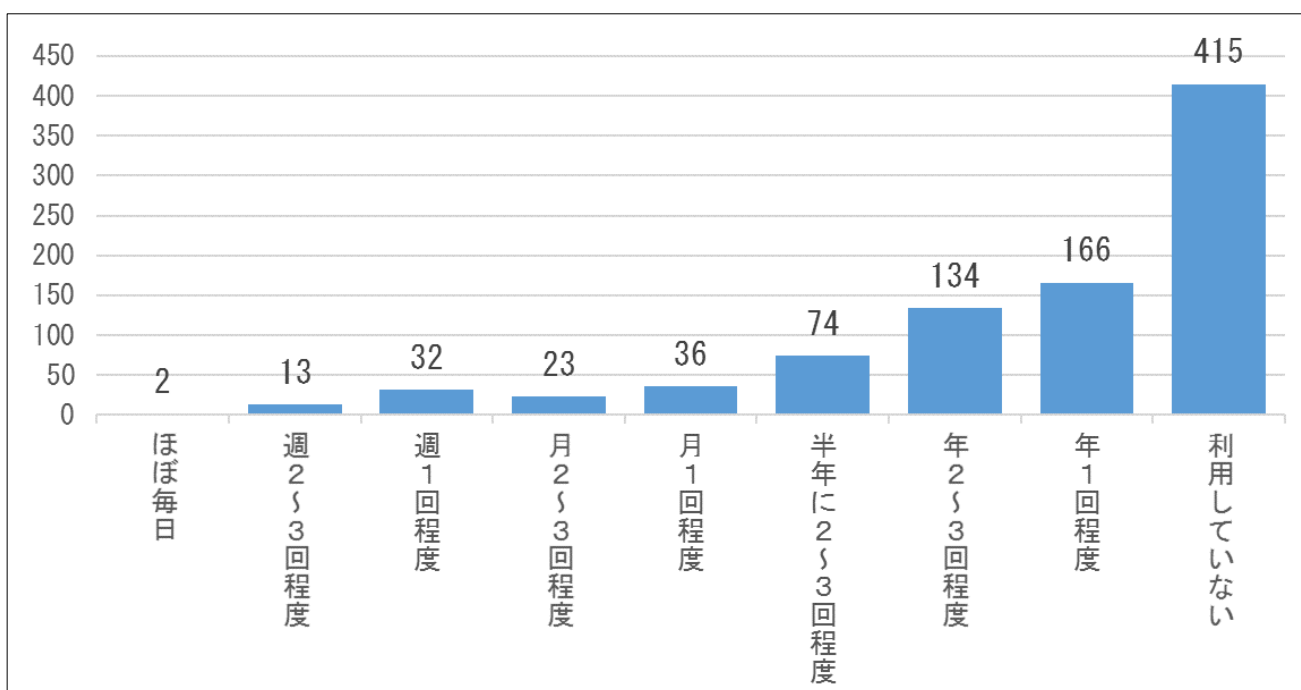
5 公民館について

(1) 保護者における公民館の利用状況

【結果概要】

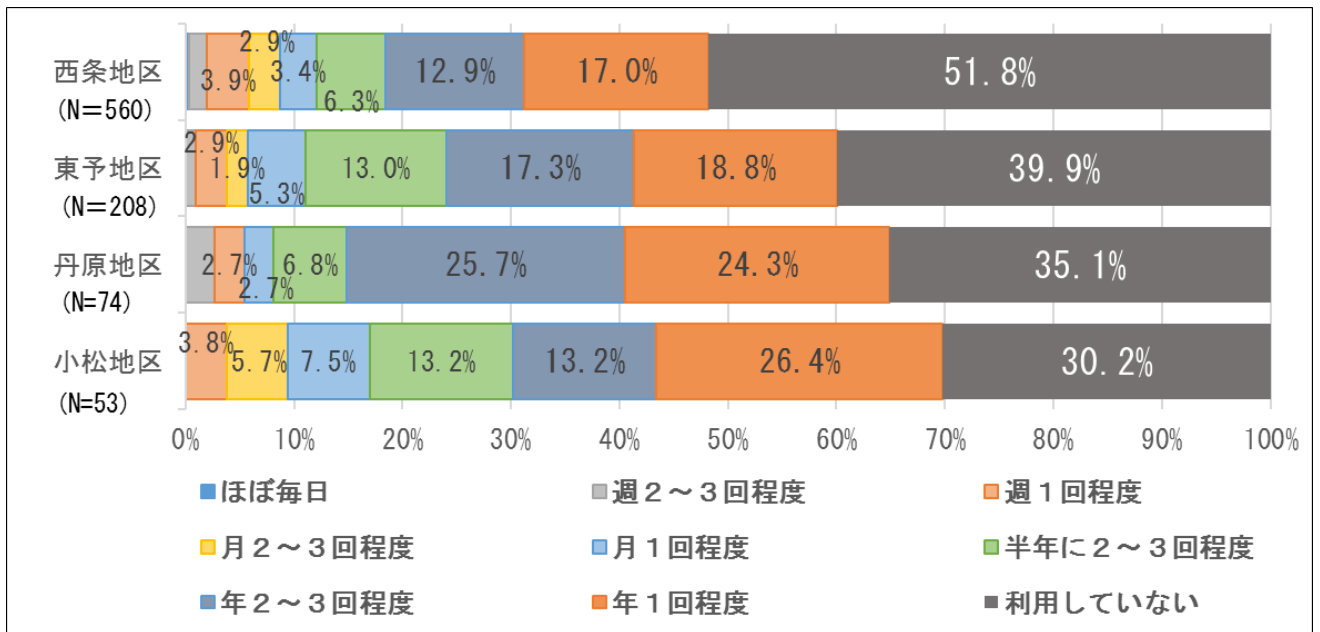
- 公民館を利用していないと回答した方が約2人に1人となりました。他の年齢と比較して決して利用率が著しく低いわけではありませんが、子育て世代にとって公民館がいかにあるべきなのかという点について再考が必要ではないかと推察されます。(図表 5-1 参照)
- お住まいの地区によって小学6年生保護者における公民館の利用頻度が異なる傾向がみられました。(図表 5-2 参照)
- 小学校の規模が小さいほど、公民館の利用頻度が高くなる傾向がみられました。地域やPTAの役職に就く機会が多いことが要因ではないかと推察されます。(図表 5-3 参照)

図表 5-1 によると、公民館を「利用していない」と回答した方が最も多く、次いで「年1回程度」「年2～3回程度」と回答した方が多くなりました。また、月1回程度以上利用すると回答した方は少なくなりました。



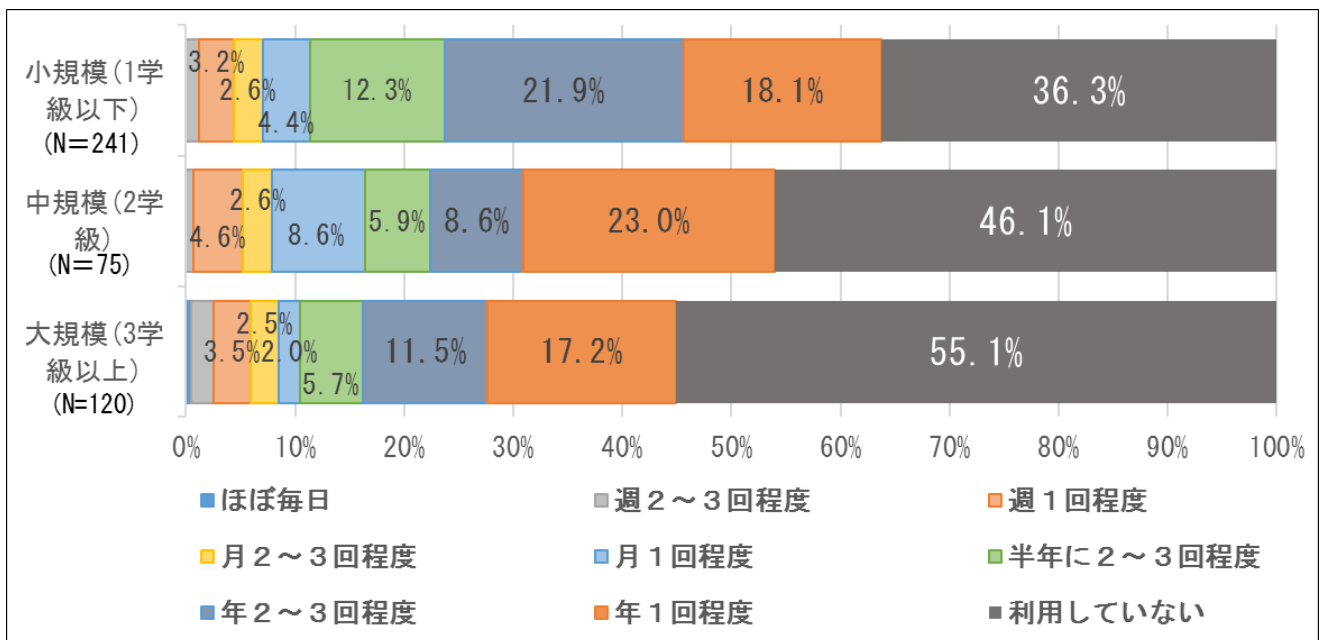
図表 5-1 公民館の利用状況（単純集計）（N＝895）

図表 5-2 によると、小松地区で年1回以上公民館を利用していると回答した比率が最も高くなる一方で、西条地区では公民館を利用していないと回答した比率が最も高くなりました。



図表 5－2 公民館の利用状況（お住まいの地区別）

図表 5-3 によると、小学校の規模が小さくなるにつれて、公民館の利用頻度が高くなる傾向がみられました。逆に、小学校の規模が大きくなるにつれて、公民館を利用していないと回答した比率が高くなる傾向がみられました。



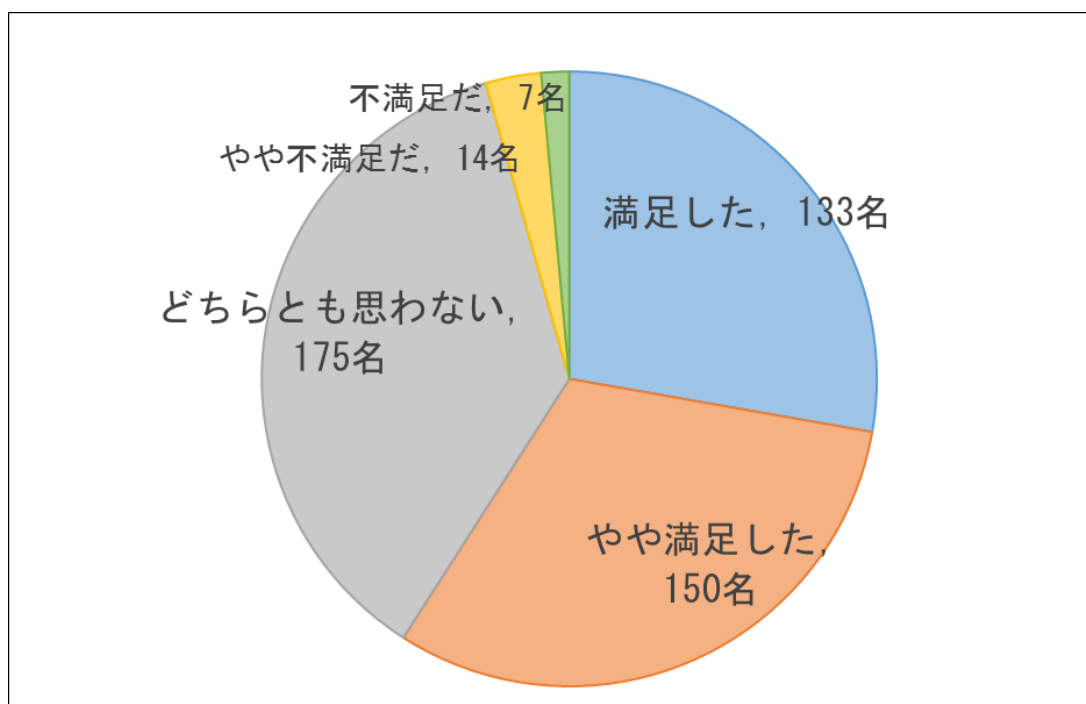
図表 5－3 公民館の利用状況（児童を通学させる小学校の6年生規模別）

(2) 保護者における公民館の利用環境に対する満足度

【結果概要】

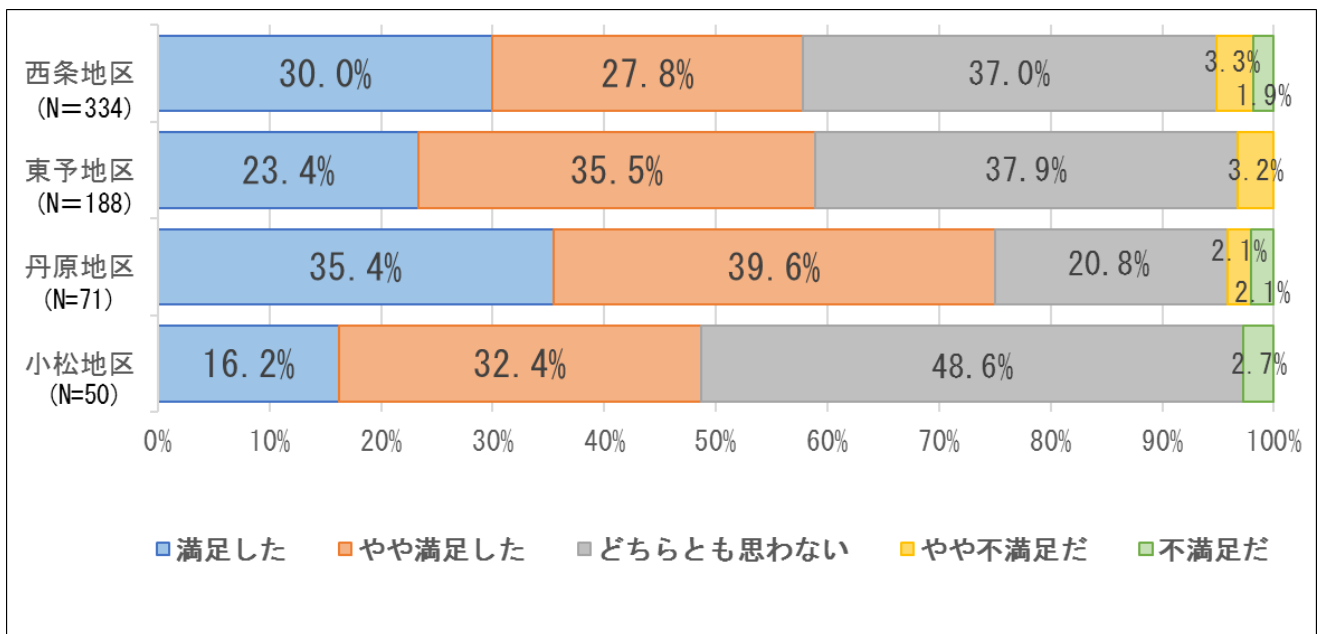
- 公民館を利用したと回答した半数程度の保護者が、公民館の利用環境に「満足した」や「やや満足した」と回答する結果となりました。(図表 5-4 参照)
- 地区によって公民館の利用環境に対する満足度に違いが生じています。即座に対応する必要はないと考えられるものの、何が要因となっているのか分析する必要があると考えられます。(図表 5-5 参照)

図表 5-4 によると、公民館を利用したと回答した保護者のうち、公民館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した方が多くなり、「やや不満足だ」「不満足だ」と回答した方を上回る結果となりました。



図表 5-4 公民館の利用環境に対する満足度（単純集計）（N＝479）

図 5-5 によると、公民館を利用したと回答した保護者のうち、すべての地区を通じて公民館の利用環境に概ね満足している傾向がみられました。また、丹原地区では公民館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなる一方で、小松地区では「満足した」と回答した比率が低くなる傾向がみられました。



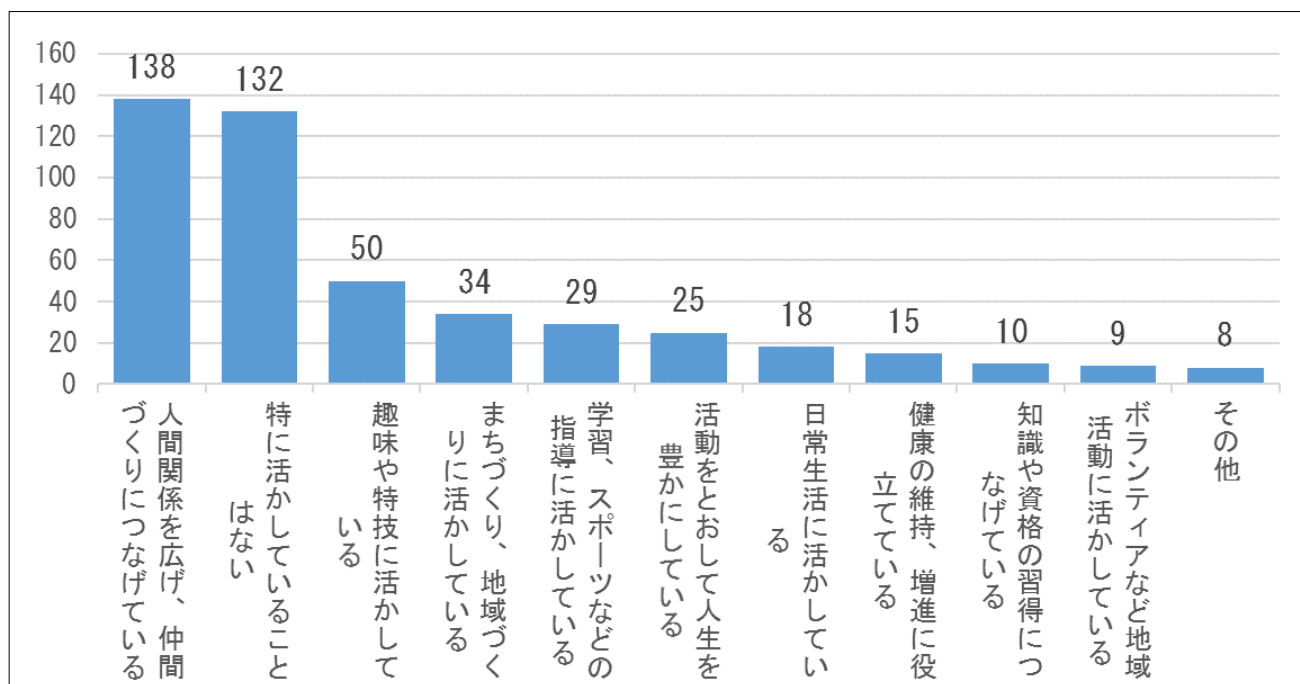
図表 5－5 公民館の利用環境に対する満足度（お住まいの地区別）

（３）保護者が公民館活動を通じて身に付けた知識・技術

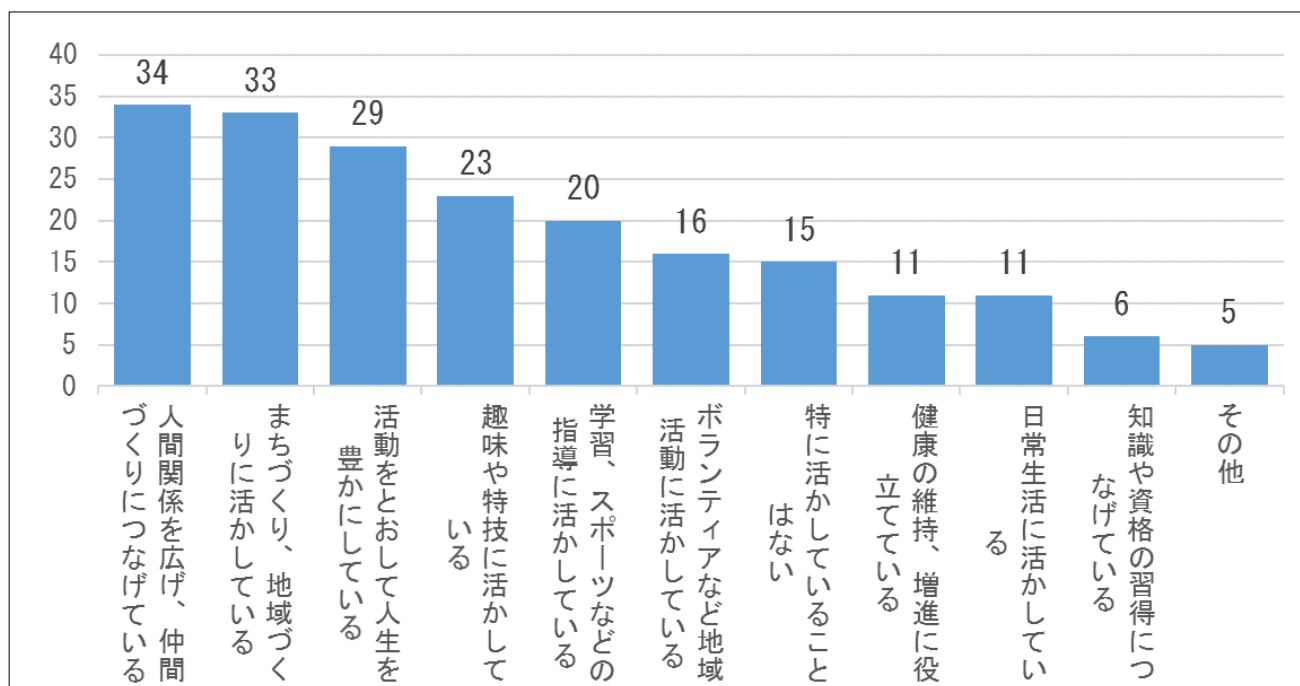
【結果概要】

- 多くの公民館を利用した方が人間関係を広げて仲間づくりにつなげていると回答した一方で、特に活かしていることはないと回答した方も多くなりました。（図表 5-6 参照）
- お住いの地区によっては「特に活かしていることはない」と回答した比率が最も高くなる地区もありました。何が要因なのか分析する必要があると考えられます。（図表 5-8 参照）

図表 5-6 によると、「人間関係を広げ、仲間づくりにつなげている」と回答した方が最も多くなり、次いで「特に活かしていることはない」が多くなりました。また、図表 5-7 によると、第 2 選択では「人間関係を広げ、仲間づくりにつなげている」「まちづくり、地域づくりに活かしている」と回答した方が多くなりましたが、第 2 選択を回答した方自体が少なくなる傾向がみられました。

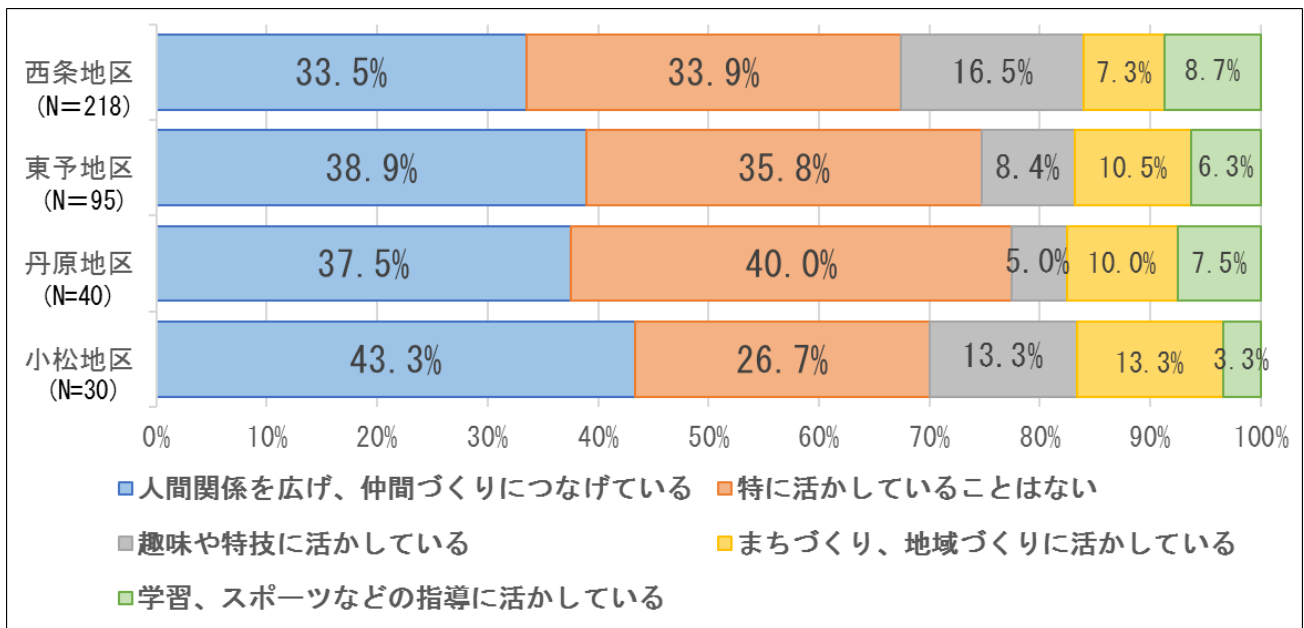


図表 5－6 公民館活動を通じて身に付けた知識・技術（第1選択・単純集計）（N＝468）



図表 5－7 公民館活動を通じて身に付けた知識・技術（第2選択・単純集計）（N＝203）

図表 5-8 よると、東予地区と小松地区で「人間関係を広げ、仲間づくりにつなげている」と回答した比率が高くなる一方で、西条地区と丹原地区では「特に活かしていることはない」と回答した比率が最も高くなる傾向がみられました。



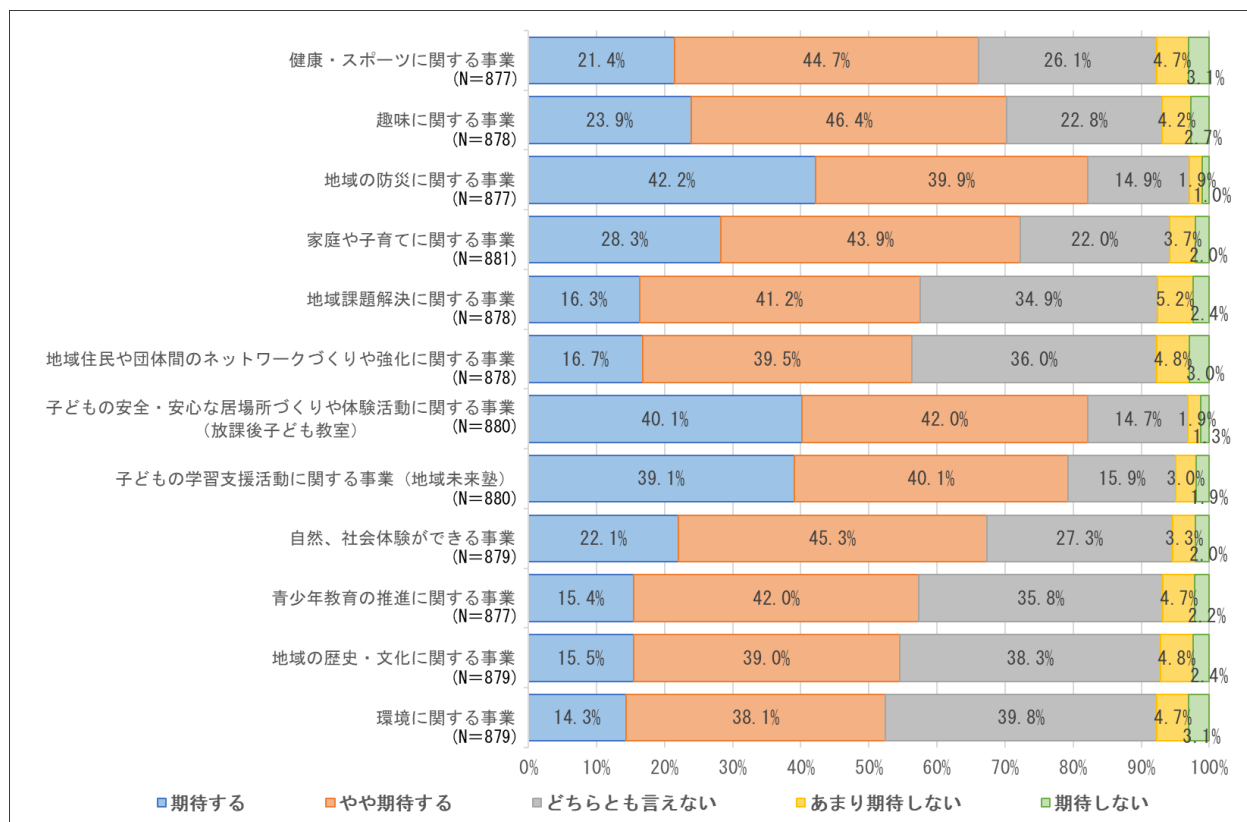
図表 5－8 公民館活動を通じて身に付けた知識・技術
(第1選択上位5項目・お住まいの地区別)

(4) 保護者が公民館に期待する事業

【結果概要】

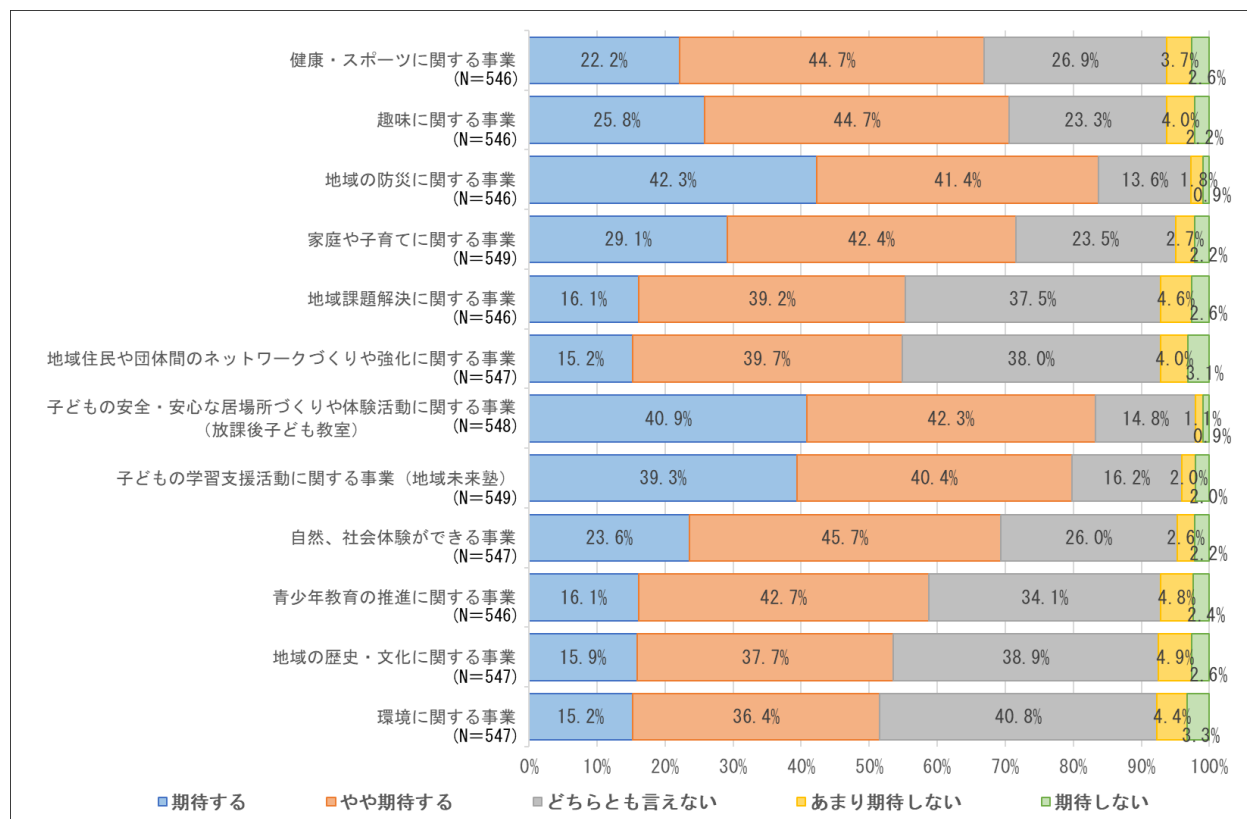
- 地域の防災に関する事業と子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に関する事業に対する期待が高くなりましたが、お住まいの地区によっては異なる傾向がみられました。(図表 5-9、5-10、5-11、5-12、5-13 参照)

図表 5-9 によると、「地域の防災に関する事業」と「子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に関する事業（放課後子ども教室）」に対する期待が最も高くなり、次いで「子どもの学習支援活動に関する事業（地域未来塾）」に対する期待が高くなりました。

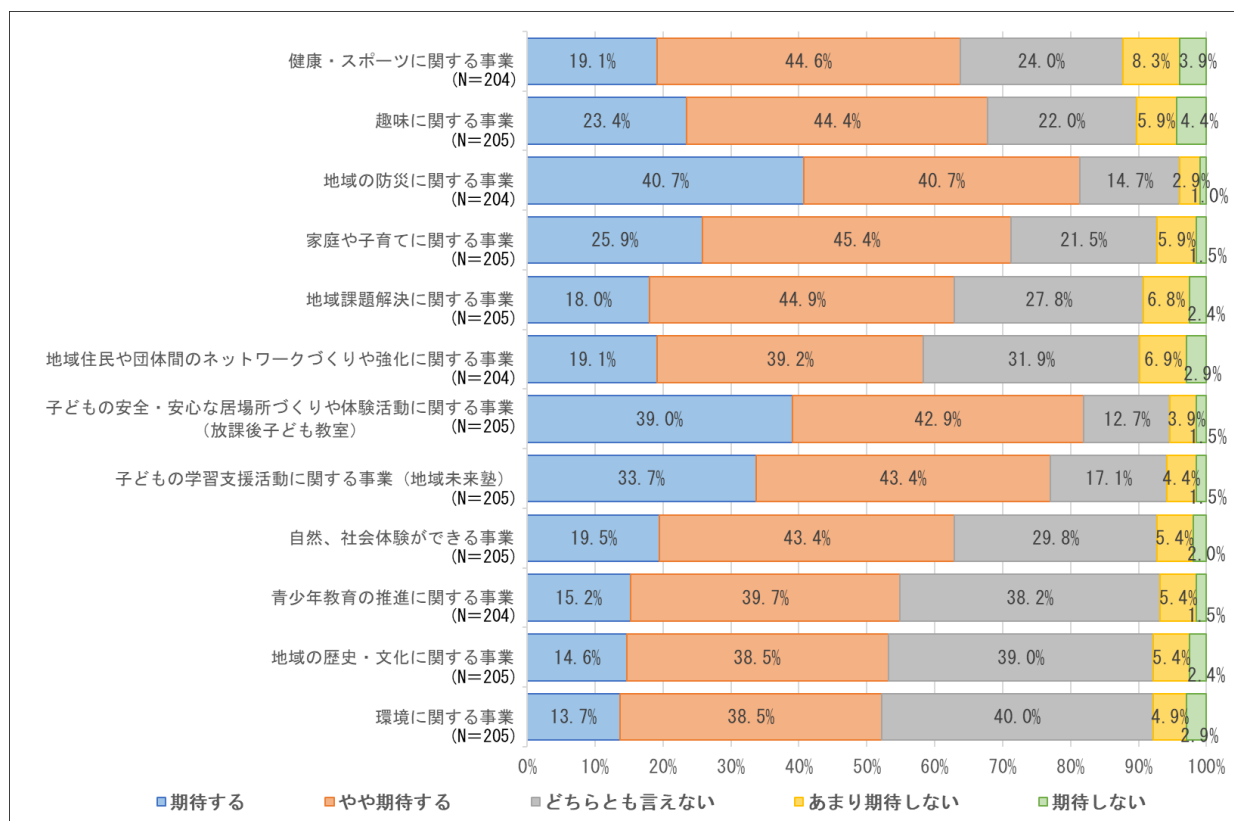


図表 5－9 公民館における事業別期待度（単純集計）

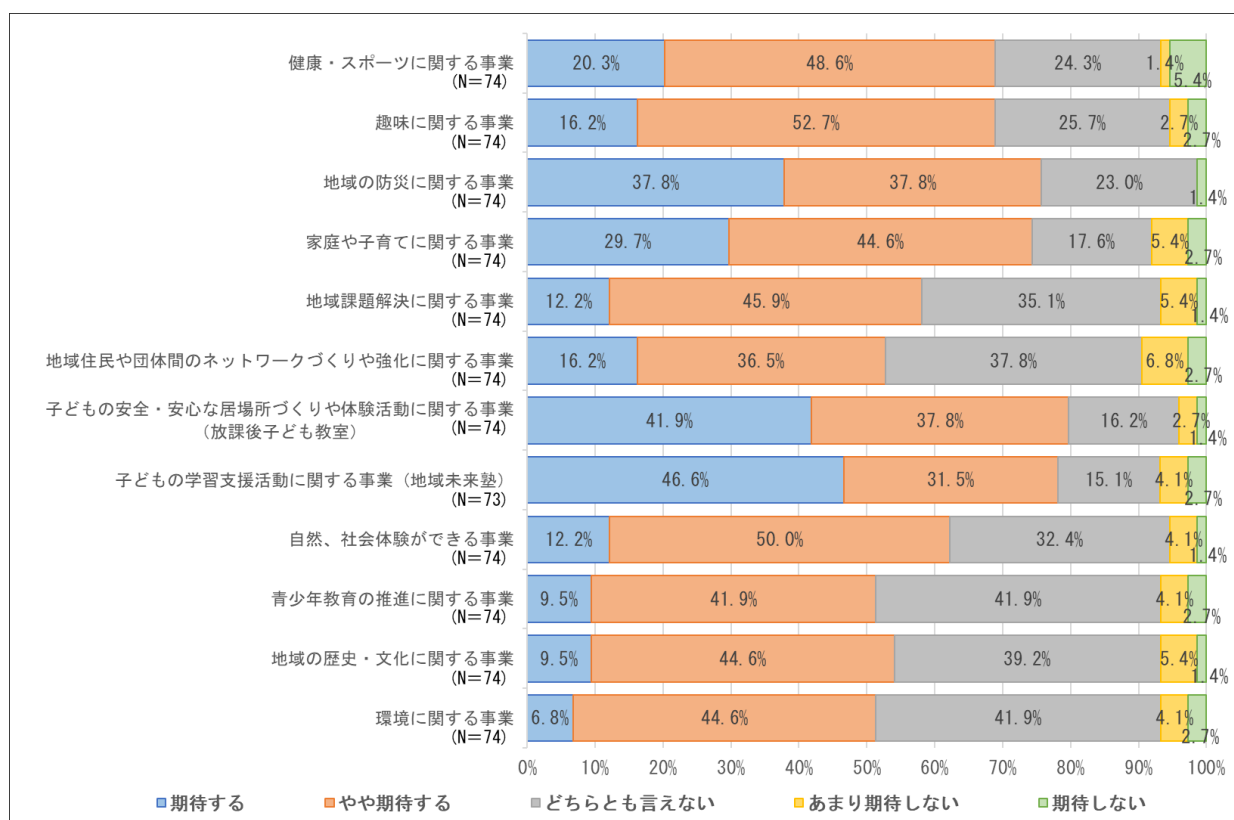
図表 5-10、図表 5-11、図表 5-12、図表 5-13 によると、すべての地区を通じて概ね同様の傾向を示したものの、お住まいの地区によって緩やかに異なる傾向がみられました。



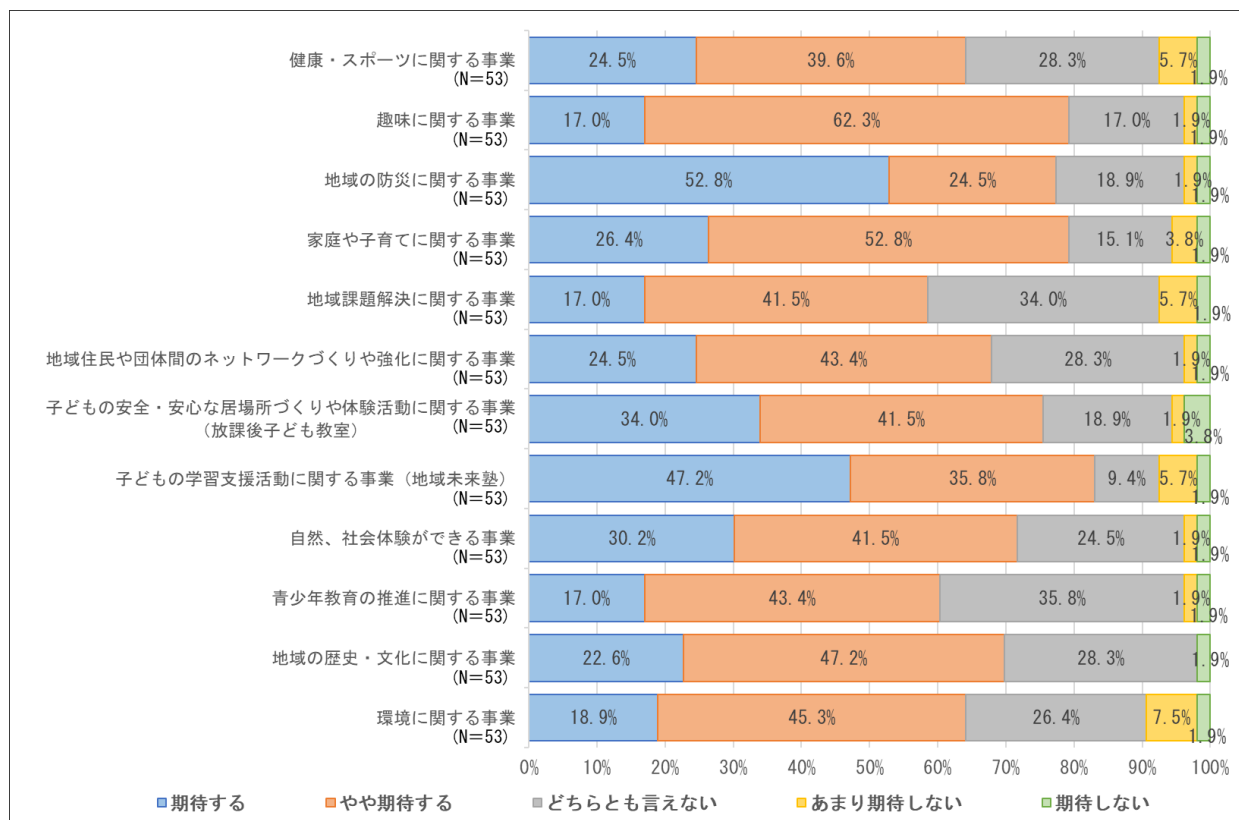
図表 5－10 公民館における事業別期待度（西条地区）



図表５－１１ 公民館における事業別期待度（東予地区）



図表５－１２ 公民館における事業別期待度（丹原地区）



図表５－１３ 公民館における事業別期待度（小松地区）

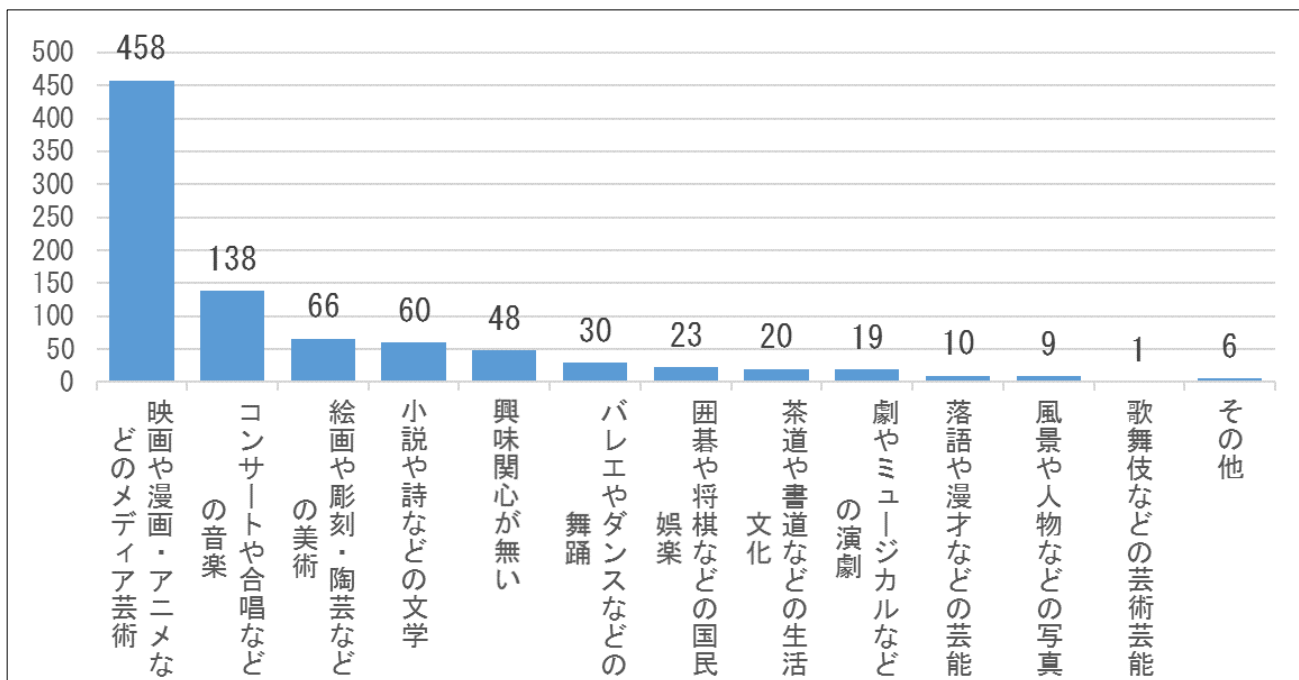
6 地域文化・歴史文化について

(1) 小学6年生の芸術文化に対する興味関心

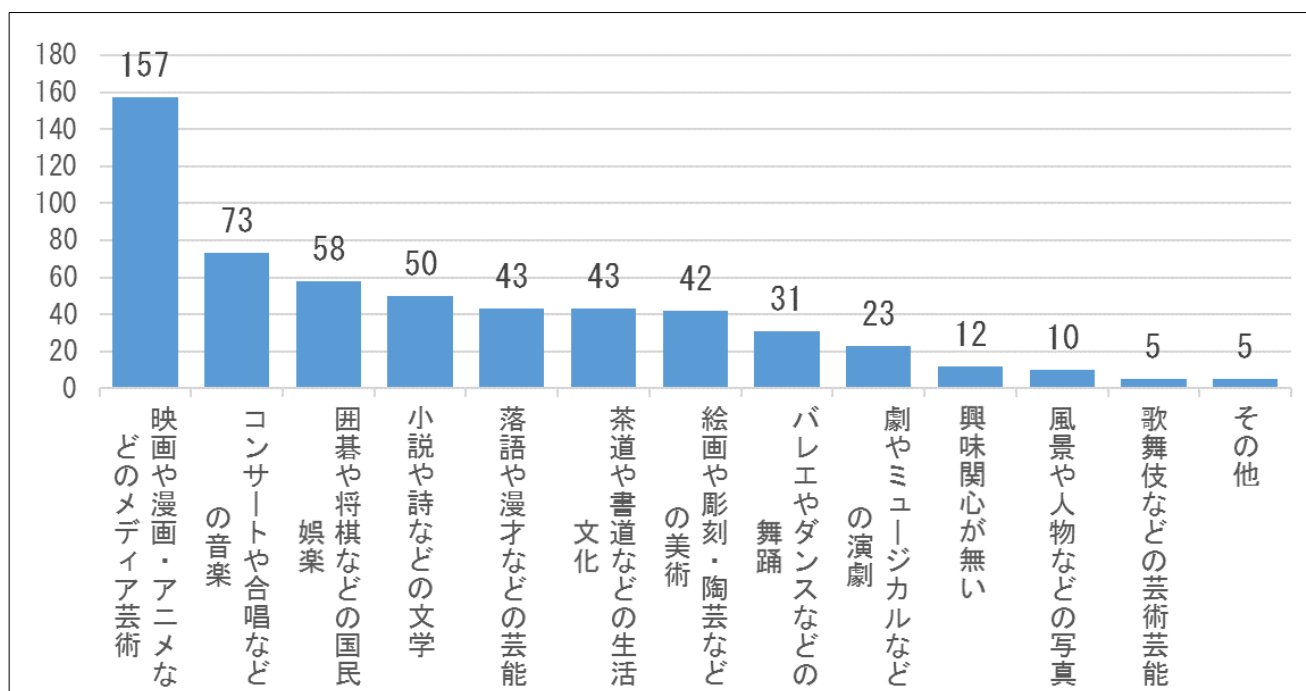
【結果概要】

- 「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」が圧倒的に高くなる傾向がみられました。インターネット環境の普及などの環境の変化が、小学生における文化芸術の興味関心に対して影響を与えているのではないかと推察します（図表 6-1、6-2 参照）
- お住まいの地区別にみると、すべての地区を通じて同様の傾向がみられる中、地区によって緩やかな差異がみられました。地域に根差した文化芸術活動を推進するのであれば、地区別の特徴を把握しておくことが重要と考えます。（図表 6-3 参照）

図表 6-1 によると、「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した方が圧倒的に多くなり、次いで「コンサートや合唱などの音楽」と回答した方が多くなりました。また、図表 6-2 によると、第2選択でも同じく「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した方が最も多くなり、次いで「コンサートや合唱などの音楽」と回答した方が多くなりました。

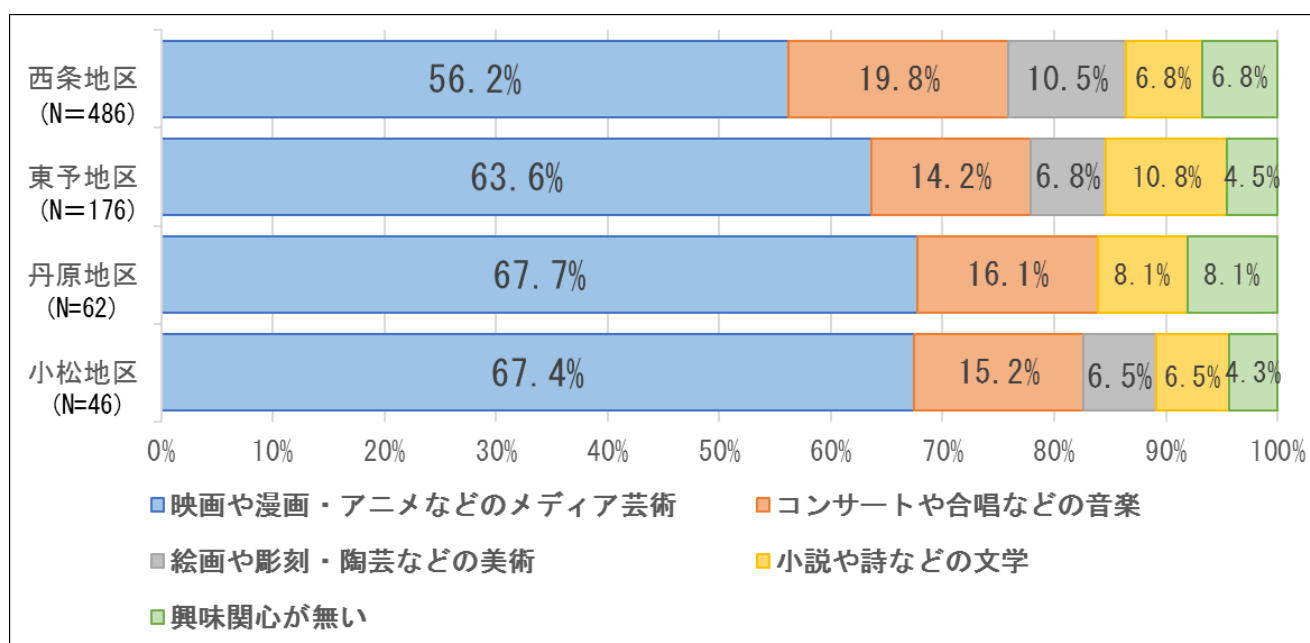


図表 6-1 小学6年生の芸術文化に対する興味関心（第1選択・単純集計）（N＝888）



図表 6－2 小学6年生の芸術文化に対する興味関心（第2選択・単純集計）（N＝552）

図表 6-3 によると、すべての地区で「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した比率が最も高くなり、次いで「コンサートや合唱などの音楽」と回答した比率が高くなりました。また、他地区と比較して西条地区では「コンサートや合唱などの音楽」と回答した比率が高くなる一方で、丹原地区では「絵画や彫刻・陶芸などの美術」と回答した小学6年生がいないなど、地区によって緩やかな差異がみられました。



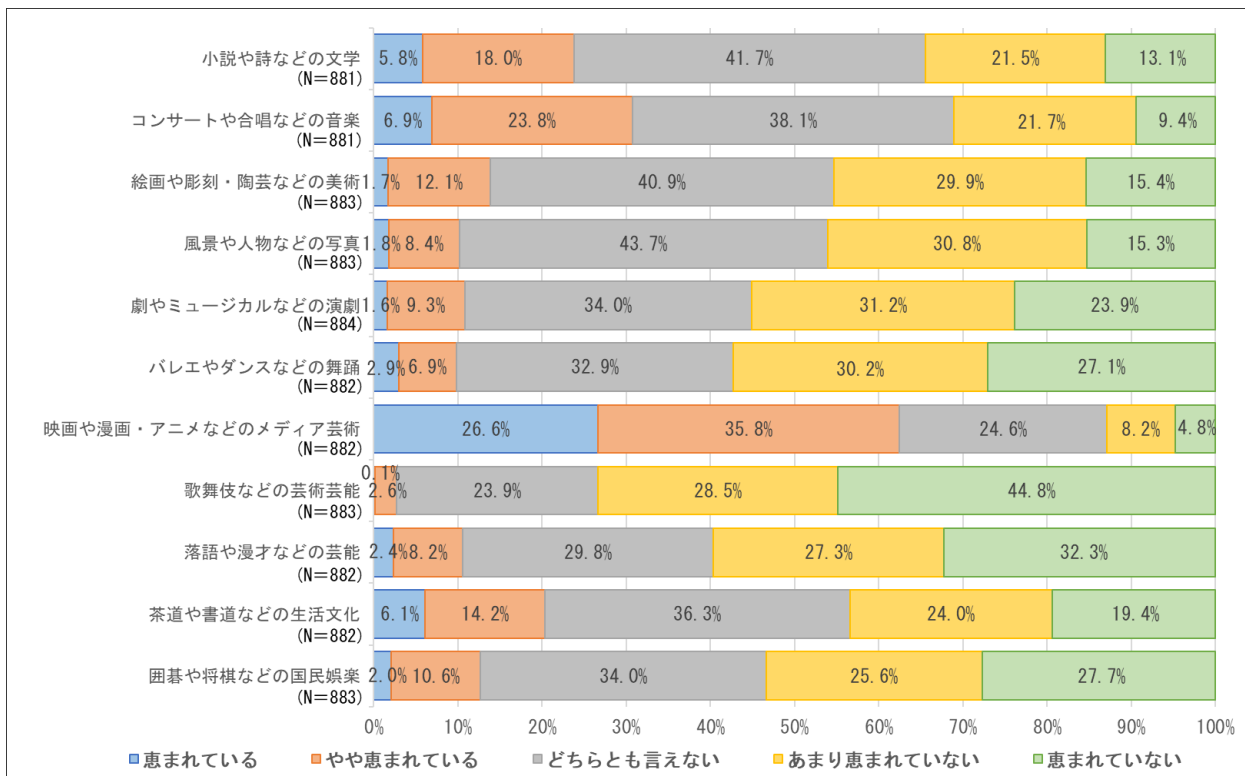
図表 6－3 小学6年生の芸術文化に対する興味関心（第1選択上位5項目・お住まいの地区別）

（２）小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度

【結果概要】

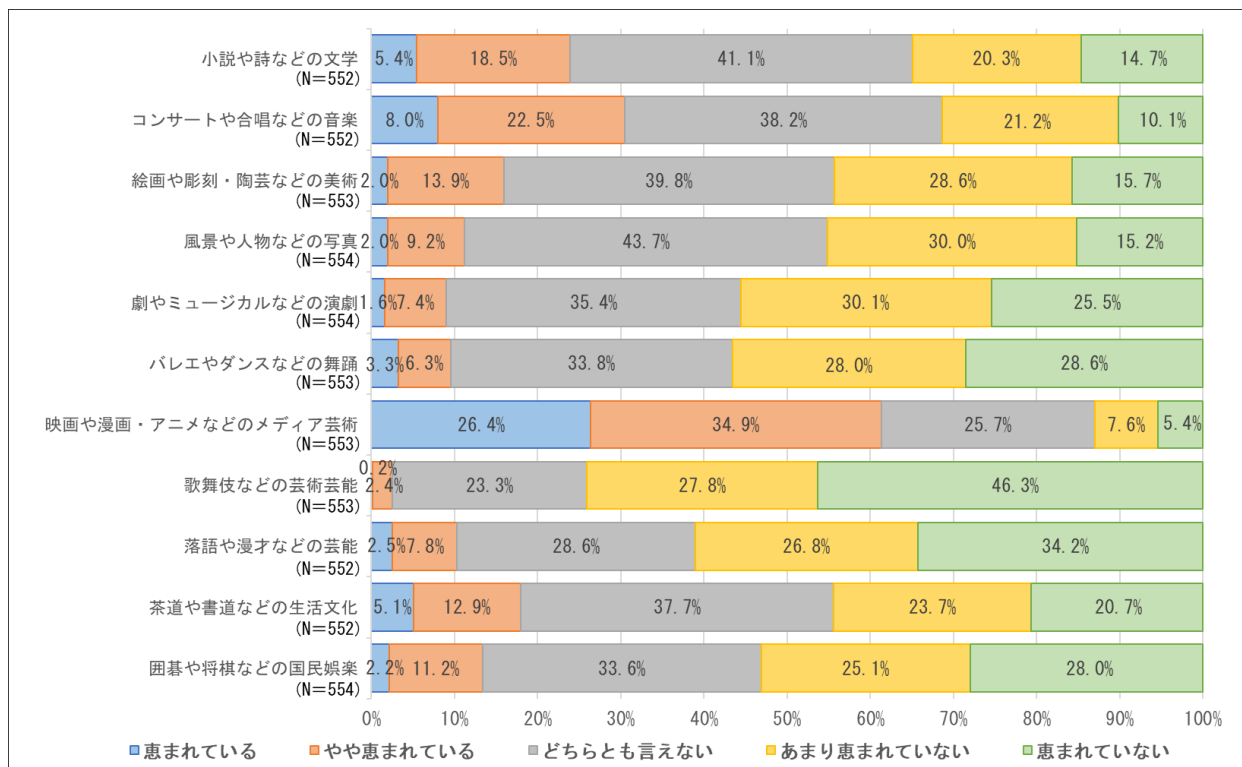
- 一部地域で例外があるものの、全体を通じてお住まいの地区や小学校の規模に関係なく、「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」「小説や詩などの文学」「コンサートや合唱などの音楽」に触れる機会の充実度が高くなる傾向がみられました。（図表 6-4、6-5、6-6、6-7、6-8、6-9、6-10、6-11 参照）
- 小松地区で「茶道や書道などの生活文化」に触れる機会の充実度が高くなるなど、お住まいの地区によって緩やかな差異がみられました。（6-5、6-6、6-7、6-8 参照）

図表 6-4 によると、「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」に触れる機会の充実度が最も高くなり、次いで「コンサートや合唱などの音楽」に触れる機会の充実度が高くなりました。

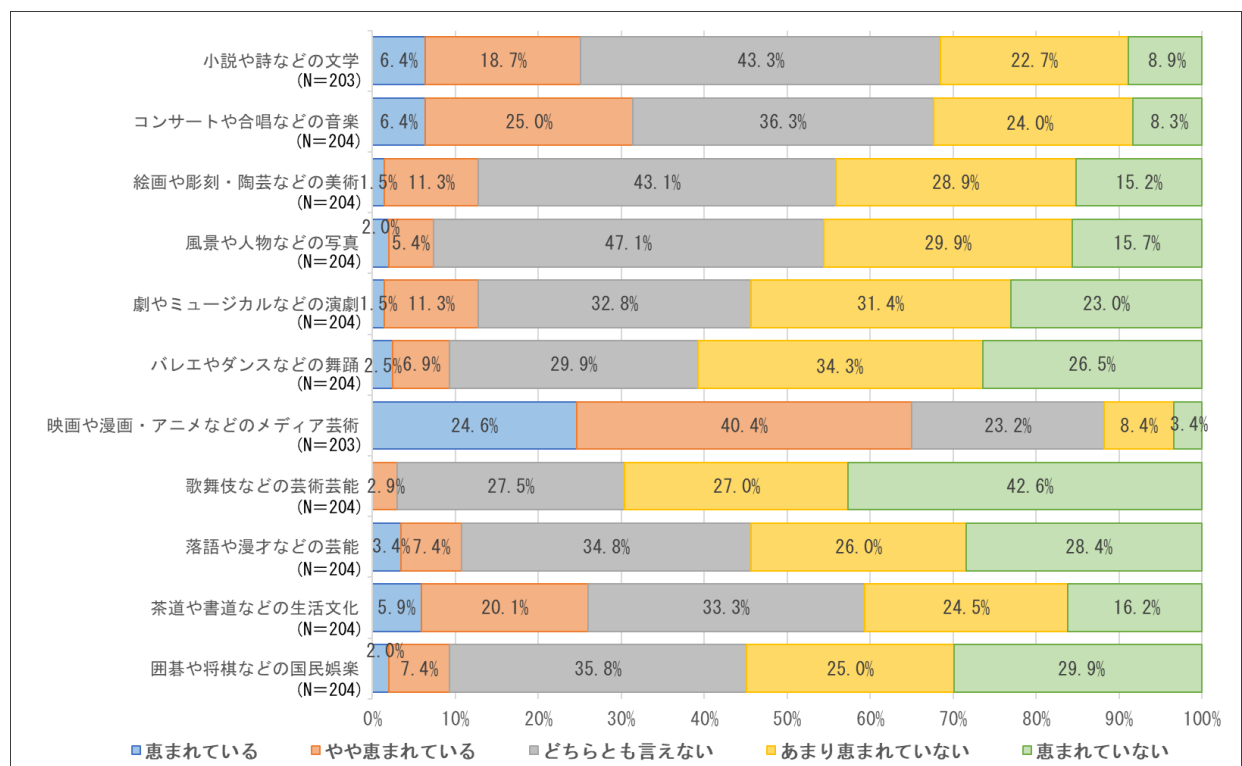


図表 6-4 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度（単純集計）

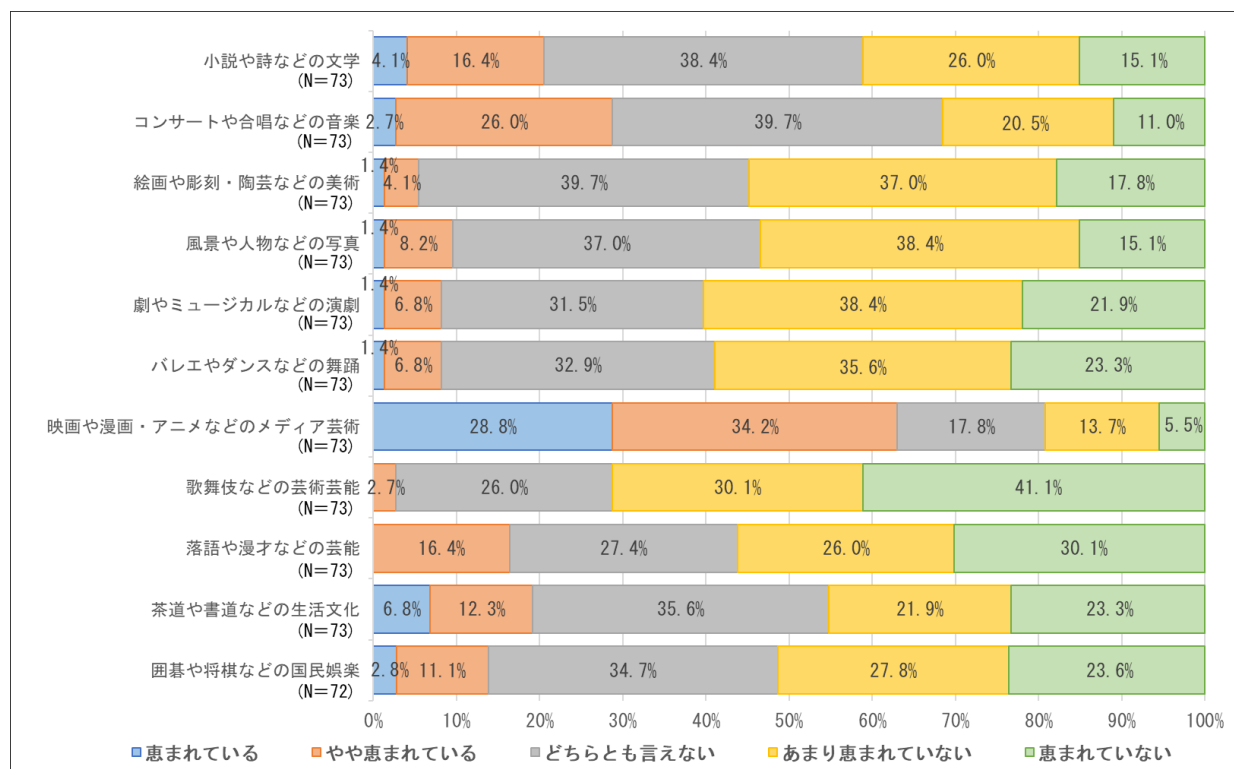
図表 6-5、図表 6-6、図表 6-7、図表 6-8 によると、すべての地区で「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」に触れる機会の充実度が最も高くなり、次いで「コンサートや合唱などの音楽」に触れる機会の充実度が高くなりました。また、小松地区で「茶道や書道などの生活文化」に触れる機会の充実度が高くなるなど、お住まいの地区によって緩やかな差異がみられました。



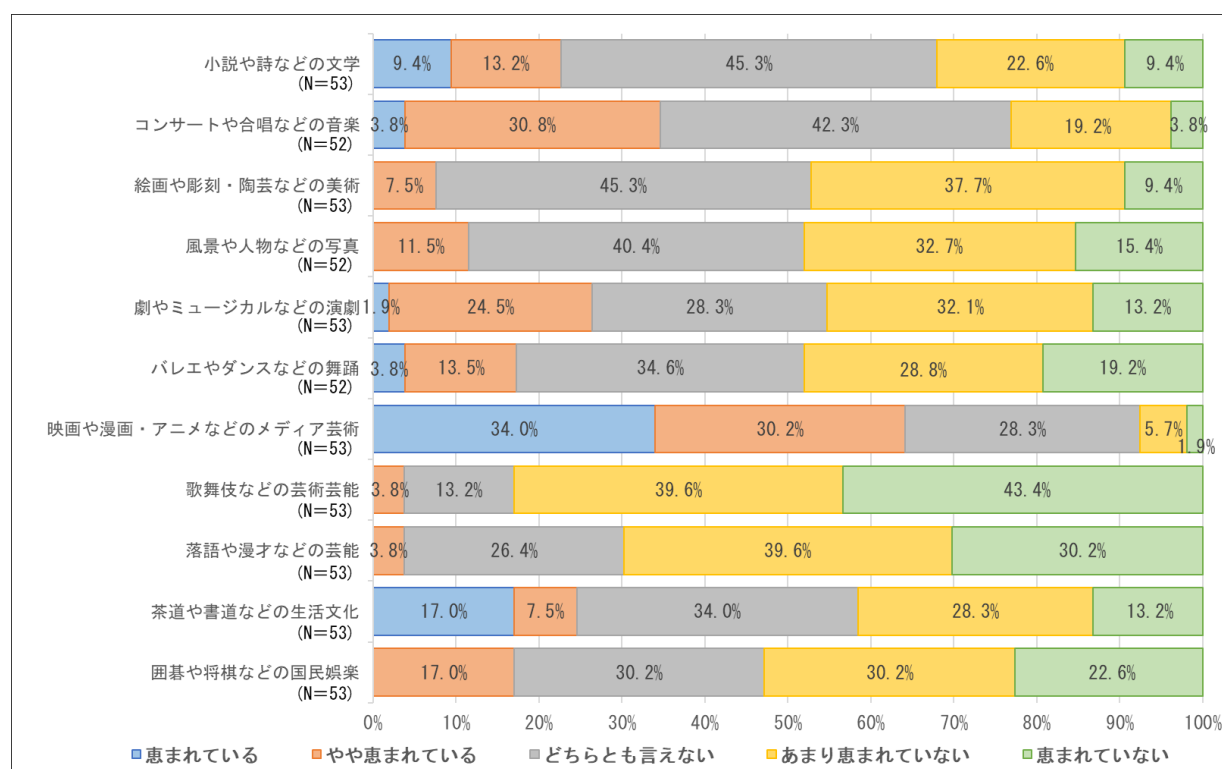
図表 6－5 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度（西条地区）



図表 6－6 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度（東予地区）

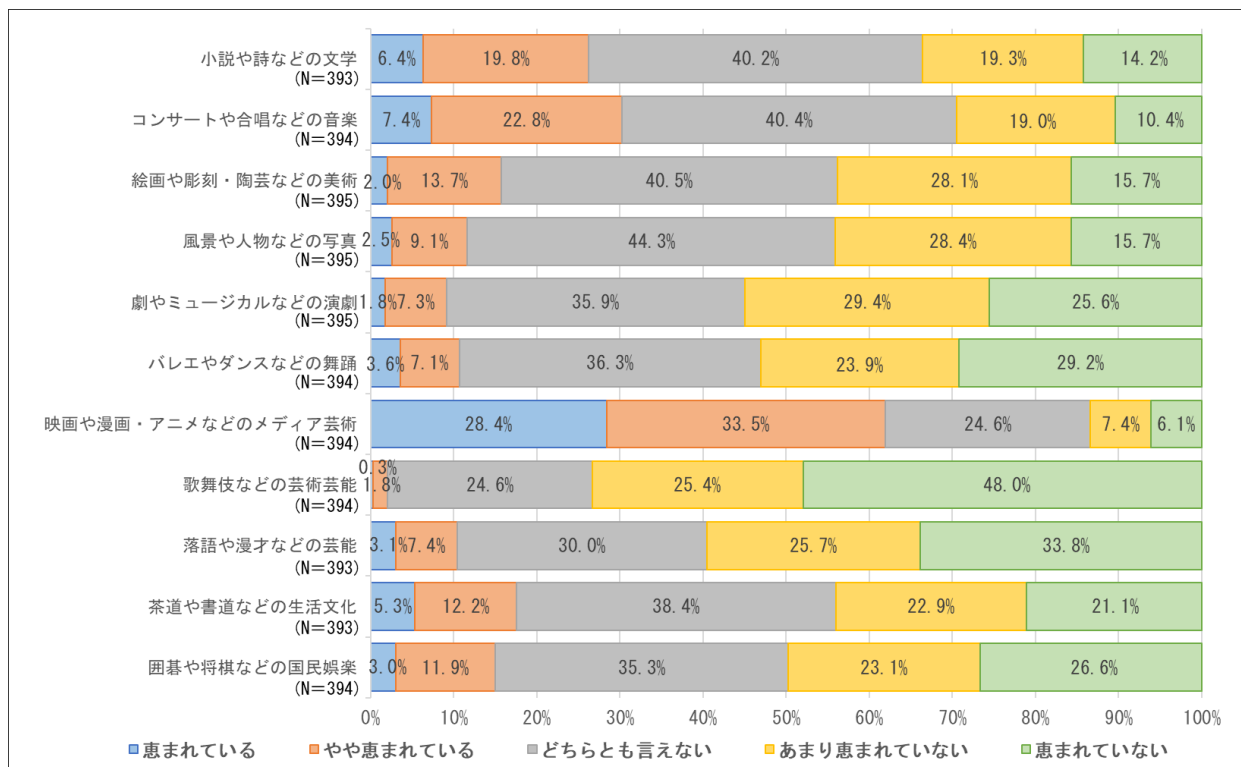


図表 6-7 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度（丹原地区）

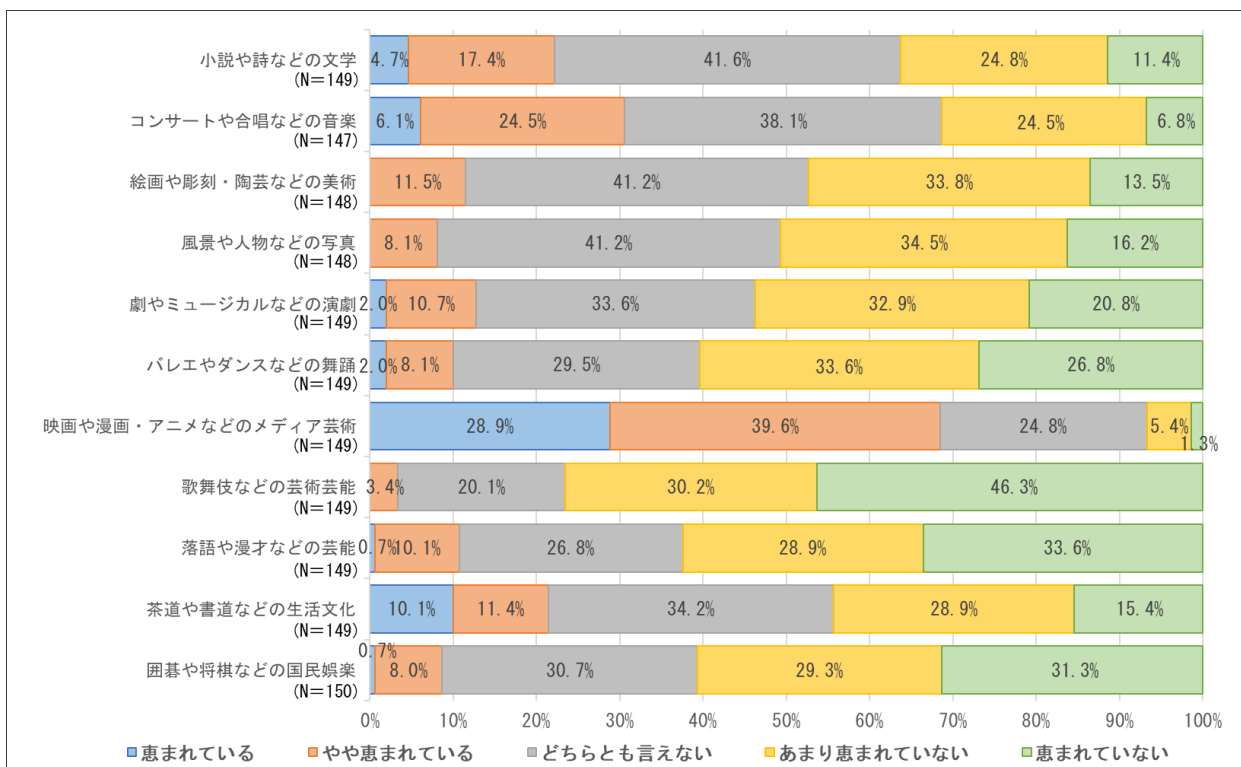


図表 6-8 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度（小松地区）

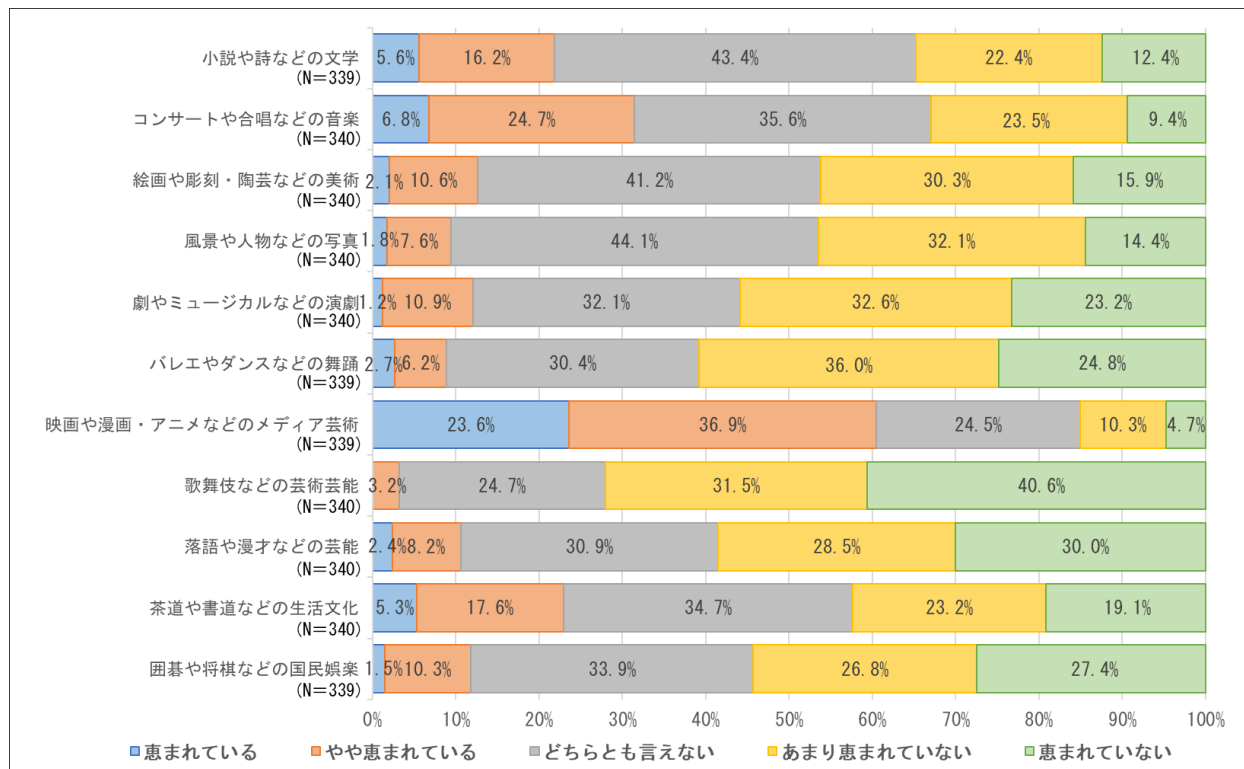
図表 6-9、図表 6-10、図表 6-11 によると、すべての規模の小学校小学校で「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」に触れる機会の充実度が最も高くなり、次いで「コンサートや合唱などの音楽」に触れる機会の充実度が高くなりました。



図表 6－9 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度（小学校規模別・大規模）



図表 6－10 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度（小学校規模別・中規模）



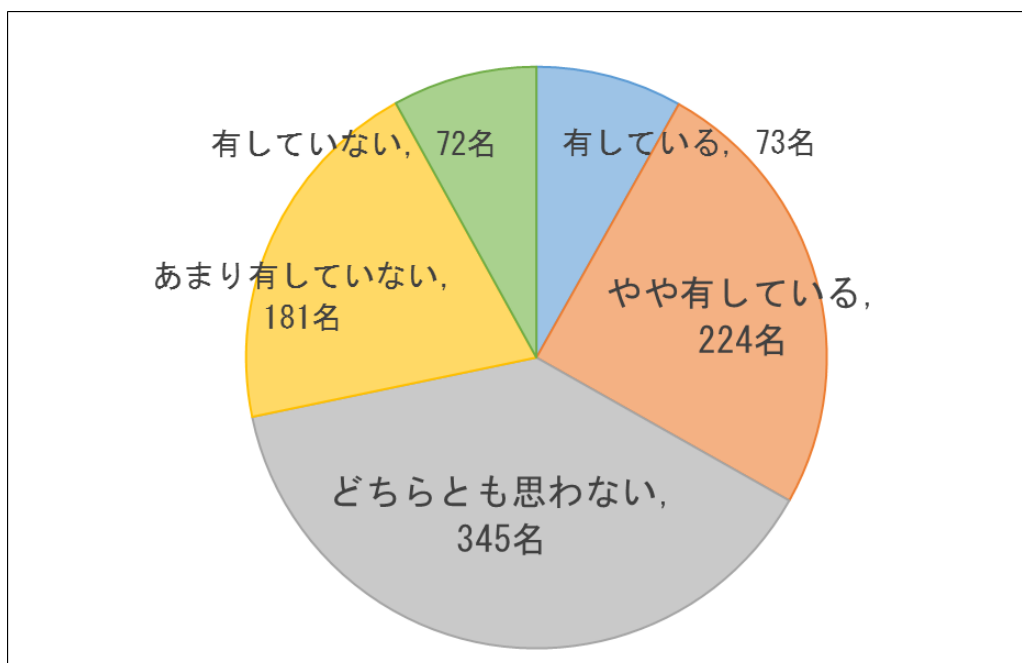
図表 6-11 小学6年生の芸術文化に触れる機会の充実度（小学校規模別・小規模）

（3）小学6年生におけるふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度

【結果概要】

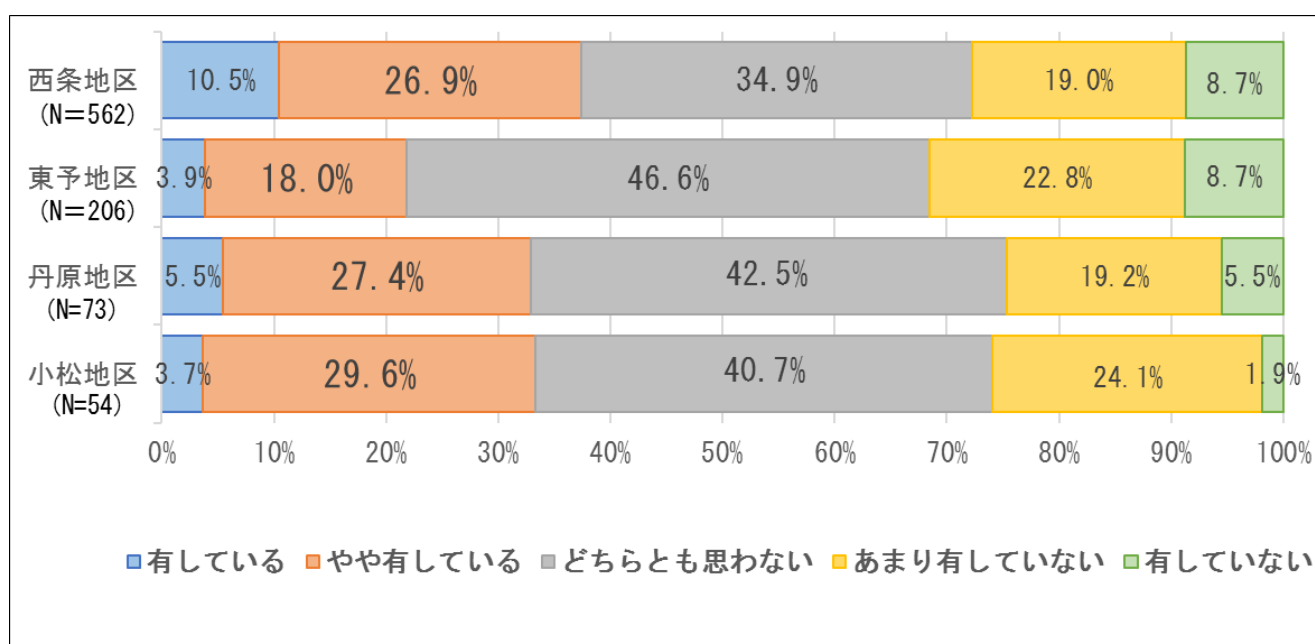
- ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を「有している」「やや有している」と回答した方と、「あまり有していない」「有していない」と回答した方が概ね均衡する結果となりました。あまり良い状況と言えないことから、何が要因となっているのか、いかに誇りや愛着度を向上させていくのか検討する必要があると考えます。（図表 6-12 参照）
- お住まいの地区別に、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着に対する捉え方に差異がみられました。今後、小学6年生におけるふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を向上させていくためには、地区別の特徴を捉えておく必要があると考えます。（図表 6-13 参照）

図表 6-12 によると、「どちらとも思わない」と回答した方が最も多くなり、次いで「やや有している」と回答した方が多くなりました。ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を「有している」「やや有している」と回答した方と、「あまり有していない」「有していない」と回答した方が概ね均衡する結果となりました。



図表 6－1 2 小学6年生におけるふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度
(単純集計) (N=895)

図表 6-13 によると、西条地区で故郷の歴史文化に対する誇りや愛着を「有している」と回答した比率が高くなる一方で、東予地区で「あまり有していない」「有していない」と回答した比率が「有している」「やや有している」と回答した比率を上回るなど、お住まいの地区によって差異がみられる結果となりました。



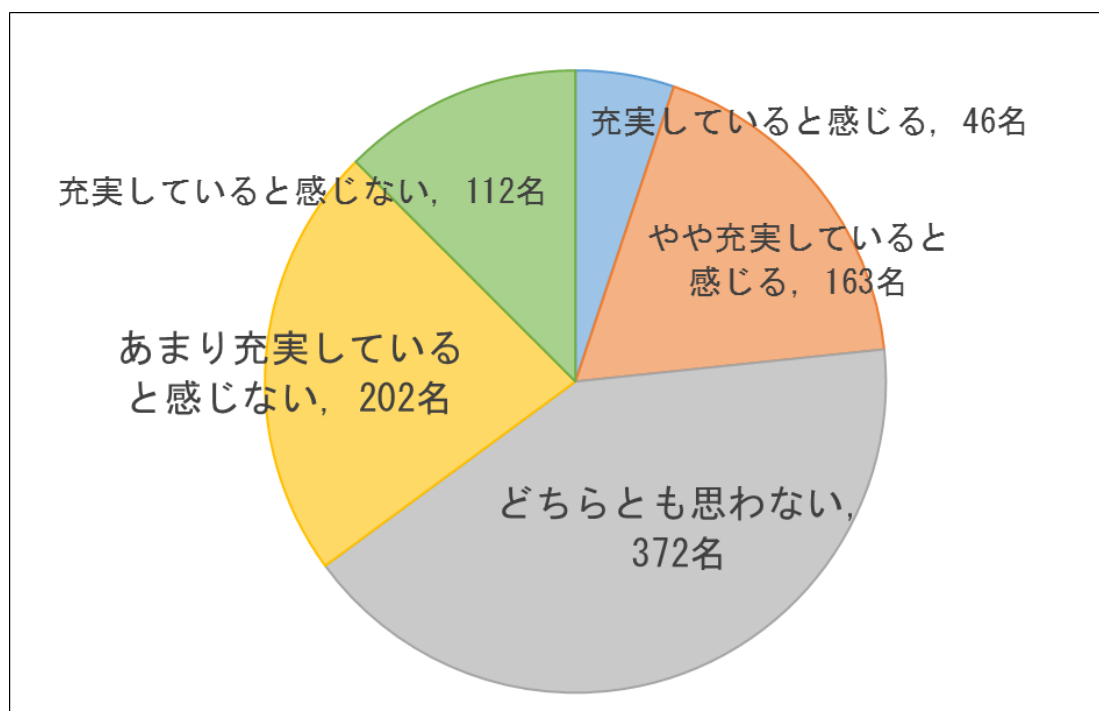
図表 6－1 3 小学6年生におけるふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度
(お住まいの地区別)

(4) 小学6年生におけるふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度

【結果概要】

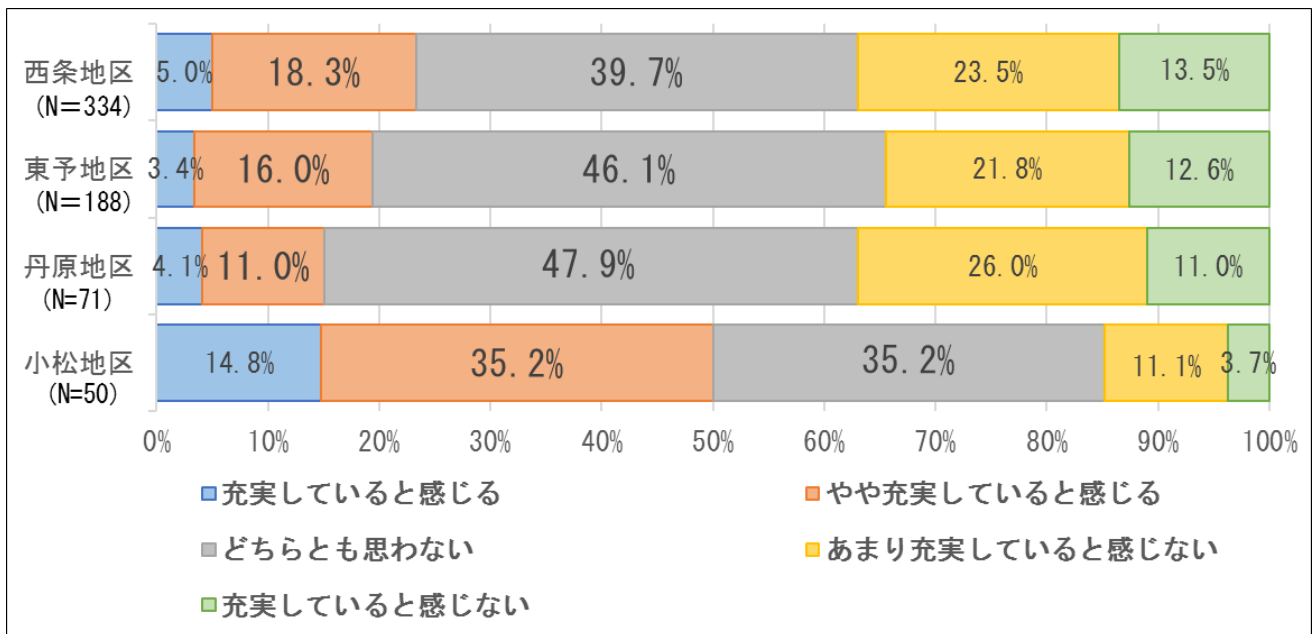
- ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「あまり充実していると感じない」「充実していると感じない」と回答した方が、「充実していると感じる」「やや充実していると感じる」と回答した方を上回りました。あまり良い状況と言えないことから、何が要因となっているのか、いかに先人の教えに学ぶ機会を充実させていくのか検討する必要があると考えます。(図表 6-14 参照)
- お住まいの地区別に、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度が異なる傾向がみられました。今後、小学6年生におけるふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を向上させていくためには、地区別の特徴を捉えておく必要があると考えます。(図表 6-15 参照)

図表 6-14 によると、「どちらとも思わない」と回答した方が最も多くなり、次いでふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「あまり充実していると感じない」と回答した方が多くなりました。



図表 6-14 小学6年生におけるふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度
(単純集計) (N=895)

図表 6-15 によると、他地区と比較し、小松地区でふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実している」「やや充実している」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。小松地区以外の地区では、「あまり充実していると感じない」「充実していると感じない」と回答した比率が、「充実していると感じる」「やや充実していると感じる」と回答した比率を上回りました。



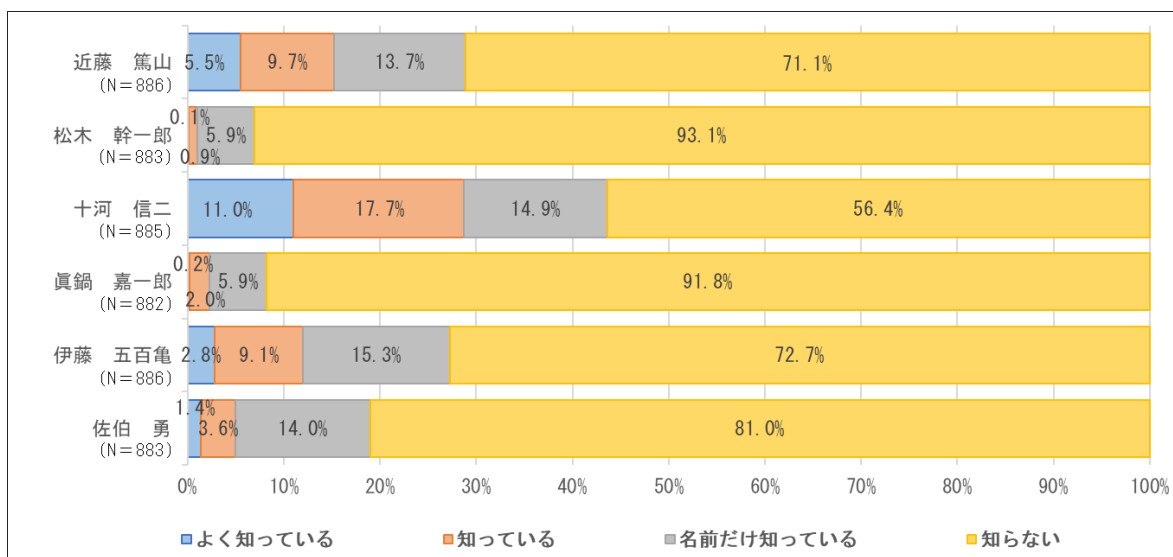
図表 6－15 小学6年生におけるふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度
(お住まいの地区別)

(5) 小学6年生におけるふるさとの先人に対する知識

【結果概要】

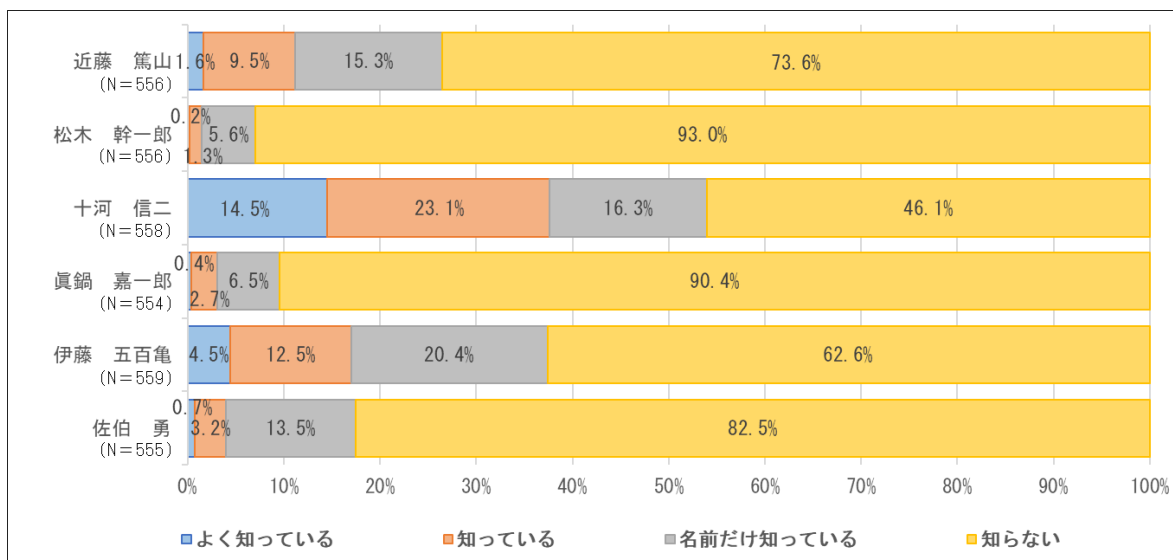
- お住まいの地区に関係なく、「近藤篤山」「十河信二」に対する知識を有していると回答した比率が高くなりました。(図表 6-16、6-17、6-18、6-19、6-20 参照)
- お住まいの地区によって、当該地区との縁やゆかりのある先人に対する知識を有していると回答した比率が高くなるなどの違いがみられました。特に、小松地区では 9 割の小学 6 年生が「近藤篤山」について「よく知っている」「知っている」と回答しており、先人教育が十分に行き届いているものと推察されます。(図表 6-17、6-18、6-19、6-20 参照)

図表 6-16 によると、「近藤篤山」「十河信二」「伊藤五百亀」に対する知識を有していると回答した比率が高くなる一方で、「松木幹一郎」「眞鍋嘉一郎」については名前も知らないと回答した方が全体の 9 割を超える結果となりました。

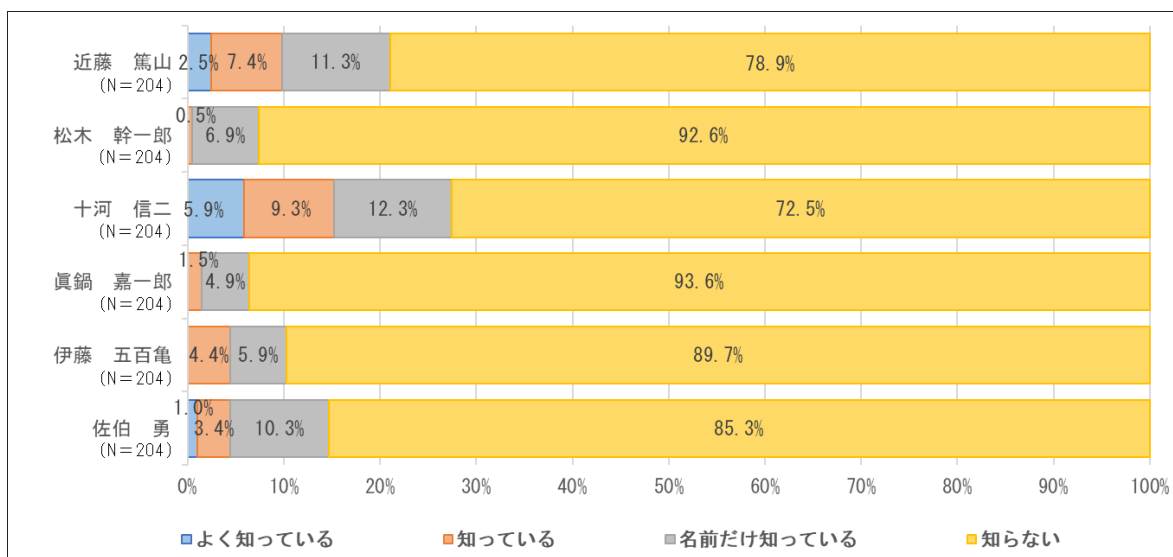


図表 6－１６ 小学６年生におけるふるさとの先人に対する知識（単純集計）

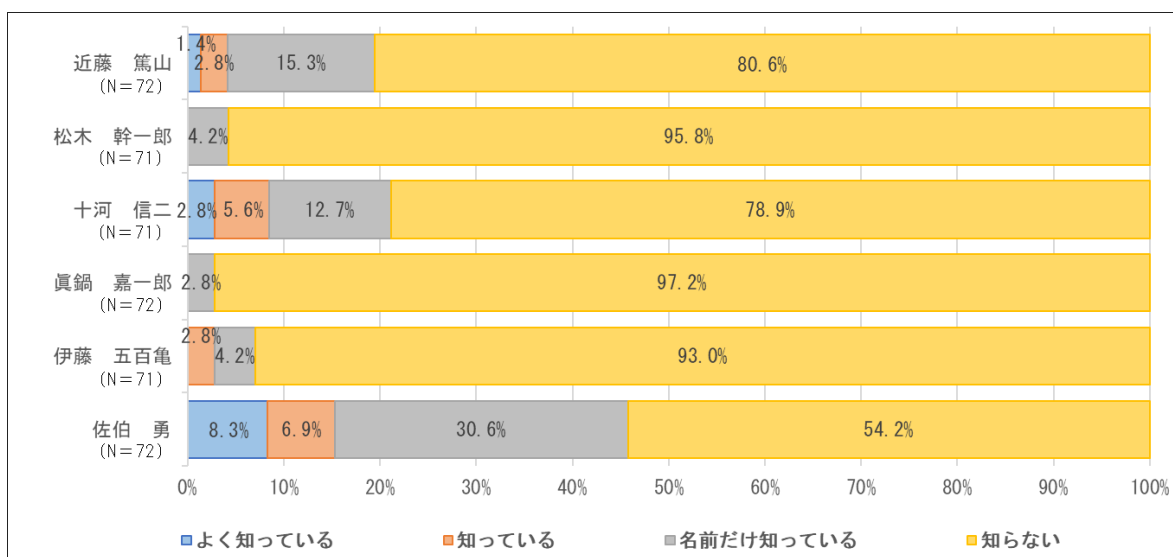
図表 6-17、6-18、6-19、6-20 によると、すべての地区を通じて「近藤篤山」「十河信二」に対する知識を有していると回答した比率が高くなりました。また、丹原地区では「佐伯勇」、小松地区では「近藤篤山」と回答した比率が高くなるなど、お住まいの地区によって先人に対する知識の充実度に違いがみられました。



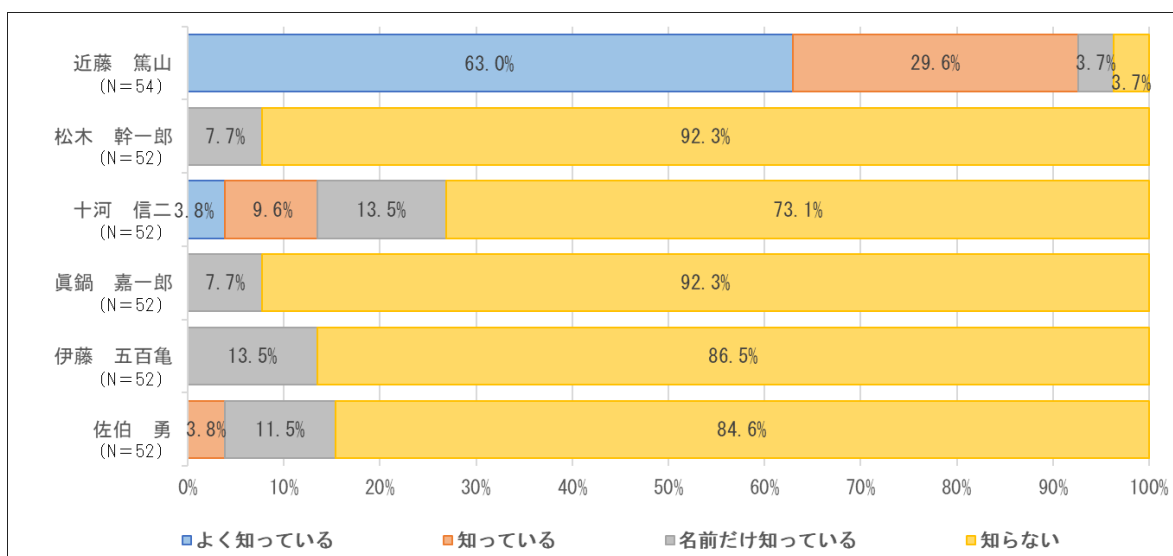
図表 6－１７ 小学６年生におけるふるさとの先人に対する知識（西条地区）



図表 6-18 小学6年生におけるふるさとの先人に対する知識（東予地区）



図表 6-19 小学6年生におけるふるさとの先人に対する知識（丹原地区）



図表 6-20 小学6年生におけるふるさとの先人に対する知識（小松地区）

7 参考資料（アンケート用紙）

西条市の教育に関するアンケート調査へのご協力のお願い (小学6年生 保護者用) ～みなさまのご意見をお聞かせください～

西条市では、「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の実現に向けて、国、県、関係団体等との連携のもと、豊かな心をはぐくむ教育・文化を実感できるまちづくりを進めています。

令和2年度は、西条市の教育行政における根本的な方針となる「西条市教育大綱」を改定する年度にあたるため、市民の皆さまのご意見を将来の西条市の教育行政の方向性に反映させることを目的に、本アンケート調査を実施することとしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年11月 西条市長 玉井 敏久 西条市教育長 伊藤 隆志

調 査 の 概 要

- 1 この調査用紙は、西条市立の小学校に6年生児童が在学中である保護者の方を対象に配布しています。
- 2 この調査票は、個人を特定できないようになっており、調査終了後は速やかに廃棄いたします。

日ごろ、感じていることや思っていることをそのままご記入ください。
- 3 必ず保護者の方がご回答ください。
- 4 ご記入後、「調査票」を返信用の封筒に入れて、12月4日(金曜日)までに児童を通じて担任の先生へご提出ください。
- 5 ご不明な点などがありましたら、下記の担当へお問い合わせください。

※なお、本アンケートにつきましては、本市が策定する「第2期西条市総合計画」第5章「豊かな心を育む教育文化のまちづくり」の体系にもとづき実施いたしますが、そのうち人権・同和教育の内容については、令和元年度に別の市民アンケート調査を実施しているため、そちらのデータを活用することとしています。

〒793-8601
西条市明屋敷164番地
西条市経営戦略部政策企画課（担当：大久保・石水）
TEL：(0897)56-5151（内線2150）
E-mail：seisakukikaku@saijo-city.jp

西条市の教育に関するアンケート調査票

質問 1

最初に、回答されるあなたご自身についておたずねします。

※ あてはまるものを1つ選び数字を○で囲んでください。

- ① あなたの性別を教えてください。

1 男性	2 女性	3 答えたくない
------	------	----------

- ② あなたの年齢を教えてください。

1	2 9歳以下	2	3 0～3 4歳	3	3 5～3 9歳	4	4 0～4 4歳
5	4 5～4 9歳	6	5 0～5 4歳	7	5 5～5 9歳	8	6 0～6 4歳
9	6 5～6 9歳	10	7 0歳以上				

- ③ あなたのお子様が通学する小学校を教えてください。

1 玉津	2 飯岡	3 西条	4 神拝	5 大町
6 神戸	7 禎瑞	8 橘	9 氷見	10 周布
11 吉井	12 多賀	13 壬生川	14 国安	15 吉岡
16 庄内	17 三芳	18 楠河	19 丹原	20 徳田
21 田野	22 中川	23 田滝	24 小松	25 石根

質問 2

学校教育についてあてはまるものを順番に選択してください。

※ 第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

- ① あなたは小学校がどのようなところであるべきだと思いますか。

- 1 子どもが基礎的な学力を身に付けるところ
- 2 子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ
- 3 子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ
- 4 子どもが人間関係を学ぶところ
- 5 地域コミュニティの核となるところ
- 6 避難所や体育施設としての機能のあるところ
- 7 その他（ ）

第一選択欄
第二選択欄

- ⑤ 西条市では、現在のところ小学校を統廃合するという考えを有していませんが、令和27年（2045年）までに市内半数の小学校が、1学年の児童数が10人以下になると想定されています。あなたのお子様が未来の小学校に通うと仮定した場合、あなたの考え方に最も近いものはどれですか。

- 1 複式学級の小学校に通わせたい
- 2 児童数が少なくても、複式学級になるまでは1学年1学級の小学校に通わせたい
- 3 一定程度の児童数がある、1学年1学級の小学校に通わせたい
- 4 一定程度の児童数がある、1学年2学級の小学校に通わせたい
- 5 一定程度の児童数がある、1学年3学級の小学校に通わせたい
- 6 一定程度の児童数がある、1学年4学級以上の小学校に通わせたい

選択欄

※ 複式学級とは

2つの異なる学年を1学級として編成して1名の教員が受け持つ方式。

授業の進め方によっては相互に学び合う姿勢が身に付く一方で、教員が授業で関わる時間が複数の学年に分散するため、きめ細やかな指導をする時間が確保しにくいことが特徴です。

愛媛県教育委員会では、小学校の場合は原則として、引き続く2学年の児童数の合計が16人以下（ただし、第1学年の児童を含む学級にあっては8人以下）になった場合に複式学級を設置することとされており、既に南予地域では44.8%の小学校で複式学級が設置されています。

- ⑥-1 あなたのお子様が現在の小学校を卒業した後、どちらの中学校（中等教育学校）に進学させたいと思いますか。

- 1 ぜひ住んでいる地域（通学区域内）の中学校に進学させたい
- 2 できれば住んでいる地域（通学区域内）の中学校に進学させたい
- 3 どちらとも思わない
- 4 できれば市外の中学校に進学させたい
- 5 ぜひ市外の中学校に進学させたい

選択欄

- ⑥-2 可能であれば、⑥-1で選択した理由をお聞かせください。

⑪ あなたは図書館に関連して、今後力を入れるべき点は何だと思いますか。

- 1 貸出および閲覧書籍の充実
- 2 雑誌・新聞の充実
- 3 図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入
- 4 館内や屋外広場を使用した様々なイベントの充実
- 5 館内での飲食を可能とする
- 6 館内での会話を可能とする
- 7 自分が住むまちの情報の充実
- 8 調べ物や読書などの相談ができる環境の充実
- 9 閲覧席の更なる充実
- 10 学習の場の更なる充実
- 11 その他（

第一選択欄
第二選択欄

質問 4 公民館についてあてはまるものを順番に選択してください。

※ 第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

② あなたは、平均して1年間でどの程度、地区の公民館を利用していますか。

- | | | | |
|---|---------|---|-----------|
| 1 | ほぼ毎日 | 2 | 週2～3回程度 |
| 3 | 週1回程度 | 4 | 月2～3回程度 |
| 5 | 月1回程度 | 6 | 半年に2～3回程度 |
| 7 | 年2～3回程度 | 8 | 年1回程度 |
| 9 | 利用していない | | |

選擇欄

矢印の部分は⑫で1回でも地区の公民館を利用したことがあると回答した方にお聞きします。

⑬ あなたは、地区の公民館の利用環境に満足されましたか。

- | | | | |
|---|-----------|---|--------|
| 1 | 満足した | 2 | やや満足した |
| 3 | どちらとも思わない | 4 | やや不満足だ |
| 5 | 不満足だ | | |

選擇欄

⑭ あなたは、公民館活動を通じて身に付けた知識・技術をどのような形で活かしていますか。

- 1 人間関係を広げ、仲間づくりにつなげている
- 2 趣味や特技に活かしている
- 3 健康の維持、増進に役立てている
- 4 活動をとおして人生を豊かにしている
- 5 日常生活に活かしている
- 6 まちづくり、地域づくりに活かしている
- 7 ボランティアなど地域活動に活かしている
- 8 知識や資格の習得につなげている
- 9 学習、スポーツなどの指導に活かしている
- 10 特に活かしていることはない
- 11 その他（

第一選択欄
第二選択欄

1

ここまで

- ⑮ あなたは公民館にどのような事業を期待しますか。以下の1から12までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

項 目		期待度				
		期待する	やや期待する	どちらとも言えない	あまり期待しない	期待しない
(記入例) ○○○の○○○○○○○○事業		5	4	3	2	1
ここから下が質問です						
1	健康・スポーツに関する事業	5	4	3	2	1
2	趣味に関する事業	5	4	3	2	1
3	地域の防災に関する事業	5	4	3	2	1
4	家庭や子育てに関する事業	5	4	3	2	1
5	地域課題解決に関する事業	5	4	3	2	1
6	地域住民や団体間のネットワークづくりや強化に関する事業	5	4	3	2	1
7	子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に関する事業 (放課後子ども教室)	5	4	3	2	1
8	子どもの学習支援活動に関する事業 (地域未来塾)	5	4	3	2	1
9	自然、社会体験ができる事業	5	4	3	2	1
10	青少年教育の推進に関する事業	5	4	3	2	1
11	地域の歴史・文化に関する事業	5	4	3	2	1
12	環境に関する事業	5	4	3	2	1

質問5 地域文化・歴史文化について、あなたの考え方としてあてはまるものを順番に選択してください。 ※ 第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

⑯ **あなたのお子様**は、どのジャンルの芸術文化に興味関心がありますか。

- 1 小説や詩などの文学
- 2 コンサートや合唱などの音楽
- 3 絵画や彫刻・陶芸などの美術
- 4 風景や人物などの写真
- 5 劇やミュージカルなどの演劇
- 6 バレエやダンスなどの舞踊
- 7 映画や漫画・アニメなどのメディア芸術
- 8 歌舞伎などの芸術芸能
- 9 落語や漫才などの芸能
- 10 茶道や書道などの生活文化
- 11 囲碁や将棋などの国民娯楽
- 12 興味関心が無い
- 13 その他（ ）

第一選択欄
第二選択欄

⑰ **あなたのお子様**は次のジャンルの芸術文化について、どの程度触れる機会（鑑賞や参加など）に恵まれていると感じますか。以下の1から11までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

項 目		充実度	恵まれている	やや恵まれている	どちらとも言えない	あまり恵まれていない	恵まれていない
1	小説や詩などの文学		5	4	3	2	1
2	コンサートや合唱などの音楽		5	4	3	2	1
3	絵画や彫刻・陶芸などの美術		5	4	3	2	1
4	風景や人物などの写真		5	4	3	2	1
5	劇やミュージカルなどの演劇		5	4	3	2	1
6	バレエやダンスなどの舞踊		5	4	3	2	1
7	映画や漫画・アニメなどのメディア芸術		5	4	3	2	1
8	歌舞伎などの芸術芸能		5	4	3	2	1
9	落語や漫才などの芸能		5	4	3	2	1
10	茶道や書道などの生活文化		5	4	3	2	1
11	囲碁や将棋などの国民娯楽		5	4	3	2	1

⑱ **あなたのお子様**はふるさとの歴史文化に誇りや愛着を有していますか。

- 1 有している 2 やや有している
3 どちらとも思わない 4 あまり有していない
5 有していない

選択欄

⑲ **あなたのお子様**はふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実していると感じますか。

- 1 充実していると感じる 2 やや充実していると感じる
3 どちらとも思わない 4 あまり充実していると感じない
5 充実していると感じない

選択欄

⑳ **あなたのお子様**は次のふるさとの先人について、どの程度の知識を有していますか。以下の1から6までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

項 目		認知度			
		よく知っている	知っている	名前だけ知っている	知らない
1	近藤 篤山	4	3	2	1
2	松木 幹一郎	4	3	2	1
3	十河 信二	4	3	2	1
4	眞鍋 嘉一郎	4	3	2	1
5	伊藤 五百亀	4	3	2	1
6	佐伯 勇	4	3	2	1

アンケートは以上です。

ご協力ありがとうございました。